

短大人事 伊藤日出男先生PT学科教授就任

4月の異動により、近江先生（元教授）が開業のため短大を退職（4.30付）され、伊藤日出男先生が教授に就任されました。全国で7人目のPT教授、すでに青森県士会では、祝う会が催されています。また、石川玲氏（1期生）が4年間の臨床から離れ、講師として、再び短大で教鞭をとられています。藤田智香子氏（2期生）は3年間の教職を離れ、東京で臨床・学業に専念され、また後輩の指導にもあたられています。各々の先生方から近況を寄せて頂きました。

新米教授の抱負

理学療法学科 教授 伊藤日出男

今回の理学療法学科の教授就任人事は、たまたま私がその“場”にいたというだけで、巡り合わせのようなものだと考えています。

選考の対象となった研究業績の中で、地域リハビリテーションに関するものが多かっただけに、短大とはいえアカデミックな大学臭さを多分に有しているわが弘前大学医療短大で、このような極めて非アカデミックな泥臭い分野の教授が誕生したことに、正直なところ自分で驚きと戸惑いを感じております。

地域リハビリテーションは単に機能訓練の指導に向くだけではたいして意味がないと思います。地域保健活動の分野に理学療法という武器をもった理学療法士がどのように関わり合い、住民の健康や福祉に貢献できるのかという視点を持つことが重要です。今後ともその目的を自覚しながら、その方法論の確立に向かって努力したいと思っています。

難病患者との出会いから

理学療法学科 講師 石川 玲

短大卒業後助手として過ごした4年間、多くの指導を受けながらもそれを深めることをしなかったために自ら招いた壁におち当たり、それを越えられず、臨床へと飛び出しました。

そして自分にとっては全くの未知の進行性筋ジストロフィー患者と過ごした4年間。“最近呼吸が苦しくなったのは何故だろう”とPTに否定する回答を求めたK君，“俺の病気を直せないなら肩を揉め”と理学療法法の限界をいやというほど思い知らされたALSのSさん，“呼吸が苦しい何とかして下さい”と懇願する末期状態のS君、といった今は亡き人達。そしてギターを両面テープで指に張り付けながらも歌い続けているTさん、心機能が低下し死の危険があっても好きなアイドルのコンサートに出かけるK君、こうした人達から学んだことは、PTに求められる3Hの特に“Heart”の部分であったと思う。

現在短大では、科目では運動療法を、学年は1年生を担当しています。今後は、若木病院での出会いから学んだことを生かして“Heart”を持った学生の育成に努めたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

近江整形外科医院

近江先生は、5月1日に開院され、超多忙な日々を送られているため、医院の概況だけ紹介させて頂きます。

病床数 : 19床
診療科目 : 整形外科
スタッフ : 近江Dr・看護婦10名・放射線技師1名・楠美有理RPT
コンピューター技師1名・事務3名
整形外科の医院として最新の医療機器を取り揃えています。医師の診察内容はキーボード入力され、各部門ではそれぞれ端末からその情報を得るというように、カルテの記録、保管はコンピューターを用いてオンライン化されています。訓練室は時としてダンスホールともなり大変モダンな医院であります。

教官メンバー（敬称略）

教授 : 三浦孝雄Dr, 伊藤日出男
助教授 : 対馬均, 青木主税
講師 : 近藤和泉Dr, 石川玲
助手 : 尾田教, 桜庭清

就職案内、異動時必要な成績などの書類・・・様々な問い合わせは、御無沙汰ばかりでと遠慮せずに気軽に短大へ電話連絡をしてください。

募集 しています!!

同窓会研修会、総会等の際、名称があれば出張旅費の申請ができるので考えてほしいという要望がありました。

これぞ!と思う名称を同窓会宛に送って下さい。
お待ちしております。

東京都リハビリテーション病院

藤田 智香子

卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか?

私は3月に医療短大を退職し、花の東京にやって参りました。現在東京都リハビリテーション病院に勤務するかたわら、筑波大学の夜間大学院に通っています。

ここは生涯学習の観点から一般社会人を対象として開設されたところで、いくつか専攻があります。私はカウンセリング専攻のリハビリテーションコースに入学しました。リハ・コースはさらに、運動障害領域、視覚障害領域、聴覚・言語障害領域、知能・情緒障害領域、特別領域（前記の領域に当てはまらないもの）に分かれています。私は運動障害領域に所属していますが、他にやはりPTが2人、養護学校の先生が2人いらっしやいます。職種は違いますが、皆第一線でリハに携わり、それぞれ何かを抱えて大学院の門を叩いたばかりです。基本的にリハに関わっているという共通の立場と、それぞれの専門的な立場からいろいろ話ができ、とても刺激され、視野も広がるように感じます。

授業はPM6:20から9:00の間に二コマあります。人により違いますが（選択科目があるため）、週4日程度通っているようです。私の場合、通学に約1時間かかりますが、東京では普通とのことで、電車も頻繁に来るので、それほど苦にはなりません。なお、一番速い方は片道2時間かかるそうです。私は運よく(?) singleですが、家族のある方が多く、いろいろ大変なこともあるようです。

1日の勤務を終えて（無理やり終わらせて）、慌ただしく電車に飛び乗り、夕食も口に入れればよいほうですが、学校に来るとなにかしら発見があり、また大変なのは自分だけじゃない、とかあってストレス解消になるような気がします。私の場合、環境が一変に変わり、いろいろ大変だと思われるかも知れませんが、今のところはなんとかなり楽しくやっています。

東京で暮らすなんて、しかも大学院にいけるなんて自分でも信じられない気持ちです。これからどうなるかわかりませんが、今はたくさんのすてきな仲間や先生方と知り会えて、とてもよかったと思っています。皆さんにも転機というかチャンスの訪れる時があると思います。そのときは、自分にチャンスが与えられたことを感謝し、納得の行く選択して下さい。それでは、お元気で。

理事会報告 (91.4.4 医療短大於)

1. 部員の委嘱について

広報部 : 成田さおり、三上雅史、佐藤比呂子、古木名寿登、
対馬栄輝、阿保孝文、土岐浩志

会計 : 楠美有理

委嘱状はすでに発送しています。御協力をよろしくお願いします。

2. 各部局の活動に関する申し合わせ事項について

事務局 : 諸会議の管理、運営、総会の運営

理事会の連絡と運営、議事録の作成とニュース原稿作成

庶務部 : 事務連絡窓口、通信事務（廣帯関係）、公文書管理

広報部 : 同窓会会報の原稿依頼、編集、打ち込み、印刷、発送

会計 : 会計業務の管理、会費の徴収と督促

・楠美会計委員が会計実務を担当し、理事会での発言も認める。

・通帳を総合口座とし、1年間30万円を同窓会10周年準備金として定期預金する。

・広報部活動に対して、常時弁当を出す。

・会報発送費として広報部で5万円を管理する。

3. 今年度事業計画について

①総会は紙上総会とする。

②会員名簿の発行（担当尾田、会報no. 35と同時発送）

③会報の発行

④同窓会設立10周年記念事業準備委員会の発足

委員長 : 栗林輝生

実行委員 : 未定

10周年記念事業に研修会も開催することを確認した。

暑中お見舞申し上げます

春に原稿を依頼していたので季節がずれてしまいました。お詫びいたします。

第3期生 錢谷妙子 会員 (所属: 自宅)

前略 同窓会の皆様、お元気でいらっしゃいますか。“最近の出来事”という原稿依頼を頂きました。退職して8ヵ月、平凡な主婦業を営んでおります。4月より6年ぶりに弘前市民となり、懐かしく、又、都会的になった弘前を十分味わいながら暮らしております。

9期下の後輩達を、相変わらず猛進して教えておられる先生方に久しぶりに会えて、この学校を卒業して良かったな、と思う今日です。

共働き、PTとして頑張っている皆さんから比べると、主婦は暇でしょうと言われるが、1日24時間、私なりに結構楽しく過ごしています。今日は何をしよう……今日は何を食べようか……1日3食、魚を好んで食べる我家では今日はどの魚をどう捌いてやろうか……など。

……今日はどんな患者さんが来るだろう
……今日はどんなアプローチをしようか
……今日はこの患者さんにこんなことをしてみよう……

と、いうのと同じ、PT業は人生にも重なることが多いものです。

また、家事をしているには、調理の仕方、味つけで、同じ材料でも変化する楽しさがあること。病んでいらした患者さんもPTによって人生に展開が生まれるでしょう。

PTは自分のもち味を活かして様々な患者さんに治療できるという、すばらしい職種であること、一步、PTから離れてみて、客観的にみる事ができるようになりました。

皆さんは、Head、Heart、Hand (3H) を使って、自分のもち味、かくし味を出し、活躍されていると思います。PT業を離れて、現職から取り残されていくような焦燥感も多少ありますが、家庭的にもPT的にも年数をかけて、自分の味を出していこうと思っています。

健康に留意し、お互い頑張りましょう。

弘前は緑がいっぱいです。 では、また かしこ

第2期生 山田 伸 会員 (所属: 青森県立中央病院)

みなさん、ご無沙汰いたしております。青森は今、樹木は一斉に芽生えだし、1年で一番さわやかな季節を迎えています。時が過ぎるのは早いもので、卒業してから7年も経ってしまいました。いまこうして振り返ってみると、この7年間、あれもこれもやらねばという思いだけが熾層にも積み重なってしまい、反省している今日のごとです。

さて、最近の私の身の上の出来事と言えば、3月17日に長女(命名美帆)が誕生し、とうとう私も一児の父親となってしまったことです。この日はちょうど当院で青森県士会の理学療法研究発表会がありまして、その席で学術奨励賞というものをおいただきました。予定日を8日過ぎてもなかなか出て来ないのんびり屋の娘も、父親を祝福しようと思ったのか、ようやく母親のお腹から出て来てくれました。しかし、「土・日曜日と夜間だけは出て来てはだめだよ」とお腹の中にいるうちから言っかけていたのですが、よりによって日曜日の夜間に出て来てしまいました(しっかりと割増料金をとられてしまった)。まったく、めこい娘です。

生まれてくるときに、頭に大きなこぶを作ってしまった様で初めは大変心配しましたが、2ヵ月を過ぎた現在では、こぶはほとんど目立たなくなり、発達も正常のようであると安心しています。また、赤ん坊というのは、起きる時間は大体決まっています、釣り・朝野球と早朝から活動する機会の多い私にとって娘の泣き声が目覚まし代わりになってしまったようです(眼い、眼い)。この、めこい娘の顔を見たい方は、ぜひ御一報下さい。それでは、また会う日まで。

第1期生 樹田康子 会員 (所属: 福井医科大学1年)

皆様こんにちは。お元気ですか。

弘大医短を卒業してから丸8年、時の流れの早さを痛感しています。卒業生の近況報告を読む度に、みんな頑張っているなあ、私も頑張らなくちゃ!!と刺激されてきました。そして卒業9年目の現在、また学生生活を送っています。地域医療をやりたい、それは弘大医短での地域への授業の一貫として行われた在宅訪問をしたときから芽生えていた気持ちです。それが日々の仕事の中でどんどんふくらんでいき、地域、特に在宅医療をするにはPTだけの知識や技術だけではなく、もっと医学的に広い知識が必要だと思いました。そして、もっと勉強したい、もっと自分にできることを広げたい、そういう思いから、この4月より、福井医科大学に入学し、1から医学を勉強し直すことになりました。今は2年度目の学生生活なので、やることをたくさんやりたいと思っています。

福井医大は田んぼの真ん中であって、周りは何にもないところ。静かで遊ぶところがないので勉強するには最高と思っていますが、それでも、一回りも年の違う人達と一緒に結核学生生活を enjoy しています。3年生4年生になると覚えることがたくさんあるので、今少し遊びまくっています。

人生いろいろ、私の人生予想もなかった方向に進んでいますが、今の私の気持ちを大切にしていきたい、今を精いっぱい生きたい!そう思っています。皆様もそれぞれの想いがあると思いますが、まずは暑さに負けず一生懸命頑張りましょう。

第5期生 館山祐子 会員 (所属: 医療法人朝倉会あさくらホーム)

ただ、ラッキーだったんだと思います。私がオーストラリアに行けたのは……帰国後半年以上たち、すっかり現実にはまっけて今、向こうで過ごした7ヵ月は夢だったようにしか思えませんが、夢にしては色々なものを失い、そして失った以上に沢山のものを得たなあという気がします。日本で過ごす7ヵ月間では考えられないほど、様々な体験をし、様々なことを考えました。それを文章にしたらたまた長くなってしまいますので、メインであった、約2ヵ月のオーストラリア一周旅行中のトビックスを紹介しようと思います。

私と同じように、または私以上に大胆なことを考えている方、夢を実現させるため、頑張ってみて下さい。それと引き換えに失うものも大きいですが、平凡に毎日を過ごしていくのは簡単なことです。それを越えるようなエネルギーを持っているのは、若いうちだと思います。

オーストラリア一周旅行記

8月2日 Perth
8月3日 Perth
8月4日 Perth
8月5日 Perth
8月6日 Perth
8月7日 Perth
8月8日 Perth
8月9日 Perth
8月10日 Perth
8月11日 Perth
8月12日 Perth

8月13日 Perth
8月14日 Perth
8月15日 Perth
8月16日 Perth
8月17日 Perth
8月18日 Perth
8月19日 Perth
8月20日 Perth
8月21日 Perth
8月22日 Perth
8月23日 Perth
8月24日 Perth
8月25日 Perth
8月26日 Perth
8月27日 Perth
8月28日 Perth
8月29日 Perth
8月30日 Perth
8月31日 Perth

9月1日 Perth
9月2日 Perth
9月3日 Perth
9月4日 Perth
9月5日 Perth
9月6日 Perth
9月7日 Perth
9月8日 Perth
9月9日 Perth
9月10日 Perth
9月11日 Perth
9月12日 Perth

編者後記

◆雲仙岳とピナトウボ山の噴火、エルニーニョ現象、加えて湾岸戦争による環境汚染と地球規模で環境が変化していることを感じる今日この頃、発行も7月の予定が大幅に遅れてしまいました。(悪い訳にならない…) 全国の皆様大変申し訳ありません。今号は遅れてしまいましたと紙面の縮小をねらって、レイアウトを大幅に変えてみました。字が小さくて読みにくい(という同窓生はまだいませせんよ!?) こうした方が読みやすい、こういう記事を書いてほしい等の要望をお寄せ下さい。

◆前向きに頑張っている教員、同窓生の生き方は、私にとって発奮材料になりました。人生は思うようにはいかないことも多いように感じますが、もては考えよう毎日平凡でも何事もなく過ぎていくことは幸せなことでもあるので、若干停滞している人も夢と希望を見つけて、夏を乗り切りましょう。(河)

Apple Road no. 35

発行：1991年 6月 6日
 責任者：石川 玲
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部
 理学療法学科研究室内

TEL0172 (33) 5111 内線5676

紙上総会の実施について 会長 石川 玲

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
 さて、平成3年度の同窓会総会は、紙上総会といたします。会計年度は2月末日締めとなっておりますが、今回の紙上総会の実施が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。なお、下記に議題を掲げましたので、ご検討の上、同封の用紙にて回答下さるよう重ねてお願いいたします。(6月15日必着)。

《 第1号議案 》 平成3年度事業報告および決算報告

1. 事業報告

- ・新入会員 14名(会員総数162名)
- ・会報の発行 (Apple Road No.33-34)
- ・理事会の開催 第1回(91. 4. 4) 活動計画、同窓会運営について
 第2回(91.12.17) 10周年記念事業準備委員会発足
 委員長：栗林輝生
 委員：館山智格 土岐浩志 山口美穂子
 第3回(92. 2.24) 10周年記念事業について

・祝電発信

2. 決算報告

収入		
会費収入	179,000	未納者 94名
前年度繰越金	295,020	
雑収入	1,352	
合計	475,372	
支出		
事務費	3,672	タックフォーム、その他
通信費	22,979	ニュース発送
慶弔費	7,198	祝電 7件分
会議費	4,050	理事会、10周年準備委員会
合計	37,899	
次年度繰越金	437,473	

★会費未納者が、94名にものぼっております。理事会では、活動の停滞に加え、同窓会会員全体の関心の低下に、危惧を抱いております。紙面の都合上、未納者名簿は掲載いたしません。お心当たりのある方は、今年度会費とともに納めて下さるよう、お願いいたします。

《 第2号議案 》 平成4年度事業計画案および予算案

1. 事業計画

- ・10周年記念事業の開催
- ・会員名簿発行
- ・同窓会運営の見直し(継続課題)
- ・会報発行

2. 予算案

収入		
会費収入	580,000	新入会員 3,000×24名 92年度分会費 2,000×160名 91年度未納分 2,000×94名
前年度繰越金	437,473	
合計	1,017,473	
支出		
10周年記念事業	300,000	式典他
事務費	50,000	FDD, 封筒
通信費	100,000	ニュース発送, 名簿発送
会議費	50,000	理事会他
慶弔費	10,000	慶弔電報
雑費	10,000	
予備費	497,473	繰り越し予定
合計	1,017,473	

《 第3号議案 》 選挙管理委員3名の選出

今総会では、選挙管理委員を選出することになっています。選挙管理委員は同窓会会則第20条及び同窓会選挙管理規定第4条に基づき選出します。4月14日までに理事会に、古木名寿登氏、斎藤圭介氏、対馬栄輝氏より立候補の届け出がありましたので、今回は信任投票を実施します。信任される方は、別紙の該当欄に何も記入しないで下さい。不信任の場合は×を記入して下さい。

理学療法学科同窓会

10周年記念事業の開催について

同窓会会長 石川 玲

10周年記念事業準備委員長 栗林 輝生

今年度は、同窓会創立10周年の記念すべき年度に当たっております。理事会では、平成2年度同窓会総会において決議された10周年記念事業の実施に向け、平成3年度に10周年記念事業準備委員会(委員長：栗林輝生)を設け、この準備委員会と合同で記念事業の企画準備を進めております。以下に同委員会と理事会による企画案を提示しましたが、さらに企画の中に会員諸氏の意見を反映するためにアンケート調査を実施しますので、同封しましたアンケート用紙に記入の上、6月15日までに(必着)郵送下さいますよう、ご協力をお願いいたします。

【企画案】

- ・卒業後のトピックス
- ・学生生活を振り返って～各期3分間スピーチ
- ・思い出のスライド映写
- ・各期担任からのクラス紹介
- ・・・等

住所録の発行がもういっ!

名簿作成委員会からのお願い

同窓会10周年記念式典に合わせて会員名簿を配布する予定ですが住所・勤務先を把握できない会員が多数おります。郵送した場合、送り返されるケースもあり、また、架空の住所では、名簿そのものが無意味になります。事務局でもできるだけ正確な動向を把握し、皆さんに届けたいと考えていますので、転勤、引っ越し、結婚などにより住所、勤務先が変更になった方は、FAXでご一報をお願いいたします(医短P.T尾田宛、FAX No. 0172-36-0945; 理学療法学科研究室直送のFAXができました)。

新しい仲間が増えました！！ ～10期生卒業、国試合格おめでとう～

去る3月24日、10期生24名が卒業し、全員が同窓会に加入されました。4月から新しい環境の中で、社会人としての新たな第一歩を踏み出しております。今年は、関東方面に6名、北は北海道から南は愛知に至るまで、全国津々浦々に散らばることになりました。3年間に培った友情と弘大医短の看板と同窓会諸先輩を支えに（先輩の皆様、よろしくお願ひします）、前進して欲しいと願っています。尚、国家試験には、22名が合格しています。おこちてしまった人も、人生一度や二度の失敗は何のその、めげずに乗り越えて下さい。健闘を祈っております。

卒業生の就職先を同封しましたので、名簿の一部として活用して下さい。
さて、同窓生の近況報告、昨年末に4名の方から便りが届いております。NEWSの発行が大幅に遅れてしまったため、話題が半年もずれてしまいました。いつ掲載されるんだろうと首を長くして待っていたであろう方々、大変申し訳ありません。半年前に想いをはせて読んでいただければ幸いです……。

第5期生 橋本尚樹 会員（所属：長浜赤十字病院）

私の記憶に間違いがなければ、2年前(?)にもApple Roadに登場させて頂いたように覚えています。御存知の方もそうでない方も御無沙汰しております。

私の職場は地域の一般総合病院です。3年前より、中枢神経障害に対する運動療法の外来部門が開設され、私もその仕事に関わらせて頂くようになりました。一般総合病院でこういった事を行っていくという難しさに加え、私自身の知識、技術不足、経験不足など、惑いや疑問、不安を持ちながらも発展させていくべく、奮闘(?)しております。やっと少しずつ仕事を楽めるようになってきたかなというところです。これからだと思えます。また、皆さんにいろいろと教えて頂きたい事だらけです。どこかでお会いしたときに声をかけるかもしれません。突然手紙を出させていただく事もあるかもしれません。その節は、よろしくお願ひします。

第5期生 桜井康徳 会員（所属：老人保健施設マロニエ苑）

同窓生の皆さんこんにちは。私は、10月1日より国立病院から老人保健施設に職場を変えましたが、色々な面で今までとは違ってきました。公立から民間へ、病院から施設へ、急性期の疾患から慢性期の疾患へ、600床の規模から200床の規模へ縮小……と、ほとんど対象的に変わったように思います。まだ、数カ月しかたっていないので、今の職場について十分理解してはいませんが、現時点では、今まで患者さんをかかごこなしていくか一日が過ぎていたのが、ゆっくりと考えることができるような、少し心のゆとりが出来たような感じがします（だからといって暇になったわけではありません）。また、規模が小さくなった事で、色々な職種の人達と話し合う場が容易に作れるし、実行しやすいような気がします。まだ施設自体が開設して1年過ぎたばかりで、形が出来上がっておらず、これから自分で作り上げていくという点でおもしろみはあります。今までは、国立という重く厚い壁が自分をとりまいていた感じがあり、自由に動けないように思いましたが、それがなくなり、これからは自分がやりたい事を色々やってみよう、そうできるようにしていきたいです。

ところで話は変わりますが、現在脳卒中の死亡率ワースト1は本県であり、最近ようやく県の方でもワースト1返上に動き出したばかりです。本県には、県立の総合病院がひとつもありません。P.Tの数は全国で一番少なくなり、このことから医療過疎と書かれている本県の実態が少しわかるかと思えます。また、全国的に法人化に向けて動いている中、本県は人数の関係からP.T.O.T合同で行い、県の方でも支援するという話があったのですが、P.T sideで会員の同意が得られず、準備委員会を解散してしまったという有り様です。今後、本県の医療を発展させていくには、色々と言葉を交わすことだと思っていますが、自分の生まれた所ですから何とかしたいという気持ちがあり、本県でP.Tを続けていきます。

同窓生の皆さんで、こういったところで頑張っている、日本の中で医療過疎と呼ばれる場所をなくそうと思っている方がいましたら、是非、栃木県に来て下さい。有志で集まって何かしましょう。とはいったものの現段階では自分でもどうしたらよいかかわからない状態で近くの仲間であたごうだと悪癖を言っているに過ぎない状態です。今度皆さんの色々な場所での苦労話や聞けるとよいと思っております。

それでは皆さん、寒い冬を元気で乗り切ってください。

第8期生 佐藤誠 会員（所属：秋田赤十字病院）

冬が駆け足でやってまいりました。布団のぬくもりが恋しいこの頃です。我が秋田日赤が運動療法施設認定を受けてから1年。ようやく病院内での存在感がでてきたところです。病院内の飲み友達も増え、財布の中味の出入りが激しい日々を送っております。川の流れの中で浮かんでアビに消えてしまうあぶくのごとく、私の財布の中からお金は消えていきます。秋田赤十字病院は、駅前飲み屋街と川反（弘前でいう鍛冶町）の中間点に位置し、何かと便利な環境です。そのせいか、一日の仕事を終えれば自然と川反へ向かいます。私は前から酒は好きでしたが、学生時代と違うのは、自分の稼いだお金で飲む事。ああ今飲もうとしているビールは、糖尿病のYさんが失禁してその後始末をした時の分なのだろうか。そう思うと早500のビールがいつもと違う、微かな甘味をおびてくるのです……。

第4期生 一戸美代子 会員（所属：弘前記念病院）

1991年は、湾岸戦争で幕があきました。世界情勢が二転三転する中で、米ソの冷戦は表面上は解消されつつあります。たぶんこの原稿がの頃にはソビエト連邦は名称も形態も変わっていることでしょう。

- ・1991年、私、一戸美代子は27歳になりました。
- ・自分がいやになりました。
- ・人の事より自分の事で精一杯でした。
- ・理学療法士という仕事が嫌いになりそうで不安でした。
- ・どんどん妥協していく自分が情けなかった。

- ・5年間勤めた職場をやめました。
- ・肩の力を抜くことにしました。
- ・理学療法士としての経験をゼロに戻すことにしました。
- ・『おだじに』を『ありがとうごさいました』に言い換えるのは大変でした。
- ・爪をのばすことができました。
- ・平日の映画館で映画をみました。
- ・病院内の常識は非常識だと改めて思いました。
- ・自分の居場所を探していました。

- ・P.Tは自己満足のために仕事をしていると、ある人に言われました。
- ・自己満足のために仕事をして何が悪い！
- ・大事なのは自分の知識と技術を常に高める努力をしているかということ。
- ・BESTよりBETTERをめざしていいんだと思う。
- ・理学療法士に向いているとは思わないけど、好きな仕事です。
- ・今年もシングルベルでした。

以上が私の1991年の出来事です。皆さんはどんな年でしたか？

人間は何のために生まれてきたのだろうか。誰もが中学生くらいにいきあたるジレンマではないでしょうか。結構、真剣に悩み、死ぬことを考えていた時期を経てみんな大人になってきたのでしょうか？

私はといえば――『人は幸せになるために生まれてきたんだよ。』――と言ってくれた人がいたから、今、生きているんだと思う。それなのに……。どうかしていたとも、思う。今思えば、幸せになる努力をしていなかった、とも思える。つまり、自分を妥協させないための努力をね。自分や周りを得させるための努力を、自分が満足できる仕事をするための努力を。さて、1992年、私は何をすべきなのでしょう。

Happy Marriage & Happy Event

沢山の会員が第二の人生をスタートしています。同窓会で把握している方々を掲載します。めだたいことがありましたら、同窓会事務局にもおすそわけ(ご一報)して下さい。

{赤吉女昏} 敬称略

1期: 太田由美子 H4.3.28

4期: 相場みどり H3.10 高見 彰淑 H3.10 新谷 修一 H4.4.17
(旧姓北原) 謝花 芳治 H4.5.9

5期: 日浦真木子 H3.3 黒木美保子 H4.3.21 遠藤 武秀 H3.8
(旧姓若井) (旧姓菊池)

6期: 内藤 麻生 H3.12 石屋 柳子 H3.12 阿部 一弘 H4.2.23
(旧姓神山) (旧姓鈴木)

8期: 五日市克利 H4.7.12

{誕生主} 敬称略

5期: 宮本 久 H3.12 (長男圭慈) 6期: 神 香 H4.5 (長女美咲希)

編集後記

◆大変ご無沙汰しております。皆さんお元気でしょうか。

◆4月から医療法が改正されて、リハビリテーションに関する点数は大きく引き上げられましたが、年齢、経過期間による矛盾は残されており、どれだけの病院が恩恵を受けられるのか、はたまたどれだけのP.Tの給料が上がるのか、大いに疑問が残ります。いかに活用していくか、腕の見せどころ、といったところでしょうか。

◆広島をはじめ、医療短大の4年制への取り組みが行われています。弘大も例外ではなく、着々と準備が進められている様子、短大卒から、学士、修士課程への道が開けてきました。

◆今年も同窓生の情報をキャッチして皆さんの近況を中心に編集してまいります。広報部(長)の怠慢で忘れた頃にやってくる同窓会ニュースとなりつつありますが、怒らずにご愛読の程お願いいたします。(河)

平成3年度 定期総会議事録

平成3年度の同窓会総会は、紙上総会となりましたので、結果をご報告いたします。

会員数186名に対し111名から回答がありました。したがって、同窓会会則第16条により総会は成立いたしました。結果は以下の通りです。

I. 第1号議案(平成3年度事業報告および決算報告)

..... 信任 111名 不信任 0名

【意見】

- ・事業計画が具体的でない。
- ・活動が足りない。
- ・予備費が多すぎる。
- ・繰り越しをするのであれば意味がない。会費をもっと下げるべきではないか。
- ・次年度繰越金が40万というの大きいと思う。会費の値下げは検討していないのか。会議費とか交通費とかもっと出してもいいのでは？

II. 第2号議案(平成4年度事業計画案および予算案)

..... 信任 108名 不信任 3名

【質疑・応答】(→理事会からの回答)

- ・第1号議案にて会員数162名だが第2号議案では180名である。
→会員数の違いは、既に平成4年度の会費を前納している会員が2名いたためです。
- ・会員名簿作成は、通信費に含まれるのでしょうか。(予算的に間に合うのですか。)
→会員名簿作成は事務費で附います。発送は通信費です。
- ・会議費について、平成3年度4,050円に対して平成4年度では50,000円、約10倍になっています。その内訳を教えてください。
- ・平成3年度支出と平成4年度支出予算案が大きく違っている。(事務費、通信費、会議費)の説明をして欲しい。
→平成3年度支出と平成4年度支出予算の違いについてですが、平成4年度は10周年記念事業があるため、準備委員会の会議費を見込んでいます。事務費は前年度行っていない封筒の印刷代・印刷用の紙の購入などがあります。通信費はアップロードの発行が前年度は2回のみでしたが今年度は4回を予定しています。
- ・予算案の支出で予備費と繰り越しは分けて欲しい。また、繰越金の目的について補足説明をして欲しい。また、会費と予算の約合がとれなくなったように思うがどうでしょうか。
- ・繰越金、予備費が年々増加している。会費引き下げてよいのでは。予備費と繰越金の問題ですが、会費の未納が非常に多いため、実際の収入が70万円程度になる可能性があり、10周年記念事業を考えると予備費と繰越金を明確に分ける事は、今回は非常に難しいと考えられます。
- ・10周年記念事業の30万円の内訳を教えてください。
→10周年記念事業の30万円の内訳ですが、大まかに記念品代(12万円)、旅費(8万円)、ニュース特別号(10万円)と考えています。

・同窓会運営の見直しを具体的に。

意見としてアップロード発行は1~2回/年でよいので、年1回くらい顔合わせ会等を含めて考えてはどうか(会員一緒でなくても)。→現在の同窓会の活動の実態と問題、今後の同窓会の活動と運営の指針を明らかにする必要があると考えます。

同窓会も10周年を迎えるにあたり、会員数もまもなく200名に達しようとしています。これに伴い全体を細かく把握する事が難しく、各期間の交流も困難になっている事も事実です。また会費の滞納も年々増加しています。さらに役員会自体も個々に忙しい状況で思うような活動ができていません。


このような状況の中で、ご指摘のように収入と支出のアンバランスも生じてきている他、いったん滞納が始まるとなかなか回収が困難になっており、会費納入の方法の検討(終身会費制など)、活動の簡略化(名簿発行と年2回のニュース発行のみとするなど)が求められています。これについては会則の改正案を含め具体的に提案し、会員全体の意見をまとめながら慎重に進める必要があると考えています。

III. 第3号議案(選挙管理委員の信任)

..... 信任 110名 不信任 1名

古木名寿登氏、斉藤圭介氏、対馬栄輝氏が信任されました。

以上、同窓会会則第19条により全ての議案は可決成立致しました。尚、同窓会の運営方針の見直しにあたって、臨時総会を開催する運びとなりました。総会の詳細、資料は、別紙(B5版)にてご案内いたします。



会費を払って下さい!

会費を未納している会員が90数名にも達しており、事業の実施に支障をきたしております。また、2年を越えて滞納している方は、退会勧告処分を受けることとなりますので、同封の督促状(郵便振替用紙)を確認の上、早急に納入して下さいようお願い致します。

尚、今後支払われる方は、郵便振替用紙の控えを領収書とさせていただきますので、ご了承下さい。

(同窓会の領収書が必要な方は、通信欄にその旨書き添えて下さい) 〆切は、11月22日、10周年記念事業当日までとします。直接会場で支払われる方は、確認のため、必ず郵便振替用紙を持参して下さい。

弘前大学医療技術短期大学部
理学療法学科同窓会

10周年記念事業のお知らせ

10周年記念事業実行委員長 栗林輝生

1983年3月に本同窓会が発足し、早いもので今年には満10年目を迎えました。この記念すべき節目にあたり、実行委員22名の総意で下記の事業を企画しました。できるだけ多くの会員と共に、10年を記念したいと思いますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますよう御案内申し上げます。

- 10周年記念の集い
母校で教鞭をとられた全ての先生方に来賓としてご出席頂く予定です。久しぶりに会う友や先輩、後輩、そして母校の教官と楽しい雰囲気の中で10年を振り返り、今後の戦いを誓いませぬか。
日時：平成4年11月22日(日)
午後3時~6時
場所：ホテル法華クラブ弘前店
(弘前市土手町 TEL 0172-34-3811)
会費：10,000円
内容：飲みながらの会食、学生時代のスライド上映
会員による卒後のトピックス etc.
- 広報 Apple Road 特別号 及び同窓会名簿の発行
会員からのメッセージなど10周年にふさわしい特別企画号と、名簿を1冊の冊子として発行します。
- 記念品の配布
全会員に10周年記念のテレホンカードを配布します。
※2, 3, 4は「10周年記念の集い」時に配布します。当日出席できない会員には、後日送付します。

※同封してあるハガキ、封筒、個人の名簿を確認の上、9月30日までに下記の手続きを行って下さるよう、お願いします。

- ①出欠確認
同封のハガキに、特別号掲載のためのメッセージを書き添えて、出席の有無を同窓会事務局までお知らせください。
- ②異議か眉を提出して下さい
名簿作製の確認のため、個人個人の名簿を同封しています。間違いがあれば、裏面に記入し直し、同封の封筒にて同窓会事務局宛に送って下さい。また、間違いがなくても、送り返して頂くようよろしくお願い致します。
- ③写真を募集しています
「10周年記念の集い」で“是非スライド上映してほしい”という写真がありましたら、同封の封筒にて同窓会事務局まで早めに送付して下さい。なお、写真は後日返却します。

多くの会員の出席をお待ちしております

残照拾遺 中へ続けたい

私の10年

第9期生 高山きよ江会員 (所属: 敬和会時計台病院)

同窓生の皆さん、こんにちは。9期卒業生の高山きよ江です。何故この私が、という疑問を持ちつつ、この原稿を書いています。私は平成3年に卒業し、札幌にある敬和会時計台病院に就職しました。一応「RPT」という名前を頂いて、働き始めてから一年ちょっとが経ちましたが、今だに悪戦苦闘の毎日です。自分の力が不足なのか、あるいは自分の持つ目標が高すぎるのか、自分の仕事に満足感を覚えたことはまだ一度もありません。そのうえ、病院が土日・祝日営業を開始し、なおかつエアロピクスインストラクターの養成を受けるために学校に通っているため、相変わらず忙しい日々を過ごしています。

しかし、自分が未熟であるにもかかわらず(未熟だからかもしれないが)、疑問を持っていました。私の勤める病院は最近「予防から治療までのトータルヘルスプラン」なるものを打ち出しました。しかし、病院の中の障害、傷害を持った患者さんに対する治療を行うP.Tは、予防に携わることは出来ないのでしょうか? 突発的な事故による障害ならいざ知らず、そうではない障害を持つ患者さんが何故こんなにも多いのかとつくづく感じます。その中で一番疑問に思うのは、何故こんなにも腰痛患者が多いのかということです。事故による骨折の後遺症等ならばいざ知らず、腰痛を持つ患者のほとんどが気をつけてさえいれば予防できるものなのですか? 何故なのでしょう?

多くの(皆さんと比べれば小人数ですが)患者さんを見、あるいはエアロピクスを通じて知り合った多くの「健康」と言われる人々を見ていて自分なりに考えてみました。生活習慣の変化、それによる姿勢不良(「姿勢がよい」ということに対する誤解)、腰痛予防のに対する誤解と無知が原因だ、というのが自分なりに出した見解です。「腰痛を経験し私はこうして治した」という人が広める間違った考えも一つ考えられます。

「こう気をつければ予防できる」ということを広めることは出来ないのでしょうか? 腰痛に限らず他の障害に対する予防的な指導は出来ないのでしょうか? それでは余りにもP.Tという仕事はなんて弱い職業なのだろうと感じます。病院の中で障害を持ってしまった患者としか接触できないのなら、もっとP.Tという枠を越えた所で人間として活動してその中で人々に必要なことを与えていくことが重要なのではないかと考えています。インストラクターというP.Tとある部分共通点をもつ資格を取ろうと思ったのは、この考えがあったからなのです。

一寸(それどころではないかもしれませんが)堅苦しい話になってしまいましたが、水泳と並んでエアロピクスほど解剖学に基づいて健康に気をつけているスポーツは無い、と自分で経験してみています。「スポーツクラブもまんざらではないな」といったのが正直な感想です。皆さんにもぜひ一度やってみて頂きたいです。スポーツに関する職業に就きたいと望んで目指したP.Tですが、学校に入って実は自分が考えていたほど関係がないと分かった時、これ以上はないといったぐらい失望し一度は退学を考えた私でした。結局一般病院に就職し失望を抱えたまま仕事を始めました。一時は「これでいいんだ」と自分に言い聞かせた私でしたが、結局スポーツからは離れられませんでした。でも自分の考えていることを改めて見直してみると、P.Tという仕事に染まりきっている自分自身に気づきました。いやー人間自分のことは自分が一番分かっていないとよく言いますが、本当にそうなのですね。

取り留めの無い文章になってしまいましたが、誰か一人でも「私も同じ」と言ってくれる人がいればいいな、それで自分を慰められるなどと思い、勝手ままに書かせて頂きました。介護福祉士等、医療の現場でP.Tと少なからず共通点を持つ職種が増え、P.Tの行動範囲が狭くなっていく中で少しでも穴を見つけてはそこへ矢を放ち、突き進むことが今後必要になってくると思います。もがき、あえぎながら皆さん頑張ってくださいませ。(まだまだ未熟な私がこんなことを言ってしまう、反感を持つ先生方もおられる事と思います。申し訳ありません。)

第8期生 菰田有紀会員 (所属: 自宅)

今、私はワシントン州のスポケーン市にいます。ここで暮らすのも、あと一週間となりました。北海道よりも北に位置しているのですが、日差しがとても強く、茶色の私でもサングラスを必要とします。そして、朝は4時30分頃から日が登り、夜は9時頃まで太陽がでています。気温は毎日34~35℃位あるのですが、湿度がないため、ただ単に暑いという感じですが、パンは、二週間おいてもカビません。物価は非常に安いのですが、消費税は8%とお高いです(もちろん、食品にはかかりません)。

この間、こちらのP.Tセンターへ見学に行ったのですが、一日14~15人の患者数で、非常に「て」をかけて訓練をしていました。私は、多くて40人の患者を見ていたと話したら、非常に驚かれ、一体どうやって訓練しているんだと聞かれてしまいました。そう聞かれて初めて「本当にどうやっていたんだろう」と思いました。私の勤めていた病院では、少なくても20人、多くて40人の患者数だったのですが、この数はだいたいどの病院でも同じなのではないかと思えます。こちらのよう、一日14~15人の患者数だと、満足いく訓練ができるのにな……と思えました。

それでは、今度は日本でお会いしましょう。
★夢だった留学留学のため、短期間渡米しているとのこと。7月31日の日付けで、アメリカから、AIR MAILが届きました。(広報部)

第4期生 阿多由実会員 (所属: 帝京大学医学部付属 溝口病院)

就職して早くも7年目を迎えました。娘も間もなく4歳になろうとしています。P.T、妻、母親と三役をこなしているといえは聞こえはよいでしょうが、実際にはどれをとっても中途半端にしか行えず、毎日いろいろしています。子は親の鏡とはよく言ったもので、私がイライラしていると娘まで情緒不安定になり、ぐずつくことが多くなります。また、私の胃動がそっくり娘に表れるものだからたまりません。最近ではなるべく怒らないように、できるだけ話しかけようように心がけてはいますが、まだまだどうしても手が先に出てしまうことの方が多いようです。なにせ娘は我がままでも甘えん坊、ひとりっ子の典型とも言える性格になってしまったものだから。全く、子育てとは良い人生勉強になります。しかし、娘の笑顔にはいつも救われています。職場で嫌なことがあった時、主人と喧嘩をした時、どんなことがあっても娘を見ていと忘れられます。ひょうきん者なので何時も見ている娘も随分と可愛いです。

P.Tとしては、8:30~17:00の最低限しか職場にいませんし、講習会等にも殆ど出席しません。要するにあまり勉強していませんので、経験だけで仕事をしているただの給料取りです。そんな私でも首にせざるうろと気を使って下さる上司にはとても感謝しています。大学を出たり、海外で仕事をしている友人もあり、沢山勉強しようと意気込んで都会に出てきた割には何も身につけていない自分に焦り、苛立った時期もありましたが、今はマイペースでのんびりいくのもいいかと思っています。世の働くお母様方、何かと大変なことも多いかと存じますが、共に頑張りましょう。

~~~~~ 住所変更に伴って、各地から便りが届いております

## 1期生 樹田康子会員

皆様、お元気でいらっしゃいますか。この4月より福井医科大学でまた学生生活を始めることになりました。今は、ドイツ語及び英語のヒヤリングの予習復習で毎日追われています。皆様もお身体を大切にしてください。

## 3期生 八代啓子会員

新潟では、早くも昨日梅雨入りしました。弘前では、皆様いかがお過ごしでしょうか。卒業以来短大へ顔を出すこともないまま、8年が過ぎようとしています。この間、私は3児の母親となり、子ども達の成長とともに自らも少しずつ変化しているように思います。残念ながら、今はP.Tとしての日々の業務に追われ、研修会にさえ出られず、内心焦りながら、P.Tの道を歩んでおります。いずれ、(あと5年もしたら……?) 余裕ができたら、短大にも顔を出したいと考えております。—— 手みやげに「越しの寒梅」をたずさえて……

追伸: ちなみに3児は全て男の子(4歳、3歳、1歳)。実のところ「育児」などというシロモノではなく、毎日が「戦い」なのです。

## 6期生 内藤麻生会員

変更届を出すのが遅くて申し訳ありません。H1,11,22に結婚し、H2,2,1で勤務していた札幌恵北病院を退職し、自宅におります。4月にはBABYちゃんが生まれる予定です。しばらくは普通のお母さんとして、今まで出来なかったことなど、経験してみたいと思います。  
★元気な赤ちゃんの名前も知らせてください。(広報部)

## 3期生田中明美会員、4期生相場みどり会員からも移動届が届きました。



編集後記  
◆7月~8月にかけて、蒸し暑かったり、妙に涼しかったり、皆さん風邪などひいていませんか。今回の私のページには、女性ばかりから便りが届きました。また、同窓会にも航空便が届くようになり、時代を反映しているなと感じております。  
◆最初からP.T一直線に進み、突進ばかりでみて向いていないのでは……と悩む人もいれば、誤ってP.Tになってしまったものの、経験を積むうちに自分の活路を見だして、まい進している人もいたり。仕事に限らず、他人からみて、どんなに大変なことでも、つまらないことでも、自分がそのことを好きであれば、生き生きと続けられるように思います。独身貴族に限らず、社会や家庭のしがらみに自由がきかなくなりつつある人も、現状に焦らず、落ち込まず、いくつになっても夢を捨てずにチャレンジできれば最高ですね。  
◆10周年記念事業、臨時総会に向けて皆さんにやって頂く作業が沢山あります。Newsをよく読んで、11.22の出欠確認の葉書、封筒には個人の名簿、スライド上映してほしい写真があれば、それも同封してポストに投函して下さい。会費の納入も、よろしく願います。



## 臨時総会議事録

平成4年11月22日に開催された臨時総会の結果について御報告致します。出席数15、有効委任状数107でしたので同窓会会則第16条により総会は成立致しました。結果内容は以下の通りです。

議題：同窓会会則の改正について

### 【同窓会会則改正案の説明】

- ・・・詳細は臨時総会開催のお知らせ(前号で配布)を参照のこと
- 第1章総則～「PT学科の隆盛に貢献」の一文を加える。
- 第2章会員～特別会員をなくして、学生を準会員とする。会費は終身会費とし3,000円とする(毎年20名卒業、年2回のニュース発行を条件として試算した結果、2021年までは黒字予算となることが示された)。
- 第3章事業～広報の発行を明記する。
- 第4章役員～理事を3人に減らす(事務局長と庶務部長の違いがはっきりしないため)。「罷免」を削除、選挙管理規定を破棄。
- 第5章総会～紙上総会は行わず、毎年1回必ず総会を開催する。そのため、総会の成立人数を明記しない。

### 【質疑応答】(→理事会からの回答)

- <第2章第6条, 準会員の適用>
- 第6条準会員は第7条の慶弔に関わる事項の適用を受けるのか?  
→第7条1, 2, 3のみ適応を受けることになる。
  - 総会に準会員は?  
→総会は正会員により構成される。
- <第2章第5条, 終身会費について>
- 会費5,000円ではどうか。
  - 事業費がかかる場合、特別会費の徴収を行い終身会費は3,000円でとめてはどうか。  
→役員会ではその方向へもっていきたい。
  - 会費納入済み(前納)の会員の扱いは?  
→前納者には返還を考えている
- <第5章, 総会について>
- 遠方者の出席が困難な状況で、紙上総会に多くの会員の意見を取り上げる形もすてがいが・・・。  
→広報を通して、事前に意見その他を集める努力をする。
  - 総会資料を前もって作る必要があるが、会長が交代するときはどうなるのか。  
→申し送り事項として引継ぎを行う。
  - 会計年度との関わりは? 2月末日で総会までの1ヶ月で資料が間に合うのか。  
→2月末日の締め直後資料配布、3月末総会開催となるので大丈夫。この総会にかかる費用は次年度の会計となる。
  - 少人数で役員を決めることになるのではないか。  
→あらかじめ理事会で検討し本人の了承を得て選出しておき、総会にて承認を得て決定する。

以上の討議の後、終身会費3,000円とし、同窓会会則改正案は承認されました。これに伴い、選挙管理規定は削除され、平成5年3月1日から施行されます。改正された会則は、別紙にて同封いたしました。

## 同窓会創立10周年記念事業決算報告

| 収入     |                         | 支出          |           |
|--------|-------------------------|-------------|-----------|
| 式典会費収入 | 540,000<br>(54名×10,000) | 式典会場費       | 607,677   |
| ご祝儀    | 190,000                 | 記念テレカ(210部) | 134,200   |
| 同窓会予算  | 300,000                 | 10周年記念誌     | 121,800   |
|        |                         | 来賓交通費       | 75,350    |
|        |                         | 会議費(食事代)    | 40,700    |
|        |                         | 事務費         | 27,330    |
| 合計     | 1,030,000               | 合計          | 1,007,057 |
| 残額     | 22,943                  | ・・・同窓会会計へ返還 |           |

(関連記事は裏面に記載)



## 定期総会開催のお知らせ

会則第5章第15条にもとづいて、平成4年度総会を下記の要領で開催致します。

記

日時：平成5年3月15日(月) 18:30～20:00

場所：弘前大学医療短大理学療法学科研究室

- 議題：第1号議案 平成4年度事業報告及び決算報告  
 第2号議案 平成5年度事業計画案及び予算案  
 第3号議案 役員及び会計監査委員の改選

## 菅原先生ご逝去



在りし日の菅原先生

### 略歴

- 1922.7.2. 岩手県一関市に生まれる
- 1950. 東北大学医学部卒業
- 1955. 盛岡赤十字病院整形外科医長
- 1959. 太平療育園園長
- 1960. 医学博士学位取得
- 1972. 「脳性麻痺の筋力状態表示法」の研究に対して高木賞授与
- 1980. 弘大医療短大PT学科主任リハ医学教授
- 1983. 日本整形外科学会認定医  
日本リハ医学会認定医
- 1988. 教授退官  
勝平中央病院院長  
外旭川病院院長

外旭川病院院長、菅原正信先生が、平成4年12月6日早朝、急逝されました。享年70歳でした。

菅原先生は、戦中、学徒出陣に駆り出され、特攻隊に配属になりましたが、無事復員。その後、医学を学ばれました。二十余年にわたって、障害児の療育に携わられたかわら、医学博士の学位を取得され、研究活動では高木賞を授与されるなど、数々の業績を残しておられます。晩年は我々PT・OTの教育に力を注がれ、昭和63年御退官後も、病院長として日々の診療にあたっておられました。同窓会10周年記念式典の際にも、御祝辞を頂き、元気な姿を拝見していただけたに、突然の御逝去がいまだに信じられません。12月13日、秋田市パークホテルにおいて病院葬がしめやかに行われ、同窓会からも生花・弔電をおくり、近隣の会員が参列致しました。

達筆な縦書きの板書、サンタクロースのような面もちで熱唱される「サンドイッチ・マン」・・・ケンタッキー・フライドチキンの前を通れば、菅原先生の姿とだぶって見え、涙がにじみます。教授という立場にありながら、生意気さかりの孫のような私達の声に、丁寧に耳を傾け、そして「・・・それ自体・・・」と穏やかな語り口で、臨床家としての「心」を刻み込んでいかれた菅原先生。母校の発展と、各々の立場でリハビリテーションに貢献していくことが、先生への恩返しになるものと思います。御冥福をお祈り致します。

## HAPPY MARRIAGE & HAPPY EVENT

輪廻転生、亡くなる命があれば生まれる命あり、便りが届いております

### ☆御誕生☆

- 2期生 金沢 善智会員 9月30日 長男 樹(いつき)君  
 5期生 遠藤 武秀会員 8月16日 長女 はるかちゃん

### ☆御結婚☆

- 5期生 馬目 芳具会員 4月11日 恵美子さん  
 5期生 小山内康夫会員 9月13日 正子さん  
 8期生 真壁 悦子会員 10月9日 武さん  
 (旧姓 坂本)



# 同窓会 10周年記念式典盛大に開催される

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

昨年11月22日、弘前法華クラブに、来賓の先生方11名、卒業生54名が続々とかけつけました。白衣姿で肉體労働に動んでいる日常からは想像もつかない、きらびやかな雰囲気の中で、PM3:00 粟林実行委員長の開会の挨拶で幕をあげました。三浦先生、今は亡き菅原先生から御祝辞を頂いたあと、教鞭をとられた先生方、教官、先輩、後輩が立場を忘れ、酒を酌み交わしました。卒後のトピックスでは、7期生村田ふじみさんから、「青森県青年の船（中国、韓国訪問）」参加の体験談、5期生大橋哲夫さんから、7月から海外青年協力隊員（PT教官）としてタイに派遣されることの豊富、5期生館山祐子さんから、オーストラリア一周旅行体験談を披露して頂きました。現在、海外青年協力隊員としてマレーシアに派遣されている4期生中村彩子さんからは、現地の障害者の実態、勤務している重度心身障害児・者施設の現状がスライドとともに送られ、紹介されました。スライド上映では、1～10期生までの学生時代の懐かしい（若かりし頃の）写真が公開され、爆笑の連続となりました。あつという間の三時間、その後は各期毎に懐かしの鍛冶町へ繰り出し、夜が更けるまで語り合いが繰り広げられました。全国各地で様々な立場にいる教育、同窓生が一同に集まり、同じ土俵で悩みや想いをさらけだして語り合える、ピンからキリまで、安心して、励まされたり。こういった雰囲気を築き上げた弘大医療短大理学療法学科同窓会の良さを改めてかみしめた一日でした。

出席できなかった方にも、あの雰囲気をあすそわけていただければと考え、来賓の先生方から頂いた挨拶と、同窓会員からの感想を紹介致します。（紙面の都合上、また酔いがまわってからの挨拶でしたので抜粋して掲載しますこと御了承下さい。尚、この会の二週間後に急送された菅原先生の御祝辞を、最後のメッセージとして全文掲載致します。）

## 菅原正信先生からの挨拶

【菅原正信先生】

おめでとうございます。皆さんにしばらくぶりに会って、学生のときの汚い格好と違い、顔も服装もキリッとして何か頼もしく見えてきました。こういう席に呼んでいただいて感謝申し上げます。

この間、札幌で肢体不自由児施設の全国療育研究大会に出席したついでに、釧路空港の近くの鶴公園に行きました。そこに高橋園長がいて、昭和42年頃から鶴の飼育を始めたことと、なぜ飼育を始めたかといふと、丹頂鶴が絶滅の危機に瀕している、ということで、何とか増やそうとしたのだそうです。鶴というのは子供を育てるにおいては、卵の時期から育てなければなりません。卵を抱いてから何日か経つと、卵から話が聞こえてくる。「このままじゃダメだから少し動かしてくれ」といふ。お母さんはそれを聞いて卵をひっくり返したり、置き場所を変えたりする。またクックと卵に声をかけてやる。すごく愛情を持っている。人間なんかとてもじゃないが飼育できないぐらいの愛情がある。彼は生まれてから飛べるまで一生懸命世話をしたが、ある時酒に酔って鶴の雛を踏み潰してしまつた、という失敗もあったそうです。全国の心ある人たちから、手紙をいただいて、やっぱり私は鶴を育てなければいけないんだということで、それから酒を止め、一生懸命努力したそうです。例えば鶴の飛び立ちを教える。手で羽を動かす真似をしながら空に飛び立たせる。鶴が飛び立った後で、「なんだおまえも飛んでい」といふ顔を見せられた時の自分の悔しさ、飛べない鶴のお父さんを感じた、という話もありました。鶴は一夫一婦の制度を守っていて、どんなときでも一度夫婦になったら二度と離れない。厳寒の冬の間にどちらかが欠けてしまうことも世の中の定めです。そういう時にじっとそばに立って死骸がほとんど見えなくなるまでずっと立ちすくんでいるということが習性の一つとしてあります。案外考えてみると人間よりもっともっとしっかりしたのが丹頂鶴である、という話を聞いて、私はものすごく感動して帰ってきました。その鶴の話と同じように10年前に卒業した人、次の年に卒業した人、そして10回の卒業生が一同に集まって、PTとしての形のすさまじさ、つらさ、難しさを語り合い、いつまでもそういう絆が続いていきます。私がここを去る際に21世紀を背負っていくのはあなた達だから頑張ってください、と申し上げました。この会も21世紀に向かってますます強固な絆をつくりあげながら、お互いに研鑽し、お互い励まし合つて、この同窓会それ自体をより立派なものにして頂ければ、みんなの仲間の一としてこれ以上うれしいことはないような感じが致します。一つこれからも一生懸命頑張って頂くよう、私からもお願い致します。どうもありがとうございました。

【三浦孝雄先生】

久しぶりに皆さんを拝見いたしました、それぞれ学生時代と違って、・・ダメなところは削れて、いいところは太くなるという、ウォルフの広張の法則のように・・引き締まった顔をしているということを非常に嬉しく思っています。

最近考えているのが、「継続」とか「持続」ということです。「継続は力なり」と考えています。良しきにつけ悪しきにつけ、同じことを続けているということとは力を持つということ。この同窓会もずっと継続して大きな力になっていくことを祈念致しましてお祝いの言葉としたいと思います。

【斎藤康弘先生】

PT学科は身体を動かさないとダメ。身体と心です。60まで頑張つてやろうと思っています。これからPT学科がますます発展するのは、頭だけではなく自ら自分の身体を使って、頑張ってもらいたいと思います。＊斎藤先生の言葉に、菅原先生から、「あなたが60まではやります、と言ってるがオレは70なんだぞ！いつまでも生きてる限りでしょ！（笑）」と訂正を迫る一幕がありました。お言葉どうり、生涯現役を貫かれた菅原先生の御冥福をお祈り致します。

【香川幸次郎先生】

「3H (Hand, Head, Heart)」・・・これらが弘前マインドだと思っています。弘前の歴史の中に「3H+継続」という、10年を超えた先の言葉をつくってもらえと、また違った時代が生まれるのかな？と希望しています。改めてあいう職場（神奈川県）から患者さんをみますと一番必要なのは「心」だと感じます。心が動かないと人は動かないんだと思います。それが臨床なんだ、と思っています。

【道藤伸一先生】

大学へ行くとか大学院へ行くとか勉強する人も確かにいるのだけれど、弘前のいいところは地域リハとか非常に地味な仕事をやっている、というのも意外に自慢になるのではないかと考えています。

遠慮はいいません。世界はどこでもいいから活躍して欲しいなあと思っていますので、今後とも同窓会とともに皆さんの活躍を期待しています。

【小野洋一先生】

今、公立金本病院というところでPTやってます。みんなと同じようなことで悩みながら頑張ってますので、何かありましたら酔っぱらって電話くれるの大好きなんで（笑）、する方も好きですけども、くれる方もすごくうれしんですね。大体24時間やってますんで、よろしくお願ひします。

【對馬均先生】

卒業生というのは財産だと思っています。この先10年何をみて過ごすか、何を目標としてやろうか。教育はもちろん力を入れてやる、その上で何か弘大をアピールできるような形のものを目指しています。對馬といえは歌しかありませんので・・・

＊最近はずいぶん歌も一生懸命努力されているそうですが、ここでは得意の「順子」を披露してくれました。

## 同窓会員からの感想

【1期生 鈴木 誠会員】

ラブな格好の私には、場違いのようでしたが、楽しいでしたよ。

【3期生 山田 朋子会員】

とても楽しく、先生方もいろいろな話ができて、また先輩、後輩とも交流でき、本当に出席して良かったです。特に、いろいろなトピックスがあり、学生時代に戻ったような感じがします。あつという間でしたが、次また会えることを願って終わります。

【4期生 館山 智格会員】

とても楽しく過ごさせて頂きました。4期生ということで、すでに7年が過ぎています。古い人間になりつつありますが、新しい知識を得て、後輩に負けないよう頑張りたいと考えます。

【5期生 大橋 哲夫会員】

大変楽しかったです。大変疲れました（名古屋から車で来ました）。大変有意義な時間でした。

【7期生 伊藤 江里子会員】

10周年本当におめでとうございます。今日来ていた方々はとても良い顔をしていたと思います。出席させていただき、良かったと思います。

実行委員の方々には本当にお疲れさまでした。

【8期生 津島 敬司会員】

10周年めでたかった！8期生ということでまだ3年目なのですが、スライドを見て「懐かしい・・・」と思った私はもうトシなのでしょう。でも、スライドの中の1期から10期までの同窓生の同年代（同じ年頃の時期）の姿を一同で楽しめて良かったと思います。

【9期生 安田 真恵智会員】

9期生の私としては、半数以上は知らない人ばかりでしたが、スライド上映など知らない人がいても楽しめる構成でとても良かったと思います。また、機会がありましたら参加してみたいです。

【10期生 下田 祐子会員】

とても楽しかったです。機会があれば、またこのような会を開いてもらいたいです。

## 編集後記

◆あけましておめでとうございます。昨年は、ビッグイベントも無事終わり、ホッとしたところに、菅原先生の訃報が入りました。人の命のはかなさを想うとともに、一日で全国を駆けめぐった同窓会のネットワークの良さにも驚きました。菅原先生が最後の最後まで強調された人としての「心」を忘れずに、悔いのないよう生きていきたいとつくづく思いました。

◆今号には、式典に参加された方には記念写真を、参加されなかった方には記念誌とテレホンカードを同封してあります。不備がありましたら、同窓会事務局まで御一報下さい。



# アップルロード no.38

発行：1993年6月30日  
 責任者：石川 玲  
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科研究室内  
 TEL・FAX 0172-860945

## 平成4年度定期総会報告

3月15日弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科研究室に於いて、平成4年度の定期総会を開催しました。役員を含めて出席者は10名でした。以下、内容についてご報告致します。

### I. 第1号議案（平成4年度事業報告及び決算報告）について

#### 1. 平成4年度事業報告

- ①新入会員：24名（総会員数 186名）
- ②会報の発行：アップルロードNo.35～37
- ③臨時総会の開催：同窓会則改正
- ④同窓会創立10周年記念事業：  
 記念祝賀会の開催、記念誌及び名簿（第5号）発行
- ⑤役員会開催：4/14……10周年記念事業実行委員選出  
 9/29……会則改正について  
 11/9……臨時総会の打ち合せ
- ⑥慶弔など：菅原教授葬儀で献花  
 その他の祝電等については「会計がない」「領収書がない」ため不明である。

#### 2. 平成4年度決算報告及び会計監査報告について

- ・総会時点での決算報告は「会計担当者が急な事情で業務を遂行できなかった」「通帳が手元になく残高が不明である」という状態で、副会長が手元にある分の資料で作製した。前年度未決済分は予備費をあてた。
- ・会計監査は、出納簿に記載のあった分について領収書等と照らし合せた結果、1件領収書のない支出（8/6分切手代2,325円）があったが、他は問題なしとの報告であった。しかし、実際の残高が不明のため、役員会の責任に於いて会計担当者と連絡をとり、正確な決算報告を会員に報告することで了承された。

第1号議案は、決算報告を役員会の責任に於いて後日会員に報告するというところで全会一致で承認されました。

### 平成4年度決算報告

| 収入     | 予算案       | 決算額     | 備考                                                                              |
|--------|-----------|---------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 会費     |           |         |                                                                                 |
| 新入会員分  | 72,000    | 72,000  | 3,000×24名                                                                       |
| H4年度会費 | 320,000   | 232,000 | 2,000×116名                                                                      |
| 未収会費分  | 188,000   | 130,000 | 未納会費58名分                                                                        |
| 前年度繰越金 | 437,473   | 437,473 | (内訳)<br>¥2,000×52= 104,000<br>¥4,000×5= 20,000<br>¥6,000×1= 6,000<br>計 ¥130,000 |
| 合 計    | 1,017,473 | 871,473 |                                                                                 |

| 支出       | 予算案       | 決算額     | 備考            |
|----------|-----------|---------|---------------|
| 10周年記念事業 | 300,000   | 277,057 | 記念式典他         |
| 事務費      | 50,000    | 16,631  | 封筒印刷代         |
| 通信費      | 100,000   | 94,763  | 郵送料、切手代       |
| 会議費      | 50,000    | 28,320  | 3回分+広報部活動費    |
| 慶弔費      | 10,000    | 20,000  | 菅原教授葬儀花代      |
| 雑費       | 10,000    | 5,019   | 前年度未決済：会議費、祝電 |
| 予備費      | 497,473   | 0       |               |
| 合 計      | 1,017,473 | 441,790 |               |
| 収支合計     | 0         | 429,683 | →次年度繰越金       |

### II. 第2号議案（平成5年度事業計画案及び予算案）について

#### 1. 平成5年度事業計画案

- ①広報の発行：アップルロードNo.38～40
- ②新入会員の名簿発行及び新入会員への名簿発行
- ③役員会開催：会計担当者は役員会で内容を報告する。（担当者任せにしない）

- ④会費未納分の徴収：未納者は名前が判っているので、個別に徴収の方法を検討する。
- ⑤慶弔電報

#### 2. 平成5年度予算案

- ・平成5年度会費は終身会費となったので、新入会員分のみとなる。
- ・前年度繰越金は後日決算報告が行われないと正確な金額は判明しないことを了承していただくこと。
- ・前納分会費返還については本人に「返還か」または「寄付か」を確認する。
- ・今年度は全員の名簿は発行しないので通信費予算は5万円とした。
- ・同窓会の活動は広報活動が最も重要であり、広報活動費を明記した。
- ・慶弔費は特別なことがない限り1万円で納めると思われる。

### 平成5年度予算案

| 収入     | H4決算額   | 予算案     | 備考                                                                                                                     |
|--------|---------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会費     |         |         |                                                                                                                        |
| 新入会員分  | 72,000  | 48,000  | 3,000×16名                                                                                                              |
| H5年度会費 | 232,000 | 0       |                                                                                                                        |
| 未収会費分  | 130,000 | 153,000 | 未納者39名                                                                                                                 |
| 前年度繰越金 | 437,473 | 429,683 | (内訳)<br>¥2,000×18= 36,000<br>¥3,000×1= 3,000<br>¥4,000×9= 36,000<br>¥6,000×5= 30,000<br>¥8,000×6= 48,000<br>計 ¥153,000 |
| 合 計    | 871,473 | 630,683 |                                                                                                                        |

| 支出       | H4決算額   | 予算案     | 備考                                                                              |
|----------|---------|---------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 前納分会費返還  | 0       | 16,000  | 前納者7名（内訳）<br>¥1,000×2= 2,000<br>¥2,000×3= 6,000<br>¥4,000×2= 8,000<br>計 ¥16,000 |
| 10周年記念事業 | 277,052 | 0       |                                                                                 |
| 事務費      | 16,631  | 22,000  | 封筒印刷代、紙代                                                                        |
| 通信費      | 94,763  | 50,000  | 切手代62円×202名×3回<br>= 37,572+α                                                    |
| 会議費      | 28,320  | 7,500   | 役員5名×500円×3回                                                                    |
| 広報部活動費   | 0       | 13,000  |                                                                                 |
| 慶弔費      | 20,000  | 10,000  | 慶弔電報等                                                                           |
| 予備費      | 5,019   | 20,000  |                                                                                 |
| 次年度繰越金   | 429,683 | 492,183 |                                                                                 |
| 合 計      | 871,473 | 630,683 |                                                                                 |

第2号議案は、広報活動を活発に行うこと、会計について役員会で点検すること、会費未納分を完全に徴収することを確認し、全会一致で承認されました。

### III. 第3号議案（役員、会計監査委員選出）について

- ・役員：会長 石川 玲  
 副会長 尾田 敬  
 理事 河原優美子  
 勸林 秀行  
 古木名寿登
- ・会計監査委員：清水 博子  
 一戸美代子

第3号議案は、役員会で推薦した上記の7名で承認されました。

### ☆☆☆☆☆からのお願い☆☆☆☆☆☆

会計では、規約改正に伴い、前納者への返還、未納者への督促など、終身会費制に向けて、整理を行っております。現時点で、同窓会費をまだ納めていない同窓生が19名おまして、名簿を掲載致しました。督促状を同封致しますので、お近くの郵便局から、早急に納めて下さいますよう、よろしくお願い致します。なお、前納されていた方が寄付を申し出てくれました。1期生石井照子氏（¥2,000）、鈴木誠氏（¥2,000）、4期生相澤みどり氏（¥4,000）、館山智裕氏（¥2,000）、7期生村田ふじみ氏（¥4,000）、8期生五日市克利氏（¥2,000）となっております。誠にありがとうございます。

### ☆☆☆☆☆からののお知らせ☆☆☆☆☆☆

★第11期生卒業、同窓会も10周年を迎え、第11期生16名がめでたく卒業、免許を取得され、同窓会員となられております。今年は、社会人選抜第1号の4名の方が含まれているため、既に社会人としては円熟味を増している方もおられますが、学生時代の苦楽を思い出し、励みにして、さらに人生の糧を広げてほしいと思います。職場や仕事上の悩み事の相談、情報収集など、同窓会名簿を利用して、近隣の先輩に気軽に声を掛けて下さい。また、事務局からの連絡や会員の情報を、同窓会ニュースとして年3回お手もとにお届けしますので、ご愛読頂けます。

### ☆☆☆☆☆からののお知らせ☆☆☆☆☆☆

★異動のお知らせ★  
 春は、異動の季節、異動届が寄せられています。変更部分のみ、別紙にてご案内致しますので、ご活用下さい。改姓、職場の異動など、変更がありましたら、いつでも事務局までご連絡下さい（ニュースの送付に関わりません）。

★広報部員が変わります★  
 役員改選とともに、広報の発送作業を今春から2年間、11期生の宇野光人氏、鈴木優子氏、三浦雅史氏、山内茂寛氏にお願いすることになりました。今まで2年間担当してくれた古木名寿登氏、佐藤比呂子氏、対馬栄輝氏、土岐浩志氏、成田さおり氏、三上雅史氏、どうもお疲れ様でした。

【紹介コーナー：香川幸次郎先生岡山県立大学教授に就任】

昭和63年3月まで7年間、弘大医療短大理学療法学科で助教授として教鞭をとっておられました香川幸次郎先生が、平成5年4月より岡山県立大学保健福祉学部の教授にご栄転されました。この間5年間は、神奈川県庁衛生部健康普及課に勤務され、おもに老人保健施設の開設許可の仕事に携わっておられました。

☆特別寄稿☆

岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科教授 香川幸次郎先生

弘前大学を離れ、神奈川県庁で5年間の行政経験を積み、この4月1日より新設の岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科の教授として赴任しました。本学は「情報化、国際化の進展、高齢化社会の到来という多様な変化の時代に的確に対応して、人間尊重と福祉の増進を基本理念としながら、21世紀に向けて人々の幸せを築くために、学術研究の進行を図るとともに、幅広い知識と高度な技術を身につけた人材を育成すること」を使命として設立されたものです。

本学は、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部より構成され、保健福祉学部は看護学科、栄養学科、保健福祉学科の三学科です。保健福祉学科は、我が国で初めて設立された学科であり、高齢化社会に対応した人材（社会福祉士）の育成にあたるものです。

従来の社会福祉領域における教育においては、保健分野の教育スタッフが希薄であり、21世紀を担う福祉人材には、保健と福祉を統合した教育が必要であるとの考えのもとに設立されました。

当然のごとく、リハビリテーションの思想や方法論も必須のことであり、私はこれまでの研究業績や経歴から、老人保健福祉特論のゼミを担当することになりました。

本学に赴任して早2ヵ月、弘前大学での教育経験が、私に少しの余裕を与えてくれています。これからの研究と教育の課題の多さに戸惑いを感じています。しかしながら、「いたる所青山あり」の言葉どおり、持ち前のKAGAWAスピリットで、山々を乗り越えていくと自分に言い聞かせています。

理学療法士の教育と直接関わりが無くならぬように、広く「お年寄りが幸福な人生を送れること」を考えると、同窓生の皆様とともに、進んでまいりたいと考えています。

本学は古代吉備の文化に囲まれた地に立っております。岡山に来られた折にはお立ち寄り下さい。

過日開催されました神奈川学会において、同窓生の方々や教官の方々から就任のお祝いの席を設けていただき、お祝辞をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、私の担当しました2期生と6期生の方々からお祝いの品をいただきました。これからの教育の大きな励みとなりました。心よりお礼申し上げます。

※益々のご活躍とご健康をお祈り致します。尚、先生の略歴、詳細を知りたい方は、P Tジャーナル25:566~567, 1991 P T最前線「我が青春に老人有り」をご参照下さい。

私のページ

今春卒業したての新人P T 2名の方から、自己紹介と近況報告を寄せて頂きました。

第11期生 三浦 牙生史 会員 (所属：弘前記念病院)

私の簡単な生い立ちについて話したいと思います。生まれは弘前市。昭和46年2月9日に体重3000gで生まれました。その後女の子と育ち、今では想像も尽きませんが、よく父の器に間違われる幼少時代でした。

弘前第一大成小学校に入学し、器械体操、ラグビー、スキー、野球など勉強もせずにスポーツばかりやっていた元気な子でした。弘前第三中学校に入学してからは、バスケットボールを始め、現在まで続けるきっかけとなりました。弘前南高校入学後も受験勉強そっちのけでバスケットボールに青春を捧げていました。そのためか大学入試には失敗し、一年間仙台で浪人生活をしていました。国立大学教育学部を希望していましたが、結局合格する事が出来ず、弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科に補欠で合格する事が出来まして、新たな道の第一歩を踏み出しました。

弘大医短に入学してからもバスケットボール・サークルに入り、楽しんでスポーツを行っていました。バスケットボールは、ナイターバスケ大会に参加し、弘大医短チームは3部に所属していましたが、2部に上がれそうと上がれなかったというくやしさを覚えました。それでも、個人的には3年時に優秀選手賞を頂き、今でも部屋に賞状とメダルを飾っています。学問はそれなりに頑張る、多くの友人、教官に巡り逢え、何とか3年間で卒業する事が出来ました。3年時には、同級生で津軽保健生活協同組合健康生病院に現在勤めている山内茂寛さんと韓国を訪問し、新丘専門大学物理療法学科（理学療法学科）の学生と交流を行ったり、病院見学をさせて頂いたり、韓国物理治療士協会会長金先生とお話をする機会を持ちました。

現在は、弘前記念病院で理学療法士として働いていますが、毎日が発見の連続で多くの事を学び、改めて日々の努力が必要だと痛感させられています。それでも毎日の様に患者さんは来ますし、少しでも患者さんの苦しみを少なくしてあげられればと思い、頑張っています。至らぬ点が多いと思いますが、先輩P Tのみならずご指導よろしくお願ひ致します。

※7月27~30日に、韓国から3名の学生さんが来青する予定で、三浦氏、山内氏兩名が、卒業生代表でお世話にあたることになりました。国際親善にも活躍されております。

第11期生 鈴木 優子 会員 (所属：弘前記念病院)

弘前記念病院に就職してから2ヵ月が過ぎましたが、担当していた患者さんと退院した方が10人を越えました。最後の訓練の日、私も手助け出来たんだ、という嬉しさと、明日から会えなくなるんだ、という寂しさ、本当にこれでよかったのか、という反省など混じり合って、何も言えないものがあります。

患者さんからは、臨床上の事はもちろん、人それぞれいろいろな考え方があって、いろいろな生き方がある、という事も学んでいるように思っています。

人の「出会い」というのは本当に不思議なものだと思います。患者対P Tというつきあひ以上に、人間対人間というつきあひを大事にしていきたいと思っています。

第6期生 菊池 真理会員

御無沙汰しております。皆様お変わりなくいらっしゃいますか。

私は、3月31日をもちまして、5年間勤めた病院を退職致しました。今年には、趣味の充実を図るため、5月下旬より、フランスへ行く予定です。約4~6ヵ月程、日本から離れている予定です。

向こうでは、美術館を回ったり、絵を描いてきたりと思っておりますが、この経験をもっと大切に、将来はより心豊かなセラピストとして仕事をしたいと思っています。

第4期生 中村 彩子会員

※10周年記念誌をマレーシアへ送り、その返礼の葉書から・・・(2月19日付) このマレーシアは、乾季には暑い、さらに暑い日が続く、来週からはよいよ断食が始まります。先日は、文集を送っていただきありがとうございます。同窓会も盛大に行われた様子、委員会の皆様、御苦勞様です。それにより菅原先生の計報、突然のことだけにたまた驚くばかり。ご冥福をお祈り致します。

第7期生 古木名 寿登 会員 (所属：弘前大学附属病院)

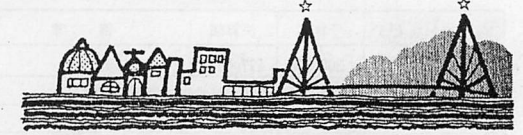
皆さんこんにちは。7期生の古木名寿登です。今回、同窓会ニュースより、横浜での学会について原稿の依頼を受けました。そこで今回、来年度の青森学会に向けて、本当に来年青森で学会ができるかどうかを、横浜の学会と地理的な条件を比較して考えてみました。

まず交通の便に関しては、青森空港もあり、またノクターンという高速バスもありますので中央からの交通も発達しています。今回の横浜学会にノクターンで行ったのですが、カーテン越しに見る夜景、到着したその日一日が徹夜明けのようなハイな気分になれることも発見しました。

続いて、会場についてですが、横浜では奇抜な建物が乱立する「みなとみらい21」の中にあるパシフィコ横浜で行われましたが、青森にも奇抜さでは負けてはいないアスパムというものが一つだけあります。また横浜では、昼食時に隣街パークでウェルカムパーティー（焼売とウーロン茶によるもの）が行われていたが、青森にはアスパムの近くに青い海公園というのがあり、ある同窓会員からは、「来年のウェルカムパーティーは“じゃっぱ汁とおにぎり”ですか!？」という声も出ていました。また、みなとみらい21には日本丸という船もありましたが、青森には八甲田丸（元青函連絡船）があります。うーん、横浜にそっくり。

横浜といえば中華街ですが、さすがに中国人が多く、中国語が飛び交っています。青森では早口の津軽弁を聞くとも中国語と間違えるかもしれません。また、私は運がいいのか悪いのか、みのもんたが中華街で取材をしているのを偶然見かけました。青森でも運が良ければ、伊奈かべいや黒石八郎などが見れるかもしれません。

今は、青森にもベイブリッジ（形はほとんど同じ）ができ、何年か前に吉幾三が「電話もね、ラジオもね・・・」と歌っていた頃が懐かしく思えるほど、青森は、学会地として横浜に劣らないくらい地理的な条件は十分であると自分に言い聞かせています。あとは実際学会の内容にかかっているので、皆さん来年は、このあたりを確認するために、青森学会へ参加して下さい。



HAPPY MARRIAGE & HAPPY EVENT ☆二糸吉女婚☆ 2期生 内田 雅之会員；3月 阿紀子さん 4期生 永山 有理会員 (旧姓楠美)；2月 真澄さん 5期生 畠山 祐子会員 (旧姓眞山)；4月 孝広さん 6期生 百目木律子会員 (どめき；旧姓助川)；6月 6期生 清藤 恭子会員 (旧姓千葉)；6月 信さん 7期生 竹内 康子会員 (旧姓工藤)；9月 一仁さん 7期生 工藤 義教会員；6月 7期生 工藤 美里会員 (旧姓山内)；同上 7期生 見原 直美会員；1月 ◎工藤夫妻は、P Tどうし、同級生どうしのカップル第2号です！なんなんの名前が、名無しのごんべんの方、ごめんなさい (編集部)。 ☆二歌生☆ 5期生 小田嶋尚人会員 (旧姓高橋)；5月 長男

編集後記 今年度の学会も終わる、来年はいよいよ青森での学会となります。着々と準備が進められており、古木名さんの紹介からも具体的なイメージが伝わったのではないのでしょうか。演題を携えてのご来青を期待しております。職場の異動、転職、結婚等々、今年も沢山の同窓生が人生の転機を迎えています。P T人生を充実させるべく、仕事・研究に邁進するもよし、P Tをいったん休職し自分の生き方を見つめ直すもよし、人それぞれに向き不向きはあるわけで、自分の限界を知ること重大であると思います。現実を知らずに我を張る(頑張る)のではなく、現状をしっかりと見て、やりたいと思うことをやることからコツコツと積み重ねていく・・・人間の能力は、特殊な人を除いて所詮たかが知れていると思います。他者との関わりの中で力を与えられ、そしてどれだけ自分の能力を発揮できるかにかかっているのではないのでしょうか。梅雨の季節、東北は肌寒く、関東以南は蒸し暑い日が続いているようですが、体調を崩さないよう、健康管理に気を配りましょう。(河)

## 私のページ特集

日本全国、北海道から南は広島まで、また海外からの情報も寄せられました。紹介いたします。

第4期生 中村 彩子 会員 (所属：秋田県太平洋療育園)

【帰国しました】

“夢”のような2年間でした。様々なことがありました。それなのに、この2年間を振り返ってみようとしても、その時と同じ気持ちを殆ど思い出さることができません。だから、“夢”のような・・・お話しします。

“国際協力”という言葉が叫ばれて久しい世の中ですが、海外で働くということは、本当に大変です。異文化・習慣・言葉に揉まれ、その中で自分を主張し続けていく。かなりのPOWERを要します。

その1) 海外青年協力隊(JOCV)は、政府事業です。それゆえに一理療法士としては決してお会いすることはないだろうと思われる方たちに会いました。Malaysiaの国家統一開発省(福祉局の本部)大臣、福祉局長、各州福祉局長、経済企画長、在マ日本大使等、JOCV事務所のお隣立でもありますが、中には自分の活動を軌道に乗せるために、自分たちから会議を要請したものもあり、拙いマレー語でアポイントとりから始めたこともあります。

その2) 任地であるTaman Sinar Harapan では、時間を守らない職員、どんなに入所者が泣き暴れてもテレビの前から絶対動かない職員、体は動かなくても口先だけは休まない職員、いつの間にか物がかつなくなっていく現実・・・最後まで彼らとうちとけられなかったと思います。私は、あまりにも多くの“死”を看すきました。“人間はいつか死ぬのだ”とのたまり、“死”をあまり恐れない彼らには、外国人のしかも若い女性の語る“よりよく生きる権利”は、滑稽だったようです。

さて、活動のことはともかく、“国際協力”は、楽しませて頂きました。たくさんのマレーシア人の友人を得、また、Malaysia国内もよく旅行しました。あちこちで出会った、屋台のおじさん、市場のおばさん、バスの運転手等、皆、マレー語を話す日本人が面白いらしく、随分親切にされていました。

帰国してすぐ、大きな世界地図を買い、今、部屋の壁にはっています。地図の中の日本は小さく、Malaysiaもまた小さいのです。その中に自分が生活している。・・・何か不思議な感じがしますね。

私は、JOCVとして Malaysia で生活できて本当によかったと思います。そして何よりも2年前よりは、確実に“いい女”になったと思えることです。

第5期生 大橋 哲雄 会員 (所属：コンケン大学病院 タイ国)

※「・・・海外青年協力隊派遣前訓練に参加しています。朝6時15分起床、ロードワーク等、分刻みでスケジュールがつまっております。さらに1日5時間のタイ語等、大変充実した日々を送っております。特に語学は、いわゆるアルファベットからのため、本当に大丈夫か心配ですが、これ以上増やされてもこなせるはずもなく、朝5時に起きて勉強するなど、学生時代の自分から想像もつかないほどです。この訓練自体が、まだ選考の一過程ですので、本当にタイへ行けるよう頑張っていきたいと思っています・・・」とのコメントとともに異動届が送られてきたのが4月。兼ねてから海外情報をお願いしていたのですが、8月中旬第一報が届きました。若干時期がずれ込みましたが、ご了承下さい。(広報部)

皆様、残暑お見舞申し上げます。タイは、暑いとは言うものの、今は雨季で、明け方は窓を開けたままだと寒いくらいです。

8月13日、任地のコンケンに来て、今週いっぱい最後の語学訓練のホームステイが終わります。その間も職場には毎日顔をだしていましたが、本格的な仕事は、8月30日からとなります。

昨年の4月頃だったか、職場の同僚(新婚半年)と、グチのこぼしあいをしていた時のことでした。彼いわく、「海外青年協力隊の募集要項を取り寄せているけれどまだ来ない。嫁さんにかくされてしまったかもしれない。」とのたまっていました。当然私は、新婚の彼を、「あたりまえだ。」といきめたのですが、ちょっと興味をそそられ自分でも取り寄せてみました。郵送されてきたそれを見るうち、深く考えもせず、自分が日本語しか話せないことも忘れ、フラフラと応募してしまいました。当時、PTの応募者は非常に少なく、競争率も低く、私は二次選考の技術面接で神奈川リハの田口先生に、「タイにはあなたが一番適任だから行きなさい。」とほぼ命令口調で言われてしまいました。ここに至って、やっとなんか重大さに気付いたのですが、根が小心者なので、辞退するという考えを行動にうつせませんでした。(私の心の奥底にロハで外国に行ける!という考えがあったことは否定しません。)結局、今年の3月末で職場を退職して、4月から長野県駒ヶ根市の訓練所で、語学を中心とした種々の訓練を受け、タイにやってきました。

今はもう、言葉の方で何の不自由もありませんが、・・・といった具合に書ければいいのですが、現実とは通じず、辞書を手放せません。が、大学病院には1年ちょっと早く来たOTの協力隊員もいるので、ボチボチやっていこうと思っています。訓練所でさんざん言われたように、2年の任期のうち、最後の半年、人並の仕事が出来れば・・・などと考えています。次にもし手紙をだしたら、その時は私の住んでいる町やタイのPTなどについても書きたいと思います。

追伸：同窓生の皆様、私の住む町では日本語の本、新聞など見当たりません。もしよろしければ顔見知りの方、全然知らない方問わず、葉書の一枚も激励にいただければ大変感謝致します。

宛て先  
Tetsu OHASI (PT)  
Faculty of Associated  
Medical Sciences  
Khon Kaen University  
Khon Kaen. 40002  
THAILAND



第6期生 菊池 真理 会員 (所属：自宅)

Je suis allé à Paris! Bonjour!

皆様、御無沙汰しています。今年は、フランスに行くことができ、一生忘れられない充実した年になりました。(星占いによると、新しいことを始めるなんてものほかという悪い年らしく、一時はやめようかとも思いました?)

まあ、フランス行きを決断させた要因は、色々ありますが、女27歳、何かするなら今しかない、と思いついたわけです。しかし、今振り返ってみると、なんて無謀かつ無鉄砲な計画だったのだろう、と反省の嵐です。また一方で、だからこそ行ってこれたのだなと、自分の中のパッション(?)を誇らしく思えてきたりもしています。

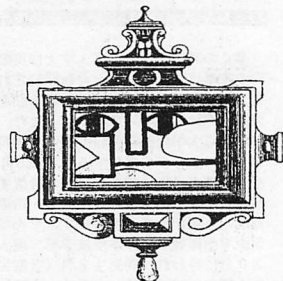
前置はさておき、去る5月24日の午前、札幌の近くの千歳空港を出発し、香港経由でパリに向かいました。千歳を発ってから、5時間後に雨降りの香港に降り立ったのですが、ここはビルが建ち並び、古くて汚くて暗い感じがしました。しかも、飛行機は街をスレスレに降下していき、短い滑走路(周りは海)に降りるわけで、恐いのなんのって!小心者の私は全身が硬直し、「ここで死んだらどうしよう」「やっぱり、JALかANAに乗ればよかった!」などと考えてびびっていました。(ちなみに私が乗っていたのはキャセ航空でした。)

さて、香港でも初めてのカルチャー・ショックや言葉の壁に遭い、(英語もロクに話せなかった)話すときりがないので、省略させていただきますが、ここは食べて買物するところであって、私のように香港の景色を眺めようなんて者にとっては、雨降りの香港は最低です。唯一、フランス行きの飛行機から見た夜景は、噂どおり素晴らしいもので、香港に行ったかいがあったというものでした。

さて、香港からひたすら寝ること12時間半、パリの郊外にあるシャルル・ド・ゴール航空に着いたのは、5月25日早朝でした。胸の中は、新しい生活への不安と希望でドキドキしていました。「やっぱり、フランス語でしゃべらなきゃいけないんだよ」と、少しは話せると思いついていた私は強気でした。でも、世の中はそう甘くなく、テレフォン・カードを買いたがために、空港中をうろろろし、上に行ったり、下に行ったりとさんざん歩く羽目になりました。フランス人のお姉さんに郵便局の場所を聞いても、「私はフランス人じゃないの。知らないわ。ホホホ・・・土におるわよ(もちろんフランス語)。」なんて全然違う方向を教えられ、「このいい加減さ、これがフランス人なんだ。」と妙に感動してしまいました。こうして私の旅は始まりましたが、ちなみに私の使ったフランス語は、「ボンジュール(こんにちは)」「オルボワール(さようなら)」「エクスキューゼモア(失礼ですが・・・)」「バルドン(すみません)」「メルシー(ありがとう)」「ジュヴドレザレ・・・(・・・に行きたい)」で、始めの1~2週間はこれらプラス笑顔で暮らしていました。たぶんここまで読まれた皆さんは、私でも行けたのだから、自分も大丈夫と安心されていることでしょう。

さて、パリには6~8月の間滞在し、午前中は語学学校へ通い、午後と週末は、観光や美術館めぐり、絵を描く時間として、使いました。9月は十日間程かけて南仏からスイス、ドイツを廻り、9月下旬に帰国しました。あっという間の4ヶ月でしたが、アクシデントにも強くなり、自己主張も強くなり、今まで見えなかった自分や周囲が見えてきたりと、非常に重みのある4ヶ月になりました。話せば長い道中ですが、そろそろ失礼させていただきます。

皆様、お元気で。Au revoir!



# 日本の話題

第2期生 田中 幸生 会員 (所属: 砂川市立病院)

皆さん、こんにちは。1984年の卒業以来、北海道の砂川市立病院に勤務しています。当院は総合病院で、存在しない診療科は神経内科だけのようなもので、550床あり、地域の中核医療を担っています。ある事件で有名になりましたので、ご存知の方も多いかと思います。個人的には、今年2月に30歳になり、……いつのまにやら、というのが実感ですが……オジさんの仲間入りをはたしました。

職場は、PT2人、柔道整復師2人、事務1人で、毎日70人程度の患者さんの診療にあたっていますが、大半がCVDでしめられています。本業の他に、病院附属の二つの看護学校の講師と、市のリハビリ教室の参加など多忙を極めています。また、放射線科とも懇意にさせてもらっており、CT、MRI、RI、DSA等の読影も教えて頂いています。昨年は、秋田脳研でのRIの研究会にも参加することができました。脳外科のDr. や他の医療技術部門の職員とも交流があり、仕事上大変お世話になっていますが、その延長で飲む機会もかなり多く、放射線科からは「5時からの放射線科技師」あるいは「アルコール管理官」とも呼ばれ、一部には「院内一のノンベエ」との噂もあるようです。実際、学生時代に比べ、質量ともに上回っているような気がしますが、女性に縁がないところは変わっていないようです。このようにPTを中心としながらも、方々に首を突っ込み、自由奔放に仕事と生活を楽しむスタイルをこれからも続けていこうと思っています。

第3期生 高橋 伸子 会員 (所属: 自宅)

## 【学問のスーマー広島道中期末記】

平成4年の暮れ、私は何をしたいのかなあ。「もう一回勉強してみよう。PTにはこだわらない。」ひとつとてじっくり物事に取り組みないチャランポランな性格の表れです。さっそく蜜雪時代で学校探し。(人間追求なら仏教学部はおしゃれね。PTは医者にはかなわんから医者になるか。)などと勝手なことを考えながら。7月末には、寿退職について管理職が文句をつけにくい「進学」という理由で退職。「広島なんて遠い所に行くのね、頑張らな。」「ありがと。」(5人しかとらないのに受かるわけじゃない。)

社会人入試制度はまだまだ少ないです。国公立で28校、私立で70校。ほとんどが、工・法・経済学部。選択の余地はあまりありません。無収入なので、授業料・家賃の高いところにも行けません。住職や牧師の夢は捨て、探した大学は、

1. 神戸大学発達科学部(心と体の発達を誕生から死に至るまで科学する。いい能書きだなあ。定員14人。)
2. 日本福祉大学(夜間なので生活できそう。定員50人。)
3. 広島大学(皆に言った手前、受けざるを得ない。厳島神社は必見。)

受験日の早かったのが広島大学。最初のPTの大学の1期生ですからね、カリキュラムがまだ未定という噂もあるが、きっと300人は受験するでしょう、あれれ、10人でした。すっかり観光気分が私、ちゃんと勉強すればよかったなあ。問題の一部を紹介します。

- 英語
- 1) 訳文10問。観光是簡単。
  - 2) 英訳。病気のB氏をA氏が見舞った時の文章14題。全滅。
  - 3) 丸や四角が書いてあり、問題に従ってお絵かきする。(丸に笑顔をかき、など。心理テストか。)(ノに続く)

## 広島大学編入試験合格!

多くの同窓生が、大卒・学士修得のために通信教育や夜学に励んでおり、今秋開校された、青森の放送大学でも、地元同窓生が寝る間も惜しんで単位取得に向けて頑張っています。また、東北大学でも、来春から大学院医学系研究科に障害科学専攻(リハビリテーションを専攻する大学院5年間のコースで、修士、博士過程までを修得)を設置する予定であり、リハビリテーション分野の教育・指導にあたる人材育成の気運が高まっています。そんななか、広島大学医学部保健科学理学療法学部の編入試験が、9月30日に行われ、同窓生2名(3期生高橋伸子氏、11期生三浦雅史氏)が受験、合格致しました。高橋氏から、「私のページ」コーナーに試験の内容も含めて情報を送って頂きました。理学療法分野の初の4年制大学1期生、健闘を祈ります。

## 青森学会準備状況

来春の青森学会に向けて、演題受付が10月1日より始まり、ポチポチ応募が集っております。先月は、大分での全国研修会で、青森県士会が準備を担当し、学会評議員会が開催され、著明な先生方により、白熱した議論が聞かれた模様です。余談ですが、大分からの帰り道、悪天候の為、飛行機が青森上空まで来ていながら、東京に引き返すというハプニングに見舞われながらも、めげずに頑張っております。学会の開催趣意及び企画が決定致しましたので、同封致します。発表するもよし、聴講するもよし、舞台裏で手伝って下さるのであれば、尚大歓迎! ということで、ご覧下さい。

## 鳥糞集後記

●紅葉の裾野を引いた岩木山も薄化粧する季節となりました。今年は、梅雨明け無し、冷夏、度重なる台風襲来……と天変地異は容赦なく、実りの秋を迎えた全国各地で米騒動が起きている現実、100万トン以上の米を緊急輸入するはめになりましたが、歴史の教科書には、「平成の大凶作」とも掲載されるのでしょうか。

●今号は、全国各地及び海外からの情報を掲載しました。一つ気になることは、協力隊員からの私信に、障害者に対する意識の低さを指摘する声が続いています。民族紛争、経済問題、政治情勢等、様々な社会背景の中で、リハビリテーション、ノーマライゼーションの理念どころではない国も世界にはまだまだ多く、つくづく日本は平和だなあと感じます。

●どんな環境にあっても、まずは、郷に入っては郷に従え、しかし、長いものには極力巻かれず、「お・い・あ・く・ま」(怒るな、威張るな、焦るな、クサルな、負けるな)と呪言を唱えながら、Heart・Head・Handで、HealthとHopeを与えられる人間(PTに限らず)であり続けられるよう、研鑽したいものです。

●お酒が付き物のこの季節、呉々もお酒に飲まれないよう気をつけましょう。(河)

(ノ) 専門 1) 解剖生理学。心拍出量が\*\*で血圧が\*\*のときの全末梢抵抗は(??)

2) 理学療法。肘関節を屈曲する時、第( )のてこである。演繹法とは、主張を( )から導くものである。(知らなくても私はPTやってたよなあ。)

翌日 面接。奈良会長に「在学中の方ですか?」30女つかまえておおい。舞上がった私は、しどろもどろ。要領を得ない10分でした。

過ぎたことは仕方ない。次の日はちゃんと宮島でなごめしを食べてきました。結果ですが、受かってました。

ひょうたんから駒。2年間新たに勉強してきます。他の分野からPTを見直したい、という当初の考えとは離れましたが、実は4年も暮せるほどの蓄えはないので経済的には助かります。既に免許のあるPTが大学で何を学ぶか、興味のある分野の追求をしたいものだと思っています。今度で10回目の引越越しです。まだまだ、ふらふらしそうです。



第6期生 若山 由香利 会員 (所属: 東北医療福祉専門学校)

こんにちは。6期生の若山と申します。最近の出来事を Apple Road に寄せてほしいとの依頼を受けてから2週間、すっかり忘れていて締め切りを明日に控えた今日、あわてて原稿を作っている次第です。すっかり言い訳ですが、最近特に忘れっぽくなってしまって、脳細胞がまっしぐらに老化の道をたどっている若干不安を感じます。

4月に仙台の学校に移って、病院では経験できないことをいろいろ経験して、世の中にはいろんな世界があるものだと感心するやら驚くやら、自分の世間知らずを反省しつつ、半年が過ぎました。

最近の出来事と言えば、期末試験と体育祭。今は学園祭の準備で学生にいいように使われている(?)毎日です。学校は、忙しいようそうでもないような、今までの「仕事」というものとは違う日々が過ぎていきます。「今日も明日も時間はいくらでもあるように感じるが、今自分が何かに使える時間は今しかなく」というようなことを最近何かの本で読みました。とても当たり前のことだけど、比較的時間の使い方が自分で自由になる状況になってみると、すごく重みのある言葉に感じられます。ただ漠然と今日が終わる生活はしないようにと思いつながら、やっぱり何となく一日が終わる今日この頃です。

第10期生 高橋 貞広 会員 (所属: 公立横手病院)

「のり弁大盛り」の食生活から早いもので1年半が過ぎ、私はすっかり顔色が良くなってきました。私の所に同窓会から原稿依頼が届いてから、短大での学生時代の頃を懐かんでいます。懐かしみ過ぎて原稿の締め切りが迫ってしまいました。RPTになってからも「期限を守ること」を書かれたいようにしたいものです。

このアップロードは、いつも楽しみにしています。特に「私のページ」のコーナーは愛読しています。みんな頑張っているようなので励まされます。このような同窓生とのつながりの大切さをRPTとなってから感じました。短大の先輩や同期生が同じ県にいと心強いものです。研修会などは出来るだけ参加するようにしていますが、PT間の会話が大変勉強になります。研修会などに行っても学生の頃は話題や顔つきまで違う同期生を見て驚く時があります。私も皆さんに驚かれるくらいに、頑張りたいと思います。

## HAPPY MARRIAGE & HAPPY EVENT

☆二系吉女婚☆

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1期生 鈴木 誠会員; 10月            | 6期生 鈴木 英樹会員; 10月            |
| 1期生 柴田 孝之会員; 10月 薫さん       | 7期生 嶋海 祐子会員; 9月 (旧姓荒井)      |
| 5期生 坂橋 直美会員; 8月 勉さん (旧姓宮川) | 8期生 川島 由美会員; 9月 信晴さん (旧姓滝谷) |

◎お相手の名前が、名無しのごんべさんの方、ごめんなさい(広報部)。

# Apple Road no. 40

発行：1994年5月20日  
 責任者：石川 玲  
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科研究室内  
 TEL・FAX 0172 (36) 0945

## 定期総会開催の遅れについて（お詫び）

会長 石川 玲

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成6年3月に開催しなければならない同窓会総会の開催が遅れましたことを、深くお詫び申し上げます。事情はともあれ、総会開催の遅れは会長としての不徳の致す所と申し訳なく思っております。今後はこのような事態が生じませんように十分に留意いたす所存ですので、何卒ご寛容のほどお願い申し上げます。

### 〈第1号議案〉平成5年度事業報告および決算報告

1. 事業報告
- ・新入会員 : 16名 (準会員を除く会員総数220名)
  - ・会報発行 : Apple Road No. 38-39
  - ・祝電発信 : 11件
  - ・Tea Party 出席

### 2. 決算報告

#### 収入の部

|         | 予算案     | 決算額     | 備考                          |
|---------|---------|---------|-----------------------------|
| 会費新入会員分 | 48,000  | 48,000  | 3,000円×16名分                 |
| 93年度会費  | 0       | 2,000   | 1名                          |
| 未収会費分   | 153,000 | 105,000 | 未納会費31名分 → ¥2,000×17=34,000 |
| 前納会費寄付金 | 0       | 16,000  | 前納者6名より → ¥3,000×1=3,000    |
| 雑収入     | 0       | 4,130   | 祝賀会有志より → ¥4,000×7=28,000   |
|         |         |         | + 決算利息 → ¥6,000×4=24,000    |
| 前年度繰越金  | 429,683 | 429,683 | → ¥8,000×2=16,000           |
| 合計      | 630,683 | 604,813 | ¥105,000                    |

#### 支出の部

|         | 予算案     | 決算額     | 備考                      |
|---------|---------|---------|-------------------------|
| 前納分会費返還 | 16,000  | 18,000  | 前納者8名分 → ¥1,000×2=2,000 |
|         |         |         | ¥2,000×4=8,000          |
|         |         |         | ¥4,000×2=8,000          |
|         |         |         | ¥16,000                 |
| 事務費     | 22,000  | 17,657  | パソコン、タカシマ、封筒印刷、etc      |
| 通信費     | 50,000  | 32,303  | 郵送料、切手代 (ニ→ス2回)         |
| 会議費     | 7,500   | 0       |                         |
| 広報部活動費  | 13,000  | 3,390   | ニ→スNo.38, 39            |
| 慶弔費     | 10,000  | 8,342   | 慶弔電報11件                 |
| 予備費     | 20,000  | 0       |                         |
| 合計      | 630,683 | 79,692  |                         |
| 収入合計    | 0       | 525,121 | →次年度繰越金                 |

### 〈第2号議案〉平成6年度事業計画案および予算案

1. 事業計画案
- ・会員名簿発行
  - ・会報発行 : Apple Road No. 40~43
  - ・電報発信

### 2. 予算案

#### 収入の部

|          | H5決算額   | 予算案     | 備考                     |
|----------|---------|---------|------------------------|
| 会費 新入会員分 | 48,000  | 54,000  | 3,000円×18名             |
| 93年度会費   | 2,000   | 0       |                        |
| 未収会費分    | 105,000 | 48,000  | 未納者8名 → ¥2,000×1=2,000 |
| 前納会費寄付金  | 16,000  | 0       | ¥4,000×2=8,000         |
| 雑収入      | 4,130   | 0       | ¥6,000×1=6,000         |
| 前年度繰越金   | 429,683 | 525,121 | ¥8,000×4=32,000        |
| 合計       | 604,813 | 627,121 | ¥48,000                |

#### 支出の部

|         | H5決算額   | 予算案     | 備考                    |
|---------|---------|---------|-----------------------|
| 前納分会費返還 | 18,000  | 0       |                       |
| 事務費     | 17,657  | 10,000  | 紙代等                   |
| 通信費     | 32,303  | 92,400  | 切手代※                  |
| 会議費     | 0       | 7,500   | 役員5名×500円×8回          |
| 広報部活動費  | 3,390   | 20,000  | 8名×500円×4回、印刷：500円×8名 |
| 慶弔費     | 8,342   | 10,000  | 慶弔電報等                 |
| 予備費     | 0       | 20,000  |                       |
| 次年度繰越金  | 525,121 | 467,221 |                       |
| 合計      | 604,813 | 627,121 |                       |

※切手代；ニ→ス発送分：80円×220名×8回=¥52,800  
 名簿発送分：130円×220名×1回=¥28,600  
 葉書返送分：50円×220名×1回=¥11,000  
 合計 ¥92,400

### 〈第3号議案〉選挙管理委員選出

現選挙管理委員（古木名寿登氏、斎藤圭介氏、対馬栄輝氏）の任期満了に伴い、選挙管理規定第4条に基づき、総会に於いて改選を行います。



## 事務局からのお知らせ

**定期総会開催のお知らせ**  
 会長 石川 玲  
 遅ればせながら定期総会は、平成6年5月30日（月曜日）に下記の要領で開催いたします。出席できない方は総会資料を参照の上、同封の異動届用葉書（近況報告欄に記入して下さい）にてご意見を事務局宛にお送り下さい。

会員数の増加と反比例して同窓会事業は年々縮小しておりますが、平成6年度は同窓会名簿の発行を重点事業にいたします。また、短大から4年制大学に移行した学校では短大同窓会の存続問題があるやりに聞いております。我等が母校でも4年制への移行準備が進められており、同窓会の将来構想について真剣に議論を進めなければならず、今年度の役員会の検討課題したいと思います。

#### 記

日時：平成6年5月30日（月）19:00～  
 場所：弘前大学医療短大理学療法学科研究室

### 異動届を提出して下さい

今年度は、会員名簿を発行する予定です。現在事務局で把握している情報を葉書に印刷し、同封致しました。できるだけ正確な情報をお届けしたいので、転動等で、住所、勤務先等が変更になった方、変更後、具

動届を提出したか定かでない方は、葉書に変更の詳細を赤ペンで記入の上、また変更がない方（要するに全員）はそのまま、郵送して下さい。また、結婚なさる方、同窓会より祝電を打ちますので日時、場所、お相手のお名前をお知らせ下さい。出産された方もお子さんの出生日、お名前をお知らせ下さい。追ってニュースに掲載致します。

### 会計からのお知らせ

- ①同窓会費が未納になっている方が、8名おります。終身会費制となりましたので、8名の方が納入されますと全員達成となります。未納者には、リストと督促状を同封致しましたので、確認の上、お近くの郵便局から納めて下さいますよう、お願い致します。学費の際に支払っても結構ですので督促状もご持参下さい。

②口座番号が変更になりました  
 同窓会で使用している郵便振替口座の番号が、平成6年5月から下記の通り変更になりますので、お知らせ致します。尚、現在の口座番号も平成7年4月までは使用できるそうです。

旧口座番号：秋田 8- 3545  
 新規口座番号：02580-4-3545

### 第12期生卒業・国家試験合格おめでとう

今春は、第12期生18名がめでたく卒業、免許を取得されました。RPTとして働き出して、早1ヶ月、ようやく職場にも慣れてきた頃でしょうか。技術者として免許を取得してからが勝負です。北は北海道から南は静岡まで散らばることになりますが、井の中のカワズにならないよう、同級生どうし、また、近隣の先輩にもコンタクトをとれるように、今秋、同窓会名簿を追加発行する予定です。尚、第12期生の出身地及び就職先一覧を同封しましたので、ご活用下さい。

### 弘大医短PT学科同窓会大懇親会のお知らせ

来る全国学会において、毎年恒例の大懇親会を開催致します。奮って御参加下さい。  
 日時：4月27日（金） 総会終了後の午後7時  
 場所：文化会館正面ロビーに集合（詳細は当日掲示板に貼り出します）

### 故郷通信社

古稀記念テレホンカードプレゼントのお知らせ  
 一昨年冬に急逝されました菅原正信教授が、古稀を記念して同窓生のために作成して下さいましたテレホンカード、突然の訃報で、形見の記念品となってしまいましたが、まだ10枚手元に残っております。入手希望の方がおられましたら、会長石川玲までご連絡下さい。



★ 第1期生 多田 季子 会員 (所属：山形大学医学部附属病院)

皆様お元気ですか？
私は相変わらず山形大学病院でたった一人でPTをやっています。ニュースに載るのは久しぶりなので知らない方も多いたと思います。最近のアップロードは卒業生の方々の海外での活躍が実に多く報告され、頼もしい限りです。しかし、私の勝手な意見を言わせて頂け少し本道から外れているように思います。というのは、純粋にPTとしての技術を向上させるために日本よりもリハ体系が進んだ国に勉強しに行ったという報告が少ないからです。長期休暇を取って異国を旅したり、海外青年協力隊に入って途上国の医療水準を上げるのも確かに大事なことです。自分自身の人間修養も大いに結構。しかし、プライベートな経験を病院や地域のリハ水準の向上につなげるのは大変難しい事です。明治以来、日本は様々な知識や技術を欧米に習いました。もはやほとんど分野で引けを取らないくらいになりましたが、リハビリテーションや福祉といった分野は、まだ途上国です。PNFやボバース法が紹介されたからといって同じ水準に達した訳ではありません。かくいう私もそれほど海外研修の経験があるわけではありませんが、5年前のボイタ法の研修に引き続き、フィンランドにRAとヘルスケアシステムを学ぶため、行ってきました。内容は、RA等の慢性疾患で運動機能が大幅に制限された際に、どうやって身辺自立を援助するかのシステムの勉強です。詳細はこの紙面のスペースでは報告できませんが、印象は、日本はこの分野では、北欧の足元にも及ばないということです。

私は笹川財団の援助で研修してきましたが、皆さんもいろんな基金に手紙を書いてPTのカルチャーショックを経験してきて下さい。問題意識のあるうちに。

★ 第10期生 長谷川 至 会員 (所属：廣揚郷腎研究所弘前病院)

私は平成9年度卒業で、平成4年4月より帝京大学医学部附属市原病院リハビリテーション部にて勤務してきました。この度、平成6年4月より廣揚郷腎研究所弘前病院に勤務することになりました。

市原では、PT、OT含めて3人の弘大医短の先輩がおり、公私共々助けていただきました。また、他病院や院内等の勉強会にも参加させていただき、たいへんめくれた環境で仕事をすることが出来ました。PT、OT養成校の実習施設になっていることから、実習生と接する機会も多く、自分が実習していた頃を思い出すと同時に、自分の知識の無さも痛感していました。帝京大の看護短大の実習生には直接指導する機会をいただき、教えることの難しさを知りました。ハワイ大のAPTの実習生と接する機会もあり、アメリカと日本の違いに驚きました。

他にもいろいろと学生時代にはないことばかりで、ドタバタと2年間が過ぎ去ってしまったような気がします。今度は弘前へ戻り、新たな出発となります。施設基準の認可を取ることなど、やらなければならぬことがたくさんあります。市原で学んだことを少しでも活かしながら、一から出直す気持ちで頑張っていきたいと思えます。今後とも、同窓会の方々には御世話になることがあると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

★ 第12期生 若洲 基子 会員 (所属：東京都済生会中央病院)

「卒業・就職を目前にして」

3年前、弘前大学医療技術短期大学部に入学してから、早いものでもう卒業です。今までにも私たちは「卒業」を何度か経験していますが、今回迎える卒業は、今までとは全く異なるものに感じられます。それは、今までのものが学生から一つ上の学生へ進むのに対し、今回迎える卒業は学生から社会人へとなるからです。学生から社会人へ、これは大きな変化であると思います。社会人、それは学生生活とは違う世界。重くしかかる「責任」という文字。今までのように甘えてはいられない。不安で仕方がありません。職場の方々と仲良くやっていけるだろうか、それよりも今ある知識と技術で、本当に仕事ができるのだろうか。何かとんでもない失敗をしたらどうしよう、考え出したさきりありません。しかし、毎日不安な日々でどんよりしているわけでもないです。不安で頭がいっぱいになっている時、「でも」という言葉が浮かびます。でも、足りない知識や技術はこれからは勉強して身につけていけばいい。多くの人のために頑張って、喜んでもらいたい。失敗したらその後、精一杯頑張るしかない。一生懸命頑張ればきっとなんとかなる。努力して、学んで、周囲の人々への気配り、思いやりを忘れずに、いつか世のため、人のためになるよう

な理学療法士になりたい。そんな夢や希望にも、あふれだします。このように、不安や希望がごちゃ混ぜになり、ドキドキ、ワクワクしている毎日です。

私たちは、それぞれ自分の理想とする理学療法士を夢見て、弘前大学医療技術短期大学部を卒業します。社会人になることに対する不安や、自分の可能性に対する期待・希望をもって卒業します。どのような理学療法士になるのか、それは今後の自分次第だと思っています。自分の理想とする理学療法士に近づけるよう、日々努力を重ねていきたいと思うし、また、それができると信じています。そして、今もっている不安や希望をいつまでも忘れずに持ち続けたいと思います。先輩の皆様方、どうか私たちに多くのアドバイスを、よろしくお願いします。

★ 第12期生 山口 由香 会員 (所属：青森県立はまなす学園)

『社会人として進むことについて』
3年前、「理学療法士」を目指して入学した時、リハビリテーションとは、理学療法とは何かということも知らず、自分が3年後理学療法士として社会に出ることに希望をふくらませていました。

それから1年たち、2年たち、専門教科が増すにつれ、希望が不安に変わり、自分の頭の容積の狭さを実感する毎日が続ききました。3年生となった昨年の春、整理がつかないままの知識と勇気を持って臨床実習にのぞみ、3つの病院・施設での実習の中で、スーパーバイザーの先生方、またリハスタッフの先生方、患者さん、と私が接することのできた方々から多くの知識と人間としての大切な感情を教えていただき、不安が再び希望へと変化しました。もちろん医短の先生方から学んだことは、今の私が理学療法士として社会に出る基礎となっています。勢いを付けた私は、卒業論文を無事終了、国家試験も受けてとうとう卒業の日を迎えました。春から私の前にたくさんの子供達と、大きな壁がたちばばかると思っています。また、今まで親に守られ、家に帰れば温かい食事が待っている生活から離れ、一人で生活することに対し、以前とは比べものにならない程の不安と緊張を感じています。これと逆に、この3年間自分なりに頑張ったという自信からくる将来への希望・目標も大きくなりました。この自信はあつという間に崩れ、頭が痛い日々を送るのでは……、と考え込む今日この頃ですが、もう社会人として一歩踏出しているのだから、目標を形に出来る理学療法士になりたいと思います。また、自分の価値観で考えるだけでなく、社会をいろいろな目で見ていけるような目を作りたいと考えています。

これから先生方、先輩方から多くのことを学ぶと思います。先生方にとって当たり前のようなことを質問したり、突拍子のないことをお聞きすることがあると思いますが、私なりに一生懸命ですので、ご指導の程よろしくをお願いします。私的な活動も社会人として頑張りたいと思っています。こちらのご指導もよろしくをお願いします。

★ 第3期生 沼倉 たまき 会員 (所属：アリゾナ州 シェルズ大学)

理学療法士の修士課程を取得すべく単身渡米している沼倉さんより、「今のところ、カージャックやピストルを向けられるような危険な目にあうこともなく、なんとか生きております」と手紙が届きました。一部を抜粋して掲載致します。

……弘前公園の桜もそろそろつぼみかふくらみ始める頃でしょうか。弘前で生まれ育った私にとって、春と桜は切っても切り離せないくらい重要なものなのですが、医療短大を卒業して以来、かれこれ10年近く弘前公園の桜を見ることなく春を迎えて参りました。悲しいことに、どういう訳なのか詳しいことは知りませんがシェラキューズは、桜の育たない環境とのことで、テレビで、日本から送られたシアトルの満開の桜を垣間見ております。桜どころか4月になってもシェラキューズは、まだ雪が降っています。本当に春の待ち遠しい毎日です。

私は病気がつ、カゼひとつひかず、元気でやっております。相変わらず進歩しない英語に、四苦八苦の毎日です。誰かが「PTはセンスだ」と言っていました、語学の習得にも、センスと、そして適した時期がある……アメリカに行けば言葉はどうにかなるだろうと思って日本を後にしたものの、現実はず、どうにもならない部分かなりあるということでしょうか。ただ、若いに越したことはない、10代の人達には、日常生活・会話力の適応性など、とてもとてまかなわれないということ。それでも、唯一の取り柄である「じょっぱり」と「根性」で、なんとか頑張っています。今は、レポートの締め切りと、もうすぐ始まる Final Exam の準備で私もばたばたしています。末筆ではありますが、PT学会の成功と、医短PT学科の益々の発展を心より祈っております。



現短大教官メンバー(敬称略)

教授：三浦孝雄Dr. 伊藤日出男
助教：對馬均
講師：岩田学Dr. 石川玲
助手：尾田敦、金沢善智、勸林秀行

編集後記

●前年度発行予定のつもりが、もたもたしているうちに今頃になってしまいました。
●弘前では、桜祭りの喧騒も一段落。新緑の季節りんごの花が満開となり、いよいよ青森学会が近づいて参りました。同窓会恒例の大コンパに奮ってご参加下さい。
●新入会員2名の方から初々しい記事を送って頂きました。人生先は長い、気張らず焦らず、自己卑下と過信はせずに、信念を持って、自分らしい人生を見つけて下さい。広報にも、「私はこう考える」というようなご意見をお寄せ下さい。

HAPPY WEDDING & HAPPY EVENT

- ☆ご結婚☆
5期生 山平 斉会員：H6.5. さおりさん
6期生 柿崎由紀子会員：H6.3.5 孝志さん
(旧姓原田)
7期生 佐藤 利佳会員：H6.5.14 亨さん
(旧姓廣瀬)
8期生 田宮 諭会員：H6.4.23 由美子さん
9期生 小野田修一会員：H6.2.26 克子さん
☆ご誕生☆
5期生 坂横 直美会員：H6.1. ありさちゃん
5期生 畠山 祐子会員：H5.12. 桃桂ちゃん

『短大から医学部』

近藤 和泉
思い起せば3年前、福田教授に「近藤君、4月から短大に行ってほしいんだが、いいかね?…」と言われて、「行ってもよろしいですよ」と答えたのですが、心の中では、「ヤッター」と叫んでいました。その理由はさておき、私にとっては夢のような3年間は、あつという間に過ぎて、今回また古巣の脳研に戻ることにあります。もちろん、大学病院のリハ外来におりますので、これからの皆さんや、卒業生の皆さんとはお付き合いが続きますが、やはり寂しい……。それでは最後に

5月になったら、風薫るあの丘に登ろう
その丘が、どれ程遠く、あるいは
あなたと私のたどる道が違っても……
それでも、きっとあの緑の丘に登ろう

ではまた、どこかで会える日を持っています。

弘前大学医療技術短期大学部 新入生 入部式

今春は、二人の教官が異動されました。近藤和泉先生(元講師)が、脳神経疾患研究施設リハビリテーション部門へ、青木主税先生(元助教)が北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻へ助教として赴任されました。お忙しい中、近藤和泉先生より、一言頂いております。

# アールロード no. 41

発行：1994年9月10日  
責任者：石川 玲  
事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
理学療法学科研究室  
TEL・FAX 0172 (36) 0945

## 平成5年度 定期総会議事録

## 青森学会印象記

全国学会の余韻も醒めやらぬ5月30日、弘大医療短大理学療法学科研究室において平成5年度の定期総会が開催されました。以下に討議、決議された事項について報告致します。全国的に記録的な猛暑の中、議事録も記録的に遅れてしまいましたこと、お詫び致します。

去る5月26～28日に開催された青森学会。伊藤日出男学長、対馬均準備委員長、他青森県士会員一丸となって取組み、無事成功裏に終了しました。3ヶ月たった現在でも学会記録集、シンポジウム集録集を発行するべく、作業が続けられています。各ブロックでも各々、学会・研修会開催に取り組んでおられることと思いますが、同窓会の生まれ故郷、青森での全国学会。その裏話、印象等、参加できずに留守を守っておられた会員の方にもお伝えしたいと思います。(関連記事は裏面に記載)

### 【第1号議案】平成5年度事業報告および決算報告について

#### 【理事会からの報告】

##### 1. 事業報告

- ・新入会員は、12期生16名である。
- ・会報発行は、定期総会開催が遅れたことにより、年2回にとどまった。
- ・祝電発信は11件だったが、なかなか情報がわからないことが多い。
- ・Tea Partyに出席した折、同窓会の紹介を行い、あわせて会費納入も100%達成している。

##### 2. 決算報告 (ニュースno.40参照)

- ・会費を未納している会員が大幅に解消され、現在8名を残すのみである。
- ・会議費の決算が0であった。学会の準備に追われ、会議を開くことができなかった。

以上、会計監査においても、決算報告に相違なく、第1号議案は承認されました。

### 【第2号議案】平成6年度事業計画案および予算案

#### 【理事会からの報告】

- ・会員名簿発行の年度であり、準備を進めている。従って、名簿発行のため、通信費が大幅に計上されている。
- ・広報の情報収集等、活動を活性化させるために、広報部員が電話で情報収集するよう、テレホンカードを配付する。
- ・会議を定期的に開催する。

#### 【会員からの意見】 (→理事会の回答)

- ・Tea Party出席について、同窓会の紹介、会費徴収等を行っているので、事業計画にとりあげたらどうか。  
→取り入れていく。
- ・会報は、きちんと発行してもらいたい。  
→承知しました。

以上、議案通り承認されました。

#### 【訂正とお詫び】

##### 【第3号議案】選挙管理委員選出について

平成5年3月1日から施行された同窓会規約により、選挙管理委員会(選挙制度)は廃止されていましたが、今回の議案に掲載してしまいました。役員一同、規約を再確認し、今後徹底するよう申し合せると同時に、訂正とお詫びを申し上げます。この件につきましては、総会においても確認されました。

## 事務局からのお知らせ

次号のニュースとともに、会員名簿を送付する予定です。現在把握している情報を業書に印刷し、前号のニュースと同封致しましたが、66%の回収率に留っております。できるだけ正確な情報をお届けしたいので、まだ郵送していない方は、前号の封筒を再度ひっくり返し、業書に変更の詳細を赤ペンで記入の上、また変更がない方はそのまま、できるだけ早めに郵送して下さいようお願い致します。

また、結婚なさる方は、日時、場所、お相手のお名前をお知らせ下さい。同窓会より祝電を打ちます。ママ・パパになられた方もお子さんの誕生日、お名前をお知らせ下さい。出産祝は送れませんが、ニュースには掲載致しますよ。

#### 【会計からのおお願い】

同窓会費が未納になっている8名の会員の方、リストと督促状を再度同封致しましたので、確認の上、お近くの郵便局から納めて下さいますよう、お願い致します。



HAPPY WEDDING & HAPPY EVENT

★ご結婚★

|      |         |       |        |
|------|---------|-------|--------|
| 7期生  | 古木名寿登会員 | 8月28日 | 美也子さん  |
| 7期生  | 本田 美恵会員 | 9月11日 |        |
| 9期生  | 中江 秀幸会員 | 9月18日 |        |
| 10期生 | 貴田 貴子会員 | 8月4日  | (旧姓太田) |

★ご出産★

|     |         |       |       |
|-----|---------|-------|-------|
| 1期生 | 尾田 教会員  | 9月1日  | 梓ちゃん  |
| 2期生 | 金沢 善智会員 | 6月22日 | 遠君    |
| 4期生 | 阿多 由美会員 | 5月19日 | 政実君   |
| 5期生 | 宮本 久志会員 | 8月6日  | 時恵ちゃん |
| 6期生 | 神 香会員   | 8月28日 | 朋見ちゃん |
| 7期生 | 曾根 和恵会員 | 7月初旬  | 涼太郎君  |

編集集中(99)記  
●毎日が最高気温更新の連続であった今年の夏。じりじりと照りつける太陽にうんざりしていましたが、やっと秋の気配、残暑お見舞いを申し上げます。同窓会NEWSもやっと発行にこぎつけました。●関東以南では冷房が完備されているため、埼玉出張の折、こちらの方が東北よりよっぽど避暑地であると痛感したものです。●猛暑のため、前年度の総会議事録、5月の学会特集…と若干記事が時差ボケしてしまいました。次号は、異動届に記載されていた皆さんの近況を特集致します。人生色々あった方、ご一報受け付けております。

学会長 伊藤日出男  
青森士会全員が結束してとりくんだ第29回日本理学療法士学会は、本当にあっという間に終わってしまった。学会に対する関係者からの意見は概ね好評だった。特に一般公開シンポジウムは好評だった。前弘前大学長の東野修治先生が終了後に感動した面持ちで握手を求めて下さったのが何よりも嬉しかった。終わってから頂いた沢山のお礼状には、学会運営に当たったスタッフの青森らしいチームワークの良さや、学会内容に好意を寄せて下さる方が多かった。私も、運営スタッフが年齢の違いや職場の上下関係、出身学校の先輩後輩等の関係を超えて、一体となってそれぞれの持ち場を守り、見事なチームワークを構成していたのを感じた。

本学会を終えて、私は自分の職業人生に自信を持つことができたように思う。大げさかもしれないが、理学療法士という職業に対して胸を張って世界中どこでも歩けるような自信めいたものを持つことができるようになった。それと共に社会的な責任の重ささも感じている。これだけの社会的な信頼を得たのだから、とてもいい加減なことではできない、変なことをやって社会の信頼を裏切ることではできないと思った。

念願の学会を終えて会員それぞれに感慨があり、貴重な経験をどのように生かしていくか、今後の人生にどう役立てるかはその人次第である。青森県理学療法士会にとっては、法人化の問題とも関連して大きな財産になったこの経験を、さらに生かし発展させる責任があることには間違いないだろう。このことは、特に若い後輩の皆さんに期待したい。

#### 準備委員長 対馬 均

この5年間、持てるエネルギーの殆どを注ぎ込んできた学会が終わった。学会後の社会復帰にむけ、個人的感想、反省を中心に学会を総括したいと思う。

1) 温故知新一計画立案の段階で過去の歴史に多くを学んだ。

5年前学会購致が決められた時、まず札幌学会時の準備委員長だった高橋正明氏に相談し、個人的な準備委員長行動記録の写しを頂くことができた。この記録は高橋氏が個人的メモとして約3年間にわたって克明に準備過程を記したもので、青森学会準備計画を立案するうえでの原動力となった。

2) 一つ一つの準備の積み重ねが信頼できる人物を引き寄せる

全てが初体験のことであったが、最も苦労したのは予算案づくりであった。「金のかからない学会を」という学会長の肝入りで、学会誌の経費負担を減らすことに粘り強い交渉が行われ、実現をみた。

3) 組織を作り、動かすことの大切さと大変さを学んだ

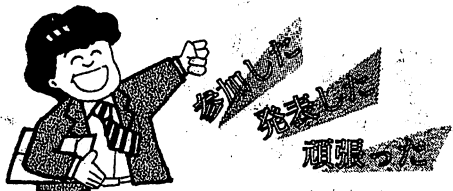
予算規模3,200万円、応募演題数525題、特別演題1題、シンポジウム2題、11会場…という学会を準備し運営していくには、しっかりとした組織が不可欠であることは自明である。今回組織作りから指揮まで担当してみて改めて組織の大切さと連携を取ることの重要性を再認識した。ただ存在するだけでは組織と言えず、機能して初めて組織と言えること、機能するため・させるためにはそれなりの配慮が必要であること等、頭で考えるだけでは気が付かなかったことを実感させられた。これから仕事をしていくうえで役にたつことであろう。

4) 多くの人に支えられたことについて

この1年間は殆ど学会にかりきりであった。果すべき仕事、義務も大目にみてもらった感がある。気が付かない迷惑も随分かけてきたのではと思う。そんな思いと裏腹に、「こんなことをしていいのだろうか」という思いもあった。しかし今はそんな独り善がり反省し、多くの人に支えられてなんとかここまでやれたことに感謝したい。中でも家族には随分と犠牲を強いてきた。文句はいいながらも理解し、見守ってくれたカミさんには感謝の気持ちでいっぱいである。ありがとう。

(以上、青森県士会ニュースNO.139より抜粋)

第1期生 佐藤 山幸 会員  
(所属：秋田大学医学部附属病院)



## 私の青森学会印象記

去る5月27, 28の両日に青森で開催された第29回日本理学療法士学会に参加しましたので、その印象について簡単に述べたいと思います。

私が学会に参加した目的は一般演題で口演することでした。27日には秋田でFESの実験を行っていたため出席せず、青森についたのは28日の昼前で殆どの演題は聞けずじまいで、前日同窓生による懇親会が行われていたことなどは思いもよりませんでした。青森県士会の方々や受付会場で機敏に動いている姿を拝見しながら、途中で恩師の先生に出会いつつ、ゆっくりとお話もできずに発表会場に足を運びました。最近の自分は、予定期限を意識しつつも仕事の締めくくりが遅いため少しばかり忙しく、忙しいばかりに、時には墓穴を掘ることもあります。この度の学会抄録を送付した日は原稿締切日でした。内容をあまりにも多く詰め込んでしまったばかりに、プレゼンテーションが大変、と後で気付くはめに。さらに、文章表現がすいたため、演題部下にあたるかどうかを判定するための事実確認の電話を頂く始末(健常群にもX線撮影を行ったのかというものでした)。

かつて理学療法研究投稿で伊藤日出先生よりご教訓をいただいた折に、「よい原稿を書こうという時は、書いて原稿をしょっちゅう読んで修正するよりもむしろ、何ヶ月か後で原稿をとりだして読むとじっくりした味わいのある文章を書けることがある」と貴重なアドバイスをいただいた事があります。全国学会は原稿締切日より6ヶ月間の猶予があるので、このようなスタイルで臨みたいものです。

ところで、学会の様子はどうだったかという、演者のネーム貼りの座席指定、演者に対する発表前のオリエンテーションが丁寧だったことから、運営側の緻密な準備と係りの方、会場での演者に対する気配りを感じました。これは私が前回の神奈川では経験しなかったことです。

口演後、会場をながめ、青森士会の同期生と情報交換し、その後、昼食を食べて、次の演題抄録締切を間近に控えているため、夕方JR線で帰宅しました。演題が500近くもあるのに、ほとんど聞かずに帰るなんて…と思われる方もいらっしゃるでしょう。私自身もそう思います。チャンスがあり、どうせ全国学会に足を運ぶなら、ゆとりをもって食欲に全日出席できるように計画したいものです。

以上、ご指名頂きながら私事のみ中心に述べ、学会内容に立ち入った話がほとんどできなかったことをお詫び致します。

最後に、本学会の運営にあられた伊藤日出教授はじめ青森士会の皆様のご努力に敬意を表します。ご苦労様でした



第7期生 上村 佐知子 会員  
(所属：赤羽病院)

去る5月27, 28日、私、7期生の上村は、はるばる東京から、しかも病院の経費を使って、青森学会に出席させて頂きました。まず、青森士会の皆さんの大変なご苦労のおかげで青森学会が盛大に、しかも、大成功をおさめられたこと、心からお喜び申し上げます。手おらで学会に出かけた報いとしてどういうわけか「理学療法ジャーナル」の「学会印象記」の執筆を依頼されてしまいましたので、大らかな「学会印象記」はそちらに譲るとして、ここでは本音の部分で少し明したいと思えます。

ひとつは青森という土地柄を考慮して、会場に関する問題(例えば会場が狭いとカかわれているとか、あるいは発表に使われる器具類の不備など…)があるかもしれないと予想していた(すいません…)のですが、どうして、非常にすばらしいものでした。また、シンポジウムⅡでは地域リハと新たな障害予防というものも他分野の方々を迎えて講演されたこともあり、青森はやっぱり質の高い理学療法をしていると感じ、私が弘大出身者であることから、まるで自分事のように気をよくしていました。しかし、一方で現実の日常に戻る私の足取りは重かったのです。

というのも、あまり大声では言えませんが、私の職場は都会にありながら、全く体制の古い中小病院であり、現在、病院の生き残りをかけて、新しいシステムの展開に難渋しております。かくいう私もその一端に立たされながら、自分も含めて職員全体の「意欲の低さ」や「仕事を増やしたくない無言の圧力」に、日々悩まされてきました。そんな中、学会で最も強く感じたことは、「地域リハの開拓者達の精神とパワーを見習わなくちゃ」ということでした。

個人的なことなのですが、私は職場の理解でお昼の大学院に通わせて頂き、今年などは、臨床心理の臨床実習(久々の実習生状態！)まで行かせて頂いているので、上記のようなことを言うのは誠に罰あたりなことだとも思っていますが、この頃の私は理学療法についても臨床心理についても、全く不勉強で落込んでいます。昔に比べて気が軽くなる、目の課題はなんといっても自分自身のマネジメント(エネルギーの分散方法等)です。でも、病院の患者さんや、実習先の自閉症の子供やら痴呆老人と一緒にいた方がエネルギーが湧くので、「早く楽になりたい」と言いつつも、あともう少し頑張ろうと思っています。こんな私に誰か励ましのお便りを下さい。

第2期生 中西 功悦 会員(所属：青森市民病院)

青森学会の準備に参加して  
平成5年秋、「青森学会の運営を手伝ってくだませんか。」と電話あり。これが青森学会との関わり方のスタートだった。事務局・企画部は連日連夜、夜遅くまで活動していた。対照的に運営部は、月1回の集りのみで「どうかなるさ。」とのんびりしていた(私だけ?)。

平成6年5月中旬、のんびり運営部もどうにか血眼になっていた。あること・ないことなどの不安でいっぱいになっていた。

平成6年5月26日、学会本番を明日に控え、各部門とも準備に走り回っていた。

夜8時過ぎ、今日中に別会場に移動させなければならない物品が多数突如目の前に現れた。現場に残っているのは、男4人。何回往復すればよいのかと、エレベーターの前で悩んでいた。その時、エレベーターのランプが目前で止った。エレベーターの中からは、老(?)若男女の県士会・同窓会員十数名の登場。レセプション会場から駆けつけてくれた。映画の名場面のような感じ。これで、青森学会は成功すると確信した。

(青森学会を共に運営・進行していただいた弘前大学医療技術短期大学部PT学科・東奥学園の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。)

第11期生 會津 加代子 会員(所属：弘前中央病院)

前略、皆様お元気でしょうか。  
もうすでに遠い記憶の出来事になりつつありますが、青森県士会員にとっては今年最大のイベントだった全国学会について印象に残ったことを報告したいと思います。

今年、5月26日から28日まで青森市で全国PT学会が行なわれましたが、そのための準備は3年以上前から始まっていた。抄録の締め切りは、去年の11月30日でしたが、集まった演題の総数はなんと525題と過去最高記録だったそうです。その送られてきた抄録を分野別に分類する作業や、パソコンに打ち込むという作業が、よく連日深夜まで続いたものです。査読された後の抄録に対する点数やコメントの入力は大変な作業でした。さらに返信用はがきに受付番号の判を押したり、合否の印を付けるなど仕事は山ほどさせられました。なるべく短大に立ち寄らないようにしようとしても、そういう時に限って人の心を読んでいるかのようにお呼出の電話が病院に来るのです。短大の誰先生とは言いませんが「今日、来れるかな?」の一言に、お断りする勇気のない私は、「はい、喜んで。」と、つい返事をしてしまい、「30分が時間くらいで済むから」の言葉に何度騙されたことか…。抄録の仕分け作業が一段落し、ホッと胸の東の間で、いよいよ学会が近づいてきていると実感し始めたころ、各地区での責任者の人選には近寄りたようなオーラが漂っていました。

学会に向けて短大では備品を各会場毎の箱に仕分けする作業が行なわれたのですが、本の数が足りないと、来賓の方たちの胸に飾る花が行方不明になって、さっきまであったのにと悲鳴をあげながら探し回ったり、運営委員の名札に使うバッジの数が足りなくなって急遽代用品を製作しなければならなくなるなど、箱を閉じながら「あれ?」の連続でした。何度も確認の作業が行なわれたのにも関わらず、実際会場まで開いてみると足りない物があつたりして…。買物に走らされた人もいたようです。

26日は、会場に朝8時30分集合ということで普段の仕事に行く時よりも早起きして行き、10時からの代議員会に間に合うように朝からフル回転で会場設営が行なわれました。午後の代議員会ではケーキが出されたのですが、何個か残り、その場にいた人はラッキーだったと思います。夕方に行なわれたレセプションでも釣りが無くなり、釣行まで走った人もいて、その人曰く、「今までこんな大金を持ったことが無いので、釣りが重さに耐えられず、取っ手が壊れてしまった」と話していました。

27日、学会初日は午前中に特別公演やシンポジウムⅠがあり、午後からは一般演題の発表でしたが、この日一番緊張したのはもしかしたら各会場の責任者だったのではないのでしょうか。なぜかという、その日四国地方では天候が悪く飛行機が欠航という事態が起こっており、座長や演者が来るか来ないかヒヤヒヤだったのです。もし、座長が欠席した場合、会場責任者が座長代理として進行しなければならないという事になっていたため、受付が無事終了した時、会場責任者は一へほっとしたと思います。

設営や運営にあたって会場での連絡にはトランシーバーが使用されたのですが予想しないブザーが聞こえることと「小村さん(運営部長)、どうしましょう?」コールが続出し、叫ばれる回数が多くなるにつれ小村さんの声のトーンが低くなっていくのがわかりました。またこの日、息苦しいくらい蒸し暑かったのもがゆわらず、なんと文化会館の空調設備が故障してしまったのです。ホテル青森側は涼しくて羨ましいと思った記憶があります。

偉大にも学会初日を無事に終えた夜、弘大医短の同窓会が行なわれました。出席した方はご存知だと思いますが、予定人数を遙かに越えた大盛況ぶりでした。私と短大O先生は開始時間より少し遅れて出席したのですが、食事も思うようにとれず、その空腹感を満たすためにその日は皆様よりもちょっと一足お先に失礼したのです。その後、私と短大O先生に加え、もう既にアルコールに満たされつつあるK病院のT先生とその他3名くらいで、スペイン料理のお店(名前は記憶にありません)に行つたのです。そこで食事とアルコール類少しを注文し、楽しくくつろいだわけですが、ここで私は不覚にも少し飲み過ぎてしまったのです。このことが次の日の話題の中心になり、私の存在を大きくアピールしてしまった原因ではあります。事実よりかなり誇張されて伝わっている様子がありますのでこの場をかりて訂正を呼びかけたいと思います。28日、朝から逢う人みんなに「大丈夫?」と声をかけられ、ひきつりながらも笑顔で挨拶し「一体何人の人にお世話になったのだろう」と思いながらひたすら頭を下げていたことを覚えています。学会での仕事より笑顔で挨拶する方が辛かった…。学会が終われば今度は後片付けです。学会の時使った荷物をまた短大まで運んだのですが、未だに片付かない状態で青木先生の研究室に置かれました。いったい誰が、いつ片付けるのでしょうか。

それはさておき、大きな失敗はなく無事学会は成功をおさめることができ本当に良かったと思います。学生をはじめ関係者の皆様、どうもお疲れ様でした。





# アールズ no. 42

発行：1995年2月18日  
 責任者：石川 玲  
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科研究室内  
 TEL・FAX 0172 (36) 0945

## 【事務局からのお知らせ】

弘前大学医療技術短期大学部創立20周年  
 自己企画事業のお知らせ

弘前大学医療技術短期大学部創立20周年  
 自己企画事業のお知らせ

会長 石川 玲

母校である弘前大学医療技術短期大学部は昭和50年に開校されて以来、平成7年度をもって創立20周年を迎えます。これを記念して、短大では記念誌「20年史」を発刊する運びとなりました。

「20年史」編集委員会より、記念誌の購入に当っては各同窓会で呼びかけを行い、2月末日までに部数を提示してほしいとの依頼がありました。つきましては、同窓生の中で「20年史」の購入を希望する方は、下記の方法で本同窓会に申し込みを行って下さい。なお、価格は一部3,500円程度の予定です(ただし送料は別)。今回は購入部数の確認のみであり、代金は後日の支払いとなります。

申し込み方法： 電話またはFAXで購入希望の旨を下記に連絡して下さい。  
 FAXの場合は、氏名、所属、所属先住所、購入部数を明記して下さい。

電話：0172-33-5111 内線5676 (学科研究室)  
 FAX：0172-36-0945 (学科直通、電話兼用)

申し込み締め切り：平成7年2月27日(月曜日) 17:00

短大創立20周年を記念して、下記の事業が開催される予定です。また、今後は、各同窓会の代表者を交えて準備委員会が設立され、活動する予定です。本同窓会からは、会長が準備委員会に参加します。

- 創立20周年記念式典  
 期日：平成7年7月1日(土曜日) 14:30~15:00  
 場所：弘前市文化センター(予定)
- 記念講演会  
 講師交渉中  
 式典に引き続いて15:00から16:00まで開催
- 祝賀会  
 期日：平成7年7月1日(土曜日) 17:00~  
 場所：ホテルニューキャッスル

なお、記念式典には各同窓会会長と在校生の各クラス代表者1名が招待される予定です。記念講演会および祝賀会への同窓会員の参加については、後日改めて連絡いたします。

### 定期総会開催のお知らせ

会長 石川 玲

会員の皆様には、ご清祥のこととお喜び申し上げます。平成6年度同窓会総会を、下記の日時に開催しますので、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

総会開催日時：平成7年3月10日(金)

18:00~19:00

場所：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科501研究室

### 会計からのお知らせ

同窓会費が未納になっている方が、残すところ4名となりました。終身会費制となりましたので4名の方が納入されますと全員達成となります。未納者には、リストを同封致しましたので、確認の上、お近くの郵便局から納めて下さいますようお願い致します。

### 弘大医短PT学科同窓会大懇親会のお知らせ

来る全国学会(東京)において、毎年恒例の大懇親会を、平成7年6月8日(木)夜に開催致します。詳細は次号に掲載しますが、参加希望のかたは、5月中旬までに医療短大石川までご連絡下さい。

FAX 36-0945 (学科直通)

## 弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科同窓会総会議案書

### <議題Ⅰ：平成6年度事業報告>

新入会員：18名(12回生) 会員総数：220名  
 広報発行：NO.40~NO.42+番外編  
 祝電件数：6件  
 会員名簿発行：252部(会員220、現教官4、3年生17)  
 会費未納分の徴収：4件  
 理学療法学科Tea Partyへの出席

### <議題Ⅲ：平成7年度事業計画案>

広報発行：NO.43~NO.45  
 慶弔電報：随時  
 研修会の開催……「テーピング」を予定、期日は未定  
 会費未納分の徴収  
 理学療法学科Tea Partyへの出席

### <議題Ⅱ：平成6年度決算報告>

#### 収入の部

|         | 予算案     | 決算額     | 備考                       |
|---------|---------|---------|--------------------------|
| 会費新入会員分 | 54,000  | 54,000  | 3,000円×18名分              |
| 93年度会費  | 0       | 0       | 1名                       |
| 未収会費分   | 48,000  | 22,000  | 未納会費4名分 → ¥2,000*1=2,000 |
| 前納会費寄付金 | 0       | 0       | ¥4,000*1=4,000           |
| 雑収入     | 0       | 1,633   | 祝賀会有志より ¥8,000*2=16,000  |
| 前年度繰越金  | 525,121 | 525,121 | +決算利息 ¥22,000            |
| 合計      | 627,121 | 602,754 |                          |

#### 支出の部

|         | 予算案     | 決算額     | 備考                           |
|---------|---------|---------|------------------------------|
| 前納分会費返還 | 0       | 0       |                              |
| 事務費     | 10,000  | 14,698  | 封筒印刷, etc                    |
| 通信費     | 92,400  | 103,700 | 郵送料, 切手代(23-23回), 名簿         |
| 会議費     | 7,500   | 0       |                              |
| 広報部活動費  | 20,000  | 15,050  | 23-23No.40, 41, 42, 名簿発行+番外編 |
| 慶弔費     | 10,000  | 4,417   | 慶弔電報6件                       |
| 予備費     | 20,000  | 0       |                              |
| 合計      | 159,900 | 137,865 |                              |
| 収支差合計   | 467,221 | 464,889 | 一次年度繰越金                      |

### <議題Ⅳ：平成7年度予算案>

#### 収入の部

|         | H6決算額   | 予算案     | 備考                     |
|---------|---------|---------|------------------------|
| 会費新入会員分 | 54,000  | 51,000  | 3,000円×17名             |
| 94年度会費  | 0       | 0       |                        |
| 未収会費分   | 22,000  | 26,000  | 未納者4名 → ¥4,000*1=4,000 |
| 前納会費寄付金 | 0       | 0       | ¥6,000*1=6,000         |
| 雑収入     | 1,633   | 0       | ¥8,000*2=16,000        |
| 前年度繰越金  | 525,121 | 464,889 | ¥26,000                |
| 合計      | 604,754 | 541,889 |                        |

#### 支出の部

|         | H6決算額   | 予算案     | 備考                   |
|---------|---------|---------|----------------------|
| 前納分会費返還 | 0       | 2,000   |                      |
| 事務費     | 14,698  | 10,000  | 紙代等                  |
| 通信費     | 103,700 | 56,880  | 23-23発送分：80円×237名×3回 |
| 会議費     | 0       | 0       |                      |
| 広報部活動費  | 15,050  | 12,000  | 8名×500円×3回           |
| 慶弔費     | 4,417   | 5,000   | 慶弔電報等                |
| 予備費     | 0       | 20,000  |                      |
| 次年度繰越金  | 464,889 | 436,009 |                      |
| 合計      | 602,754 | 541,889 |                      |

### <議題Ⅴ：役員選挙>

#### 理事会推薦

会長 尾田 敦(1回生)  
 副会長 金沢 普智(2回生)  
 理事 石川 玲(1回生)  
 河原優美子(5回生)  
 勘林 秀行(6回生)

### <議題Ⅵ：会計監査の選出>

#### 理事会推薦

佐藤比呂子(4回生)  
 古木名寿登(7回生)



# Apple Road no. 43

発行：1995年5月10日  
 責任者：尾田 敦  
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科研究室  
 TEL・FAX 0172 (36) 0945

## 平成6年度定期総会議事録

平成7年3月10日、弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科運動療法室にて、平成6年度定期総会が開催されましたので報告致します。出席者は、役員を含めて10名でした。

### <第I号議案：平成6年度事業報告について>

【理事会からの追加報告】

- ・広報発行：番外編とは、会員名簿と一緒に発送したものである。
- ・会費未納分の徴収：8名の未納者のうち、4名の支払いがあった。

承認

### <第II号議案：平成6年度決算報告及び会計監査報告>

【理事会からの報告】

- ・議事録をニュースに掲載した時点において、正確に確認されていなかった事項があったことから、決算報告の一部訂正が生じた。
  - \*収入の部：決算利息分 287円が計上されておらず、雑収入は1,920円である。
  - \*支出の部：通信費において、議事録に掲載したNEWS NO.42の郵送分を、あらかじめ紙上で計算し、決算に計上したが、3年次学生分をも計算してしまっ(学生には手渡している)。
  - \*以上より、合計、次年度繰越金に修正が生じた。
- ・会議費が0円となっているのは、開催しなかったのではなく、手弁当で実施したためである。
- ・会計監査は、監査委員の日程の調整がつかなかったことから、行なわれておらず、石川玲会長より、謝罪の弁があった。3月中に、前会計監査委員により監査を受け、正確な決算報告を、広報にて会員に報告することで、了承された。

以上にて承認されたが、前会計監査委員の調整がつかず、やむなく、今年度会計監査委員に選出された佐藤比呂氏(4期生)、古木名寿登氏(7期生)により、3月31日、監査が行なわれた。その結果、相違ないとの見解が得られたため、以下に改めて、決算報告を掲載する。

| 収入の部     | H5予算案   | H6決算額   | 備考                                       |
|----------|---------|---------|------------------------------------------|
| 会費 新入会員分 | 54,000  | 54,000  | 3,000円×18名分                              |
| 93年度会費   | 0       | 0       | 1名                                       |
| 未収会費分    | 48,000  | 22,000  | 未納会費4名分 → ¥2,000*1= 2,000                |
| 前納会費寄付金  | 0       | 0       | ¥4,000*1= 4,000                          |
| 雑収入      | 0       | 1,920   | 祝賀会有志より ¥8,000*2=16,000<br>+決算利息 ¥22,000 |
| 前年度繰越金   | 525,121 | 525,121 |                                          |
| 合計       | 627,121 | 603,041 |                                          |

| 支出の部    | H5予算案   | H6決算額   | 備考                        |
|---------|---------|---------|---------------------------|
| 前納分会費返還 | 0       | 0       |                           |
| 事務費     | 10,000  | 14,698  | 封筒印刷, etc                 |
| 通信費     | 92,400  | 102,260 | 郵送費, 切手代 (ニ-ス3回), 名簿      |
| 会議費     | 7,500   | 0       |                           |
| 広報部活動費  | 20,000  | 15,050  | ニ-スNo40, 41, 42, 名簿発行+番外編 |
| 慶弔費     | 10,000  | 4,417   | 慶弔電報6件                    |
| 予備費     | 20,000  | 0       |                           |
| 合計      | 159,900 | 136,425 |                           |
| 収支合計    | 467,221 | 466,616 | →次年度繰越金                   |

### <第III号議案：平成7年度事業計画案>

【理事会からの追加報告】

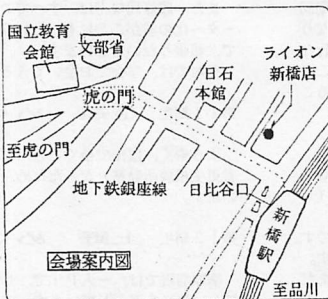
- ・研修会の開催：今年は是非、研修会を開催したい。「テーピング」をテーマとすれば、講師の当てがわり(仙台、ソニー企画の講師)、割安で実施できる。終身会費制、郵送費の値上がりなどにより、予算に限りがあるため、できれば会計は独立採算で行いたい。期間はまだ未定だが、一泊二日を予定している。

承認

### 【事務局からのお知らせ】

来る全国学会(東京)に併せて開催される、毎年恒例弘大医短PT学科同窓会大懇親会の詳細が決まりました。学会に参加される同窓生の皆さん、奮ってご参加下さい。

日時：平成7年6月8日(木)  
 総会終了後の19:00~21:00  
 場所：ライオン新橋店(ピアホール)3Fお座敷  
 交通：新橋駅より歩いて1分  
 国立教育会館(総会会場)より歩いて15分  
 尚、参加人数の確認のため、参加を希望される方は、5月31日までに医療短大石川までご連絡下さい(☎・FAX 0172-36-0945 学科直通)。  
 この詳細は、総会当日、掲示板にも貼り出しますのでお見逃しなく!!



### <第IV号議案：平成7年度予算案>

【理事会からの報告】

- ・予算案は、決算額において、前述の一部変更および行込みミスがあり、訂正したい。
- ・支出の部：前納会費返還の項目で、2,000円計上されているが、終身会費制となったことを忘れて支払ってくれた会員がおり、会費として帳簿に記載せずにすでに返還されたものであった。従って、この項目は削除したい。

【意見・質問】

- ◎研修会について独立採算では準備できないと思われ、予算として計上すべきではないか。
    - 予備費から、一時立て替える形で賄いたく、あくまでも、個人負担で実施したい。
  - ◎医療短大20周年記念事業に、同窓会として寄付を求められるのではないかと。例えば、20万円など要求された場合、予算の項目上無理が生じるため、予備費として計上しておく必要があるのではないかと。
    - 基本的には、卒業生個々人が寄付するものとする。20周年準備委員会で、その旨、確認する。
  - ◎通信費について、広報発行は同窓会の主たる活動であり、一律の計算上の金額のみでなく、もう少し幅を持たせてはどうか。
    - 60,000円とする。
- 以上の討議により、予算案は、以下のようになった。

| 収入の部     | H6決算額   | H7予算案   | 備考                      |
|----------|---------|---------|-------------------------|
| 会費 新入会員分 | 54,000  | 51,000  | 3,000円×17名              |
| 94年度会費   | 0       | 0       |                         |
| 未収会費分    | 22,000  | 26,000  | 未納者4名 → ¥4,000*1= 4,000 |
| 前納会費寄付金  | 0       | 0       | ¥6,000*1= 6,000         |
| 雑収入      | 1,920   | 0       | ¥8,000*2= 16,000        |
| 前年度繰越金   | 525,121 | 466,616 | ¥26,000                 |
| 合計       | 603,041 | 543,616 |                         |

| 支出の部   | H6決算額   | H7予算案   | 備考                   |
|--------|---------|---------|----------------------|
| 事務費    | 14,698  | 10,000  | 紙代等                  |
| 通信費    | 102,260 | 60,000  | ニ-ス発送分：80円×237名×3回+α |
| 会議費    | 0       | 0       |                      |
| 広報部活動費 | 15,050  | 12,000  | 8名×500円×3回           |
| 慶弔費    | 4,417   | 5,000   | 慶弔電報等                |
| 予備費    | 0       | 20,000  |                      |
| 次年度繰越金 | 466,616 | 436,616 |                      |
| 合計     | 603,041 | 543,616 |                      |

承認

### <第V号議案：役員選挙>

- 会長 尾田 敦(1期生)
- 副会長 金沢 善智(2期生)
- 理事 石川 玲(1期生)
- 河原優美子(5期生)
- 勘林 秀行(6期生)

承認

### <第VI号議案：会計監査の選出>

- 佐藤比呂子(4期生)
- 古木名寿登(7期生)

承認

### 役員交代！三代目会長は尾田 敦氏!!

役員改選に伴い、12年間初代会長として任務を遂行された石川玲氏は理事として、新たに新会長には、尾田敦氏が就任することになりました。両氏とも、同窓会設立当初から現在まで6期にわたり、陰になり日向になり、会の活動を支えてこられました。同窓生 237名全員が、「この二人なら知っている」というほど、会の活動にはなくてはならない存在となっております。副会長には、今まで役職こそなかったものの、いろいろと手を貸して下さっていた金沢善智氏が就任します。

新役員を代表して、尾田敦会長から、就任の挨拶を頂きました。

同窓会会長 尾田 敦

このたび、石川 玲前会長からバトンタッチして同窓会会長という大役を引き受けることになりました。短大卒業と同時に同窓会設立以来、12年間副会長として、会長のもとで会の運営に携わってきましたが、今までは会長をアシストするといういわば気分的には比較的案な立場で会計やその他の理事の仕事を行ったり、同窓会名簿の作成などを手掛けてきました。しかし、これからは逆の立場になるわけですが、本来が貧乏性のためか指示をするというよりも自分から動いている方が性に合っているような気がしています。さて、今年度の事業ですが、しばらく停滞していた研修会を開催しようかと考えております。詳しくはApple Roadをご覧くださいとして、是非会員のみならずの参加をお待ちしております。また、今年度は短大の20周年記念でもあり、式典には教官としての立場の他に同窓会の代表の立場として参加することにもなっております。同窓会員の数もこの春第13期生17名を加えて237名となりました。大所帯になるほど運営は大変になります。今年度から理事に新メンバーを加えて同窓会役員一同新たな気持ちで取り組んでいきますので、何卒ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

弘大医短PT学科教育人事

藤田智香子女士転出以来、男所帯が続いていた教育室に、今春女性教官が再び誕生し、久しぶりに華やいだ雰囲気を感じられています。7年間助手としてご尽力された尾田敦氏は、4月より講師に昇任され、後任の助手として、7期生の上村佐知子氏が選ばれました。お二人から、赴任の挨拶を頂きました。

教官メンバー(敬称略)

- 教授: 三浦孝雄Dr. 伊藤日出男
助教授: 対馬均
講師: 岩田学Dr., 石川玲
尾田敦
助手: 金沢善智, 藪林秀行
上村佐知子

講師 尾田 敦 (1期生)

短大に赴任して7年目になりますが、本年4月1日付で理学療法学科講師への昇任を認めていただきました。担当の科目は、義肢装具学ならびに日常生活活動分析学と同実習ということで、青木主税先生からバトンを受け継いだ形になります。当短大では、初代香川幸次郎先生をはじめ青木先生と、偉大な先生方のお陰で、弘大の義肢装具とADLが成り立ってきましたので、私のような若輩者が受け継いでいけるのだろうかとか少プレッシャーを感じています。いままです疾患別の理学療法の中で骨髄損傷を担当していました。国家試験の問題数でも骨髄と義肢装具は比較的比率の大きい分野で、尾田が授業を持ってから弘大の義肢装具はレベルが落ちたといわれないように頑張っていくつもりです。

また、今年度から初めて新入生の担任をすることになり、これもまた今まで味わったことのない目に見えないプレッシャーがのしかかっています。今年の新入生は第16期の入学生で、男性6名、女性14名と女性優位の感があります。なんかか学生と共に個性のクラスになれるように頑張りたいと思っています。日々授業の準備に明け暮れる毎日を送っていますが、同窓生の皆さん、励ましのお手紙でも下さい。

助手 上村 佐知子 (7期生)

今回、またしても本紙、アップロードの原稿を依頼され、厚ましくまた登場してしまいました。どうもすいません。どうしてまた登場してしまったのかといいますが、いろいろな経緯で今年4月1日付で弘前大学医療技術短期大学理学療法学科に助手として勤務することになったためだと思えます。今回の決断は、私個人としては海登に飛び込むような一大決心を要し、ひんしゅくは覚悟の上であったのですが、「まさかあの上村が!」と皆様の大ひんしゅくが聞こえてくるようで、恥ずかしいやら責任が重いやらでちょっと気が重いのが現実です。と言いますのも私の学生時代は、決して優秀な学生ではなかったばかりか、遅刻・欠席・居残り(今はいらっしやらない香川先生に)7期生のワースト3に選ばれたふつつかものだったからです。

しかし、いつまでも昔にこだわっては何にもなりません。私のような人間でも採用されたからには、過去の過ちをい方に役立てて、学生の立場をわかってあげられるような人になりたいと思えます(ことしの3月まで学生だったこともある...)。赴任後、(忘れてていた)学生の時間割をのぞいて見て、改めてPT学科のカリキュラムの厳しさを感じています。そういえば、昔はホント大変だったなあなんて思いつながら、東京のキラキラしている大学生とは比べものにならない現在の学生の(悲壮感の漂う)顔を見ています。別にキラキラしてほしくないと言っただけではありませんが、このような若い時期にもっと学生時代を謳歌して、いい思い出をたくさん作れるようなゆっくりにしたカリキュラムだといいたいのが本音です。

最後に一言。東京で働いているときは弘大出身者が少なく淋しかったのですが、もしも東京で大学に行きたい方がいらしたら、是非赤羽病院なんかもありますので思い切って上京してみたいかがですか?きっと大学院にも行けると思っています。また、弘前には同期の7期生が少なく淋しいので、短大にお寄りになったら私、上村と仲良くしてください。お願いします。



私のページ

第5期生 大橋 哲太 会員 (海外青年協力隊にてタイに派遣)

★この原稿は、2月下旬頃、前回のNEWSに掲載してほしいとのこと自ら送ってくれたものです。航空郵便は早くとも1週間を要するため、到着した時はすでに発送作業が終了し郵便局に行くばかりとなっておりまして、今号に遅らせて頂きました。紙面を借りて大橋君にお詫びするとともに、時節の挨拶がずれしてしまったことをご了承下さい。現在タイは、夏真っ盛りで、日中は40℃にもなるとのこと。大橋君の任期は7月までだそうです。海外青年協力隊の募集に関する説明会が、5月中旬にありま

すので、興味を持っている方、是非ご一考下さい。この冬も、日本は寒いようですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ここタイでも12月、1月は寒季にあたり、朝晩は半袖ではちょっとつらいくらい気温が下がります。ちなみに去年の夏は、日本から来た全ての人々が、タイの方が涼しいと言っていました。ちょっとイメージが違いました。

さて、皆さん、青年海外協力隊について、どんなイメージを持っていますか。「途上国を手助けするために、現地の人々と汗を流して働く」なんて、実は私も思っていた一人です。確かにそういった地域、職種がたくさんあることは事実です。しかし、来てみてびっくり。「こっちの方がよっぽど進んでるんじゃないか」ということも往々にしてあります。

PTの要請先についても何もない所で一から始める人も中にはいるようですが、私の場合、配属先が大学(タイのPT教育は、4年制学士課程です)で、スタッフの半分以上に修士を持っているなどという、実に何とも協力隊のイメージからはなれたものです。初めうちは、なぜここに私はいるのだろうかという疑問に、四六時中つきまとわっていたものの、慣れるにつれ、問題も見えてきて、1年以上たった頃から、後任の要請を出そうかと思うようになりました。

そこで、皆さん協力隊に応募してみませんか。現在、PTについては、要請数に対して、応募者数が非常に少なく、受験すればおおよそ受かっているようです。何も欧米などのリハ先進国に行くことだけが勉強ではないですよ。2年という限られた期間だけだと、自分が主体となって受け身ではない活動を行なうことも非常に勉強になります。ちょっとでも興味を持った方、募集要項を取り寄せてみて下さい。各地で行なわれている説明会に出かけてみて下さい。新興宗教じゃないので、無理やりひきこまれることはありません。たくさんのお同窓生の皆様が、日本語以外の言葉でPTすることを体験してもらいたいと思っています。

第6期生 内藤 麻生 会員 (所属: 北樹会病院)

興動届けから...

春になると、弘前の桜が恋しくなります。札幌は、数日に雪が降りましたよ(4月10日消印のお便りです)。いろいろと報告があります。

①昨年7月25日に大事な大事な息子が生まれました。名前は、「礼(れい)」です。姉の萌似は3歳ですが、姉という自覚はさっぱり芽生えず、気ままに生きています。

②とうとう、PT復帰しました。...といっても、週3回の非常勤ですが...。まだまだ母親業に未練があったって、保育園へ行って、一緒に泣きそうになります。でも、やっぱり、一人の人間として、いろんな問題に取り組むのは楽しいことです。



同窓会活動報告

13期生17名を含む弘大医短同窓生 237名全員が、暗れてRPTとして、全国で活躍することになりました。今春卒業したばかりの新人さんにとって、物理的にも人にも慣れない環境で、肉体+頭脳労働に一日いっぱい励むのは大変なことと思いますが、技術者として免許を取得してから勝負です。近隣の同窓生どうし、情報交換できるよう、13期生の出身地、就職先一覧を同封しましたので、活用して下さい。近況報告(職場の興動、人生転機など)、悩みごとや不安、知りたい情報など、何かありましたら、同窓会にご一報下さい。

第13期生 高橋 美和子 会員 (所属: 亀田総合病院)

この春、弘大医短を無事卒業し、新社会人となることができました。愛する青森県を離れ、千葉県にある亀田総合病院に就職し、早1ヶ月が過ぎようとしています。皆様いかがお過ごしでしょうか。関東方面に就職した同期生が、私を含め、2人しかおらず、津軽弁で気軽に話せる人がいなくて少し寂しい思いをしています。関東方面とはいっても、私の場合、海と山に囲まれた田舎にいて、毎日海を眺め、のんびりした生活を送っています。しかし、のどかな環境とは正反対に業務に追われる日々を過ごしています。PT業務は当然のことながら、新人教育、勉強会、英文抄訳会といったやるべきことが数多くあります。また、乳癌外来や呼吸器リハ、ICUでのリハなど今まで経験したことのない科を経験することになると思います。この病院に来て勉強になると思う反面、自分はその忙しさについていけるか心配しています。しかし、皆頑張っているんだと思えば、心配よりもまずチャレンジしてみようという前向きな姿勢でいるように心掛けています。せっかく関東に来たので、いろいろなことを経験し、勉強して、これからのPTとしての土台を築いていきたいと思っています。最後に、国家試験に合格した皆、RPTとしてお互いに頑張りましょう。

第10期生 下田 裕子 会員 (所属: 赤羽病院)

興動届けから...

御無沙汰しておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。久々に私の近況を報告したいと思います。

私は、この春、めでたく夜学も3年に進級し(2→3年時は留年はないのですが...)いよいよという感じです。

私の行っている東京理科大学では、今年度、大幅にカリキュラムが変更になり、夜間部とはいえ、職を持たない学生が増えたため、授業の開始時間を早めて、一部、昼間部の授業を聞けるようになったり、授業時間が90分に延びたりします(もちろん働きながらでも卒業できるようにはなっています)。

また、履修単位は、すべてコンピューターを通して行なうようになり、コンピューター化の波がここにも...という感じです。とにかくここまできたらやるしかないの、頑張りたいと思います。

それでは、学会でお会いできることを楽しみにしています。

第11期生 足達 めぐみ 会員 (所属: 山形県立日本海病院)

興動届けから...

ようやく、臨床で働くことになりました。2年間事務任事中心(元山形県身体障害者更生相談所勤務)だったため、毎日家に帰ると、ぐったりしてしまう日々を送っています。

第12期生 上野 めぐみ 会員 (所属: 医療法人健和会 柳原病院)

興動届けから...

柳原病院では、一人PTで、しかもこれから、リハ室開設、老健開設、etcと、超忙しい毎日をお過ごししています。でも、楽しい...。今後ともよろしくお祈りします。

編集後記及び古株広報部長からの挨拶(河)

●今年に入り、全国各地での相次ぐ地震、地下鉄サリン事件・臭臭事件、戦後最高の円高、春の統一地方選の異変など、これから日本はどうなるのだろうか...と、誰もが考えざるをえないような出来事が起きています。何気なく過ごしてきた毎日の生活が大きな意味を持って問いかけてくる今日この頃、いかがお過ごしですか。●改めて、さらに2年間、同窓会NEWSを担当させて頂くことになりました。円熟という言葉には程遠く、無茶小食な古株と化しつつあるため、精力的な特集、最先端のPT情報などの提供は他紙に譲りたいと思っています。その代わりに、「私のページ」の充実に向けて取り組み、いい意味でのマンネリにしたいと思っています。●同窓生の方の「唯一同窓生と接触できる機会」という言葉を励みとして、これからも私立探偵のごとく情報を嗅ぎまわっては、無遠慮に原稿をお願いすることになりますが、もうしばらくお付き合い下さい。

## 弘前大学医療技術短期大学部創立20周年記念式典・記念講演・記念祝賀会報告

弘前大学医療技術短期大学部 尾田 敦  
(創立20周年記念式典等実行委員会理学療法学科同窓会代表)

弘前大学医療技術短期大学部は、弘前大学に併設する医療技術短期大学部として昭和50年度に開設されて以来、平成7年度をもって創立20周年を迎えることとなりました。それを記念して、去る7月1日(土)に弘前大学医療技術短期大学部創立20周年記念事業が行われましたので、その概略を報告します。

その前に、自分たちの母校である弘前大学医療技術短期大学部についてその歴史を知っている人は少ないと思いますので、この機会に短大の沿革について、少し紙面をお借りして紹介してみたいと思います。前述の様に弘前大学医療技術短期大学部は昭和50年4月22日に弘前大学に併設され、初年度は看護科及び専攻科助産学特別専攻科が設置されました。その翌年の昭和51年4月1日、看護科は現在の看護学科に改称されるとともに、衛生技術学科が増設されました。さらにその翌年の昭和52年4月1日には診療放射線技術学科が増設され、そして昭和55年4月1日に、理学療法学科及び作業療法学科が増設されて、現在の5学科1専攻科を有する日本でも有数の国立の医療技術短期大学部となり、現在に至っております。

医療短大の前身は、弘前大学医学部附属の看護学校、診療放射線技師学校、臨床検査技師学校、助産婦学校であり、それぞれ長い歴史がありますが、我が理学療法学科、そして作業療法学科は今年度で満15年を経過しました。この間の理学療法学科の卒業生は平成7年3月末日現在で237名を数えますが、短大全体では5学科併せて3,046名(看護1,323名、診療放射線技術学科597名、衛生技術学科637名、理学療法学科237名、作業療法学科252名)、専攻科382名で、合計3,428名の卒業生(修了生)を輩出しており、前身の専門学校の卒業生を加えると、5学科併せて4,199名、専攻科604名、合計4,803名という数になります。

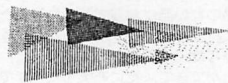
さて、当日の記念事業はホテルニューキャッスルを会場として、14:30より記念式典、15:00より記念講演(講師：前弘前大学学長東野修治先生、演題：「(自然)を師とす」)、16:00より記念祝賀会が行われました。ご臨席いただきました方々の内訳は、学外関係者30名(国立医療短大等部長2名、青森県・弘前市関係4名、保健所関係1名、医師会等関係5名、実習委託施設18名)、弘前大学関係者35名、医学部・附属病院実習関係者26名、本学関係者118名(同窓会代表者5名、非常勤講師16名、名誉教授・短大旧教員・短大旧専務員21名、短期大学部教職員58名、各学科同窓会会員18名)の学内外の関係者各位209名で、予想をはるかに上回る方々のご出席を頂き、大盛況の

も無事成功裏に終えることができました。記念式典では県知事・弘前市長のご祝辞と、短大設立当時にご尽力を頂いた先生方の御苦労が今ここに実を結び、将来の4年制教育の早期実現に向けての期待が込められたお言葉を頂きました。また、前学長東野先生の講演では、格調高き先生の人生観にしみ出るお話を拝聴することができ、この20年の歩みを無駄にしてはいけないとの使命感を味わうことができました。祝賀会では会場狭しと並んだ豪華な料理と、昔を懐かしむご出席方々の熱気で、あっという間に時間は過ぎ去りました。テーブルスピーチでは、弘和会(看護学科同窓会)会長 佐藤アユ氏、及び桜城会(作業療法学科同窓会)会長 大澤昌章氏の両会長より、短大とともに歩んできた同窓会の歴史を含め、お祝の言葉を頂きました。また、お忙しい中、ご出席を頂きました、前教官の香川幸次郎先生とも再会でき(学会時もお会いしましたが…)、夜遅くまで想い出話に花が咲きました。

最後になりましたが、創立20周年にあたり、ご賛同をいただきました関係各位には、日頃より弘前大学医療技術短期大学部の教育にご理解とご協力をいただき誠に有難うございます。この場を借りて深謝申し上げます。また、お忙しい中、記念式典・記念講演・記念祝賀会にご出席を頂きました方々に心より感謝申し上げます。

20周年記念に作成いたしましたテレホンカードにつきましては、同窓会会員より46名50枚の希望をいただき、誠に有難うございました。当日出席いただいた方々には既に無料配付されておりますが、それ以外の方分(38名42枚分)は、同窓会事務局で料金立て替え払いにて事務局で預かりしております。お蔭様で思ったより多くの枚数が発注され、単価が1枚1,000円から800円になりました。

20年史については、66名(66冊)の購入希望をいただいております。各々の希望に従いまして、今回のApple Roadにテレカ及び20年史を同封致しました。当初の予定通り、原則的に現金引き換え制度に従うことと致しますので、内容を確認の上、支払いには、同封の郵便振替用紙を使用して早急に行ってください(振込手数料50円)。繰返しになりますが、テレカのみ希望の方は850円、20年史のみの方は3,550円、両方希望の方は4,350円となります。Apple Road発行の都合上、送付が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。



## 私のページ

### 第9期生 富山 きよ江 会員(所属：北海道循環器病院)

『'95年5月、勤務先変更のお便りより』  
3月31日を以て、4年間勤めた時計台病院を退職し、4月1日より北海道循環器病院に勤務しております。これまでは殆ど見ることもなかった、心疾患、肺疾患を見、毎日勉強が欠かせません。しかし、そんななかでも、一つずつ新しいことを覚えていくことがとても楽しく、充実した日々を過ごしています。勤務してから、間もなく2ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ知識不足で自分自身の未熟さを痛感する毎日でもあります。もっとも勉強して、今よりも判断力をつけ、より患者さんのためになる治療を行えるよう頑張っています。しかし、人間としても、また、PTとしてもまだまだ不十分ですので、今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ致します。

### 第4期生 木目場 みどり 会員

(所属：社団法人全国社会保険協会連合会宇都宮社会保険病院)

『'95年5月、自宅住所変更のお便りより』  
昨年6月29日、次女を産んだ(「みさき」と名付けました)。その後しばらく育児休暇をもらい、育児に専念していましたが、今年3月より復職しました。その約二週間前に主人の仕事の都合で転居しましたが、これまでは保育園を経由しても、10~15分の通勤だったのが1時間もかかるようになってしまいました。しかし、そんな生活にも最近やっと慣れてきたところです。

さて、PTとして復職し、最近思ったことがあります。ライセンスを取得して9年がたちましたが、自分はPTとしてどれだけ一生懸命だったのだろうかということです。せいぜい最初の一年だったのではないかと思います。その後は、教育学を学ぶことに集中し、それが一段落すると、結婚、二度の出産、そして現在に至っています(それはそれですべて貴重な経験ではありませんか)。二人の子供に恵まれ、新しい人生のスタートが始った今、今度はPTとしての自分を磨きたいと思いはじめています。しかし、小さな子供二人を育てながら研修会などにも参加することができませんので、まずはできる限り、ジャーナルなどを読むように努力しています。

私の勤務地も私の入社時に比べ、ベッド数・職員数ともに倍以上になっています。加えて今年度には、老健施設の着工も予定されています。最近、これまで当院では行われていなかった呼吸器理学療法の実習もDr. 側からされました。このように職場内の状況だけでも変化しているのに加えて、世間では、いじめ、オウム問題などに絡んで、人間社会のひずみも問題化されています。PTの職域の拡大に加えて、患者さんの心理的問題なども、考えなければならぬことがたくさんあるように思います。今年度は、我が栃木県にも4年制大学が開校しました。私も頑張ってPTとしてはもちろん、人間的にも成長していきたいと思っています。

### 第4期生 永山 有理 会員

(所属：郡城市郡医師会老人保健施設すこやか苑)

『'95年7月、近況報告のお便りより』  
九州で仕事を始めて4ヶ月が経ち、少しは方言も耳慣れてきました。老健でのPTということで、いわゆる「MAN TO MAN」のPTアプローチだけではなく、時々「これもPTの仕事かな?」と思うこともあります。

そこは、発想の転換、ということで、私は、「理学療法士」である前に、「老健施設職員」であると納得することにしました。もっとも、利用者からすれば、「PTという医療サービスが一番求めることだ」という人も多く、その専門職が他の福祉サービスのために専門性を発揮していないのが不満そうな方がいます。老健を職域とされている皆さんは、どうされているのでしょうか?よろしかったら、教えてください。

もうひとつ、最近のトピックスとして、理学療法士の会の手続きで、納得できないことがありました。移動先の士会で、転入会でも「入会金」の支払いが必要なのです。これって、「法人」の基金として運用されるそうなのですが、金額も結構高い(25,000円)ので、他の疑問と一緒に、士会宛に問い合わせました。そうしたら、電話で士会長から直接回答を頂き、深く突っ込むのも気が引けて、なんとなく納得せざるを得ない状況になりました。またしても、知名度(悪名?)をあげることをしでかした私ですが、誠意ある回答を頂いたことで、疑問をうやむやにすべきではないかと思えました。また、患者や家族から疑問を提示されたとき、誠意ある対応ができていたのだろうか?と反省もさせられた一件でした。

世の中、いろいろありますが、疑問点はちゃんと解決していこうではありませんか!

### 第2期生 金野 税 会員(所属：労働福祉事業団秋田労災病院)

学生の頃から、成績が悪かった。みんなが、80・90点をとっている時、62点ぐらいしかとれなかった。そのせいか、卒業しても、いくら本を読んでも理解できず、仕事をしても、画一的なアプローチしかできず、苦しいと思うことが多かったように思う。卒業して11年になり、未だにわからないことが多い日々だけど、少しずつ、患者さんの問題点が見えるようになってきた。

先日、数人の同級生と会える機会があった。卒業以来の友人もいた。大学へ行ったり、外国へ行ったり、頑張っているんだなあと感心してしまっただけで、病院という組織の中で、息苦しさや時々感じながら、仕事をしている自分が、小さく見えただけで、まだまだ長い道程なので、仕事等頑張りたいと思っています。



『全国研修会に参加して～沖縄見聞録』

第5期生 田中 智子 会員  
(所属：中通リハビリテーション病院)

同窓生の皆様、お元気ですか。  
今回、沖縄の全国研修会に参加してきましたが、それについて原稿依頼を頂きました。全国研修会についての詳細は学会誌を見て下さい。私としては一度は沖縄に行きたいものだと思っていたので私費で行って参りました。その沖縄見聞録ということで様子を報告したいと思います。

出発は、10月25日(水)午前、秋田空港から羽田空港へ、そこから飛行機を乗り継ぎ沖縄に着いたのは午後6時でした。そこからバスで沖縄市のホテルに直行してその日は終わりました(沖縄県の県庁所在地は那覇市だけど、そこから少し北に沖縄市があります)。26日、27日は研修会に参加し、一応勉強しました。10月28日(土)には、お決まりの沖縄観光～ひめゆりの塔、沖縄平和記念堂、玉泉洞文化村(ハブ公園)等～をしました。29日最終日は、飛行機の時間まで那覇市の首里城公園を駆け足でまわって帰ってきました。観光は殆ど駆け足状態でしたが、沖縄気分を満喫して帰ってきた時には、秋田は秋も残りませんでした。沖縄から送ってもらったアイスクリームは、当院のT室の冷凍庫にまだ残っています。

沖縄の青い空、エメラルドグリーン色の海、熱帯の植物を見て暖かさを感じると日本って本当に大きいと思えました。また、沖縄の食文化である沖縄料理は肉も野菜もしっかりと味付けしてあっても、さっぱりしたものでとても健康的なもので、さすがは長寿日本一という感じでありました。沖縄のスーパーでは、豚肉、牛肉の大きな切れ身、大きな豆腐、にがうり、アロペラなど南国の野菜があり、飲み物やお菓子も外国のものも多く、びっくりしました。

交通手段も鉄道がなく、自動車か唯一の交通手段でした。タクシーの運転手さんが言うには、戦争前は沖縄にも鉄道はあったが、戦争ですべて無くなってしまい、再建されなかったということでした。あと、米軍の基地が市街地のすぐそばにあり、沖縄にとっては戦争は過去のことではないような気がしました。

取り留めのない話になってしまいましたが、睡床を東の国離れ、沖縄に行くことで、リフレッシュできたのではないかと思います。今年は、全国学会、全国研修会、現職者講習会など参加することができて、特に充実した一年でした。来年からは今年のように参加できないとは思いますが、どこかでお会いしたら声をかけて下さい。



シサー

『股関節学会印象記』

第7期生 古木名 寿登 会員  
(所属：弘前大学医学部附属病院)

去る11月10・11日の2日間、福岡県久留米市において、第22回日本股関節学会が開催された。今回は、特別企画として「股関節術後の理学療法について」「股関節術後の看護について」をテーマに、PT・OT・NSからの演題が募集され、私は、健生病院のT氏とともに参加してきたので、学会の感想と学会のついでの観光について報告する。

11月8日、雪の青森空港から、福岡直行便に乗って福岡へ出発した。福岡は予想以上に寒く、九州に来たという実感はあまりなく、「走らんか」というNHKの朝ドラの旗が、九州に目についた。次の日、今回の学会の次の目的であった北九州市にあるスペースワールドへ行った。ここでは、真っ先に最大傾斜度60°を売り物にしているジェットコースター「タイタン」に乗り、次に息つく暇なく、5.1Gを体験できる「フリーフォールGO」に乗った。私は一人で大声をあげていたが、旅慣れているT氏は非常に冷静で、フリーフォールが終わった後も「今日は中洲(なかす)でいかに」という下品なギャグを連発していた。学会会場の久留米市は、チェックインのふさであるということで、楽しみにしていたが、それほど都会ではなかった。

さて、学会のほうであるが、T氏は股関節学会の会員であるため、Dr.と同じセッションで初日に発表を終え、次の日には東北学会の開かれる八戸へと後坊しながらも無事に飛んできた。学会初日に、同窓生で山形済生会病院のO氏と二人で少し話をしたが、PT以外の学会で同窓生と合うのも、なかなか乙(おつ)なものであると感じた。

学会自体の印象としては、PTが発表するセッションに多数のDr.も詰めかけており、Dr.が術後の理学療法に非常に興味をもっている印象を受けた。また、日学会の股関節判定基準を改定することについて、PTからの意見を欲しがっていた。発表に対する質問や意見も、重箱の隅をつつくようなものではなく、発展的な質問や意見が多く、今回参加してよかったと満足し、3,000円という会費の安さにも満足しながら、福岡を飛び立った。

『WCPTに参加して～アメリカ理学療法事情見聞録』

第5期生 河原 優美子 会員  
(所属：身体障害者療養施設山郷館)

第12回世界理学療法連盟国際学会が去る6月25～30日、米国ワシントンDCにおいて開催された。学会参加者は、74ヶ国延べ1万人、日本からは約170名、総演題数1,208のうち、日本からの発表は、62演題とのことでした。2期生金沢さんに言わせると、青森市の文化会館の2倍程度の大きさ。発表様式は、口述発表・質疑応答を含むポスター発表・貼るだけのポスター発表と三種類あり、伊藤日出男先生は、第29回青森学会で学会長基調講演として話された地域リハについて、質疑応答を含むポスター発表の様式で発表されました。伊藤先生の秋田弁訛の英語、3期生沼倉さん(現在ニューヨーク在住、ニューヨーク大学大学院在学中)の本場仕込の語学力のお陰で、ひたすらカメラマンに徹する語学力に乏しい私でも、いくらか理解することができました。口述発表もそのさいなのですが、何しろチンパンコンパニ、白髪のおばあちゃんPTが発表している姿には驚きました。さらに無謀にも、朝7時からのモーニングラウンドテーブル(10人程度がテーブルを囲み、軽食をとりながらざっくばらんに討論を行なう)にも参加し、高級ホテルのおいしいパンもどきに食べたのやら、丸暗記の自己紹介の後は、9期生対馬さんとともに、ひたすら首振り人形状態でした。聴覚がだめなら、視覚と触覚で…と、2つの大フロアに設置された約400もの機器展示を駆けめぐり、ワシントンDCの小児施設、開業PTの見学、そして、ニューヨーク大学リハビリテーション部門(Rusk創設)、サランタスコの一般病院(KAIS



ポスター発表と、質問者に写真片手に説明を行っている伊藤先生。

ER創設)の視察をさせて頂きました。  
乏しい語学力で垣間見た米国は、30年前に公的保険制度ができたものの、65歳以上の老人と貧困層のみに適用されるもので、国民の1/3～1/2は無保険であるとのこと。現在、連邦・各々の州政府が医療費抑制政策を強く押出しており、医師が治療の継続が必要と診断しても、政府が保険を支払わないため、医療費を支払えない患者は退院せざるをえず、医師の発言権は制度の前には非常に弱いものである様子。従って、治療は短期決戦、制度で決められた以上の治療を希望する者は、個人契約をかわし、自ずと患者の治療に対する姿勢も日本とは異なるようでした。モーニングラウンドテーブルでも話題になっていましたし、伊藤先生の発表に「日本が羨ましい。青森の地域リハは素晴らしい取り組みだ！」と感激していたワシントン州のPTの話、またニューヨーク大学リハビリテーション部門でも、脳卒中のリハビリプログラムが29日間!その間に家族指導、試験外でも取り入れるという内容からも、医療といえども、営利・競争原理の上になり立っている米国のリハ事情の厳しさを痛感してきました。

あの奈良会長と一緒に、地下鉄で会場に通ったこと、地下鉄構内でWCPTのバッグを見て歓迎してくれたアメリカ人PT、モーニングラウンドテーブルで隣に座ったMrs. キャサリンが、討論が終わった後、話の内容をゆっくりかみかみで説明してくれたこと、一日中歩き通してべばり気味の私の靴を、なんと沼倉さんがかきついてくれたこと、一緒にBコースで参加した12名の、殆ど上司とおぼしきエライ先生方との情報交換などなど、一生の運を使い果たしたのではないかしらと思えるほどの経験をさせて頂きました。嫌な顔ひとつせず、様々なことを援助してくれた沢山の方々に感謝しています。4年後の開催国は、日本。はたして恩返しができるかどうか、現在思案中です。

『95年を振り返って』

第6期生 店場 妙子 会員 (所属：岩手県立遠野病院)

みなさん、こんにちは。久しく会っていない6期のみなさん、お元気ですか。現在私は、岩手県立遠野病院に勤めています。3月がくれば丸2年になります。異病に入り、初めて赴任する所が、「遠野」と聞き、「え～」と思いましたが、どこへ行っても住めば都ですね。みなさんも一度は、いらして下さい。

さて、今年もいろいろありましたが、私の今年の重大出来事は、平成7年12月3日に遠野の方と結婚したことです。一人の時と違い、何かと忙しいこの頃ですが、元気に頑張っています。仕事でもいろいろな疾患の方を現在担当させて頂いており、勉強しながら進めていかなくては、と思っております。「公私ともに充実した年になった」とそんな感じの一年でした。

第13期生 松谷 綾子 会員 (所属：有馬温泉病院)

まず、はじめまして(でない人もいるとは思いますが)、Apple Road初登場の松谷綾子と申します。現在私は、震災で有名になった神戸にある有馬温泉病院に勤めています。さて、95年を振り返ってみると、忙しかった。新人研修会等いろいろなか盛だくさんの一年だったのだ、あれよあれよという間に時間が過ぎてしまったような気がします。その中の重大イベントは、医短を卒業し、初めて就職、また国家試験に合格し、晴れて理学療法士になれたことですが、理学療法士としてまだまだ慣れないことが多く、嬉しきよりも不安に感じたことなどが印象に残る一年となりました。

まず就職して初めに不安だったことは、関西に弘前医短出身の知り合いが全くいないほどになかったこと。それに、今年うちの病院に就職した他の3人の新人さんとはとても堂々としているんです。だから「この人達とレベルで働けるんだらうか?」行き詰ったらどうしよう?」なんて弱気になりましたが、そんな心配は無用でした。自分の病院の人だけでなく、他の病院の人にも力になってもらったり、新人の面々、なかなかユニーク野郎で、たまにはみんんで愚痴など言いつつ、日々の困難をクリアしています。

そして、就職してショッキングだったのが、患者さんの年齢層が70歳代～90歳代とかなり高く、家庭復帰に積極的な方が少なかったことでした。学校出たての私が、家庭復帰のための有り余るパワーをぶつけても空振りばかりで、どうすればいいんだろうと悩み、まだ悩み続けます。効果があったら、家で介護できないから病院に入れられて、自分でどこに向かっているのかわからないおじいさんやおばさんに理学療法をしながら、「この、老いていく人達に、こんなことやって意味があるんだろうか?」と疑問に思いつつも自分で解決できず、理想と現実のギャップを体感し始めた年でもありました。

編集後記

◆今年度第2号目のNEWSが、年賀状と時期が重なってしまいました。きちんとお手もとに届いたでしょうか。

◆私事で恐縮ですが、WCPT(海外旅行と言ったほうが正確か…)初参加の報告をさせて頂きました。おそらく最初のNYの摩天楼の夜景に「30年生きて良かった」と感激したのも間、8月に父が急逝しました。9月にNEWS発行の予定でしたが、一応一家の大黒柱となりてんやわんやのうちに、時期を逸してしまいました。会長交代と同時に、またNEWS発行が不安定となってしまう、記事の掲載時期も多少ずれてしまいました。改めて、自らの組織力のふがいなさを痛感しております。同窓会会長である尾田先生、並びに記事を寄せて頂いた、同窓生のみなさんにこの場をお借りして、お詫び致します。

◆阪神淡路大震災、オウム事件、もんじゅの事故、想像もつかないほどの大きな災いの多かった今年。「禍福はあざなえる縄のごとし」来年は、災い転じて大きな福に恵まれることを願っております。良いお年をお迎え下さい。(河)

|      |                 |            |
|------|-----------------|------------|
| 4期生  | 高野 彩子 氏         | H7. 3. 5   |
|      | (旧姓中村)          |            |
| 5期生  | 石田 秀雄 氏         | H7. 10. 28 |
| 6期生  | 店場 妙子 氏         | H7. 12. 3  |
|      | (旧姓々々)          |            |
| 8期生  | 齊藤 圭介 氏         | H7. 6. 17  |
| 9期生  | 相内 俊範 氏         | H7. 11. 3  |
| 10期生 | 大沼 嵩 氏          | H7. 9. 2   |
|      | 大沼 いずみ 氏 (旧姓竹下) |            |
| 10期生 | 外崎 和明 氏         | H7. 10. 1  |

## 平成7年度定期総会議事録

平成8年4月19日、弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科研究室にて、平成7年度定期総会が開催されましたので、報告致します。

### 【第I号議案 平成7年度事業報告】

#### (理事会からの補足)

- ・広報部の活動停滞により、News発行回数が2回にとどまった。
- ・会費未納分4名中1名から支払いがあった。残り3名は次年度中に徴収したい。
- ・医療短大創立20周年記念事業について、今年度の事業計画に取り入れていなかったが、会長が記念式典等実行委員に委嘱されたため、記念式典の案内、記念品の購入等、同窓会の事業の一環として行い、独立採算として予備費から一時立て替えることとした。
- ・今年度は、研修会を予定していたが、20周年記念事業が活動のメインとなり、開催に至らなかった。

### 【第II号議案 平成7年度決算報告及び会計監査報告】

| 収入の部   | H7予算案   | H7決算額   | 備考                                |
|--------|---------|---------|-----------------------------------|
| 会費     |         |         |                                   |
| 新入会費分  | 51,000  | 51,000  | 3,000×17名分                        |
| 未収会費分  | 26,000  | 4,000   | 未収会費1名分(残り3名)                     |
| 雑収入    | 0       | 3,117   | 決算利息(327円)<br>医短20年史印刷返還金(2,790円) |
| 前年度繰越金 | 466,616 | 466,616 |                                   |
| 合計     | 543,616 | 524,733 |                                   |

| 支出の部      | H7予算案   | H7決算額   | 備考              |
|-----------|---------|---------|-----------------|
| 事務費       | 10,000  | 13,545  | 領収書、封筒(長3号)、印刷  |
| 通信費       | 60,000  | 54,620  | 郵送費、切手代(ニュース2回) |
| 会議費       | 0       | 0       |                 |
| 広報部活動費    | 12,000  | 8,020   | ニュースNo.43,44    |
| 慶弔費       | 5,000   | 4,529   | 慶弔電報6件          |
| 予備費       | 20,000  | 0       |                 |
| 小計①       | 107,000 | 80,714  |                 |
| 医短20周年案内費 | 0       | 2,880   | 葉書、連達           |
| 医短20周年レカ代 | 0       | 34,400  | 43枚(1枚800円)     |
| 医短20年史印刷  | 0       | 174,900 | 66冊(1冊2,650円)   |
| レカ、20年史発送 | 0       | 61,130  |                 |
| 小計②       | 0       | 273,310 |                 |
| 計(①+②)    | 107,000 | 354,024 |                 |
| 収支合計      | 436,616 | 170,709 | →次年度繰越金         |

#### (理事会からの補足)

- ・事務費は、封筒印刷により、予算をオーバーした。
- ・広報部活動費は、Newsが一回分少なかったため、予算額に達しなかった。
- ・医短20周年関係の出貨は、今年度の事業計画に組み込んでいなかったが、同窓会会計の中から、一時立て替える形をとった。

### 【第III号議案 平成8年度事業計画案】

#### (理事会からの補足)

名簿発行は、News No. 46号(秋頃)と一緒に発送する予定である。正確な所在の把握のために、45円葉書にて住所の確認を行う。

### 【第IV号議案 平成8年度予算案】

| 収入の部      | H7決算額   | H8予算案   | 備考                      |
|-----------|---------|---------|-------------------------|
| 会費        |         |         |                         |
| 新入会費分     | 51,000  | 63,000  | 3,000×21名分              |
| 未収会費分     | 4,000   | 22,000  | 3名:8,000円×2名, 6,000円×1名 |
| 医短20周年立替分 | 0       | 263,800 | テレカ、印刷、送料分※             |
| 雑収入       | 3,117   | 0       |                         |
| 前年度繰越金    | 466,616 | 170,709 |                         |
| 合計        | 524,733 | 519,509 |                         |

※テレカ 800円×41枚分, 20年史 3,500円×66冊分

| 支出の部     | H7決算額   | H8予算案   | 備考      |
|----------|---------|---------|---------|
| 事務費      | 13,545  | 10,000  | 紙代等     |
| 通信費      | 54,620  | 130,000 |         |
| 会議費      | 0       | 0       |         |
| 広報部活動費   | 8,020   | 12,000  |         |
| 慶弔費      | 4,529   | 5,000   |         |
| 予備費      | 20,000  | 0       |         |
| 医短20周年関係 | 273,310 | 0       |         |
| 計        | 374,024 | 157,000 |         |
| 収支合計     |         | 362,509 | →次年度繰越金 |

#### (補足)

- ・新入会費分について、22名の卒業生のうち1名入会しなかったため、21名分となった。
- ・医短20周年立替分の送料分について、20年史の送料として900円を見込み、1冊2,650円を含めて、区切りのいい金額として、3,500円とした。テレホンカードについては、Newsに同封できるため、送料はとらなかった。
- ・伊藤日出男先生より、著書の著作権使用料(複製権譲渡の対価)を平成8年より同窓会へ贈与(寄付)して下さることになり、今年度は雑収入に入れることとする。毎年3月、7月、11月の月上旬に実売部数1部ごとに本体価格の5%に相当する金額(源泉税10%)が当口座に送金されることになる。
- ・通信費について、住所確認のための葉書代として、11,250円補足したい。

### 【第V号議案 同窓会の名称変更並びに会則の変更について】

#### 同窓会の名称変更について

- ①将来的に、短大から四年制に昇格する可能性があり、弘大医短5学科で名称がないのはPT学科だけである。
  - ②「～同窓会」では、出振扱いになりにくい。
  - ③銀行や郵便局の口座名が長すぎて、電算処理しにくい。
- 以上の理由で、名称変更が提案された。

#### (意見)

菅原先生の著書から選ぶのも良いのだが、最近の新人同窓生にはわからないであろうし、「野びるの会」では患者会のような印象を受ける。

#### (理事会からの再提案)


第V号議案は懇案事項とし、名称を公募したい。来年度の総会で、改めて決定し、会則の改定を行う。

#### 事務局からの連絡

- ①News No. 46号と一緒に、名簿を発行する予定です。同封しました葉書の氏名・住所・勤務先などに変更がある方は赤で修正した上で、早急に返送して下さいようお願い致します。今春卒業された同窓生の名簿も、その際に配布しますので、ご了承下さい。
- ②同窓会の名称を公募します。知恵を絞り、住所変更葉書の意見欄に記入して下さいようお願い致します。

## 第31回

### 日本理学療法士学会に参加して



5月16～17日、「理学療法的基础」をテーマに名古屋学会が開催されました。発表された同窓生は12名。8期生庵原さんに、学会の様子をお聞きました。

#### 第8期生 庵原 田津子 会員

(所属：順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院)

拝啓 街行く人も夏装が多くなりました。同窓会の皆様には、お健やかにお過ごしのことと思います。去る5月16日、名古屋国際会議場にて行われた日本理学療法士学会へ参加してまいりました。学会デビューだったものですから、出発前の懐かしさといったら…(ご想像におまかせします)。学会期間中は好天に恵まれ、緑のまぶしさが一層目にしみたのか昨日のことのように思い出されます。5年前、倉敷で行われた学会に参加した折も、初夏を思わせる強い日差しと強い緑が印象的でしたが、学会の内容の変遷には驚くばかりのものがありました。

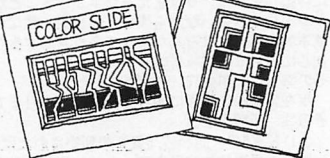
まずは演題数の多さです。学会特別号を手に取りれば一目瞭然だと思えます。以前に参加したときは一般演題集を持ち運ぶことに、さほど抵抗がなかったように思います。これだけ演題数が増えると、発表と同じくらい丁寧に抄録を作らないと十分に意図を伝えきれないと思い、抄録を軽く扱ってしまったのが悔やまれました。

もう一つ印象的だったのは、スライドが格段に華やかになったことです。パソコンソフトの開発によって自在にスライドを操作できるなか、潤沢な研究費を感じさせるスライドあり、楽しく作ったのがよくわかる機能満載のスライドあり、愛らしいほど色彩豊かなスライドあり、と実に多彩なスライドが登場していました。内容よりもスライドを

楽しんでしまった節があるのは否めず、ここでも抄録の重要性を再認識した次第です。今回、スポーツのセッションに演題を出したため、スポーツ懇親会へのお誘いがあり、同窓会会場のうどん屋さんへはたどりつけませんでした。同窓の方々に会えなかったのは残念でしたが、参加セッション毎にコミュニケーションを取れる機会があるのも有意義だと思いました。なお、スポーツ懇親会は非常に独特の雰囲気があり、PTの世界の多面性を垣間見たと思います。興味深い経験をさせて頂き、感謝しております。

最後になりましたが、名古屋という街の印象を列挙します。雰囲気伝わるでしょうか？

- 道路が広い。
- こだわりの道具屋さんが多い。
- 人が多い(浦安よりはずっと)。
- 名古屋ーちゃんはおいしい。
- …ちょっと難しいですね。それでは、またお会いできる日を楽しみにしております。向島の折から、くれぐれもご愛下下さい。



敬具

# 私のページ

第11期生 福島 祥子 会員 (旧姓中川)

(所属：国立療養所南京都病院)

皆様、お元気ですか。平成4年度卒業生です。平成7年4月、結婚にあたって、千葉県より京都府に転居しました。現在国立療養所南京都病院に勤務しています。昨年度は、新しい土地で慣れないことも多く、結構寂しい思いをしましたが、今は、元気に過ごしています。

私は、社会人選抜学生の1期生です。30歳の時、団体職員としての仕事を辞めて入学しました。実に楽しく充実していた3年間でした。無職となり、収入が途絶えた不安、両親の種々の心配を意に介さぬ「ぶり」をする申し訳なさや授業についていく大変さ(頭の働きの上でも、体力的にも)など、大変だなあと思うことはたくさんありました。でも、学校に入ることができた嬉しさとともに、「背水の陣」を敷くことができて、いさぎよく学ぶことに専念できた感じがします。国家試験にも合格し、理学療法士として社会人再出発して4年目、PTとして技量を学び身につけていきたいと思う気持ちと、日々業務の忙しさにまぎれ、疲労感でそんな余裕もなく過ごしてしまう毎日にジレンマを感じるこの頃です。特に肉体的疲労感はずいぶんです。(今勤務している病院が、脳血管障害の慢性期、神経疾患、重症心身障害者など全介助レベルの患者さんが多いことあるのですが…)この1年間にぎっくり腰も3度もあり、腰痛とのつきあいも始まりました。自分の体のことを考えると、どれだけこの仕事を続けていけるのか、今では不安になってしまいました。

短大に入る以前の年と、短大に入学してから今までの年月を比べてみると、後者の方がはるかに密度の濃い時間を送っているようです。短大の3年間、千葉県の病院に勤務し、慣れたところで結婚のため、転勤、転居、今は新しい職場に慣れようとか何とかやっています。高卒で短大に入った場合には、卒業してから、仕事に慣れ、結婚や出産などもそれなりの時間を持って経過することがありますが、社会人学生の場合は、短い時間の間に様々な経験をすることが多いのではないのでしょうか。そんななかで、社会人の学生の皆さん、卒業生の皆さんはどんなことを考えているのでしょうか。

…いかにも大変そうなお話ばかり書いたので、最後におろけです。幸い、私の夫は、弘前で6年間過ごしたことがあり、弘前のことはお互い懐かしく話ができます。毎日、夫が作ってくれる弁当に励まされて仕事をしている私です。

第14期生 佐藤 誠剛 会員

(所属：川崎病院・弘前市)

理学療法学科同窓会の皆様、初めまして。今春、短大を卒業し、新しく同窓会の仲間入りさせていただきました。私のように学業にブランクがあった者が無事に卒業できたのも、いろいろと援助して下さいました諸先生、諸先輩の方々のお陰と感謝しております。失礼ながら、この紙面をお借りして、お礼を述べさせていただきます。

さて、先にも述べましたように、私は28才で短大に入学しましたので、高校卒業から数えて約10年ブランクがあったわけです。その間私は何をしていたかという、実は看護士という職に就いていました。看護士という、どうも「精神科」というイメージがありますが、私の場合は、外科系が主であるICUに勤務していました。「どうしてまた急に理学療法士なんぞに……?」とよく聞かれるのですが、ICUの中でいろいろケースをみるうちに「リハビリを行うには看護士の知識=技術では不足だ」と感じるようになったからなのです。「とりあえず今は助かったが、このまま何もしなければ寝たきりだな」というケースが意外と多いのです。また、この場所では「絶対安静」というフダがよく患者の頭に貼られていますが、このまま何もしなければ決して「患者に触るな」という意味ではないのですが、このフダのお陰で、患者は放置されたままになっていることが多いです。超急性期からでも、後のことを考えると何らかのリハビリの手段があるとは思いますが、残念ながら当時の私にはそれを知る術がなく、それで一大決心の時に、短大に入り、そして現在に至ったというわけです。

また、理学療法士になっていくわけですが、これまでの経緯にうぬぼれることなく、今はまずPTの基礎を身につけようという努力している毎日、早く他に認められる一人前のPTとなれるよう頑張っています。そしてゆくゆくは、これまでの経緯を生かし、チーム類がジャングルのように生い茂るICUの中にどんでん入っていきけるようなPTになりたいという抱負も抱えています。

このように、いつも大きなことばかり考えている私ですが、まだまだだらゆる面でも未熟です。ですから、これらもいろいろな場面で諸先輩方のお世話になることがあるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

第13期生 長内 央臣 会員

(所属：鳴海病院・弘前市)

皆様！はじめまして！今回恥ずかしながら『Apple Road』に登場させて頂きました、長内央臣と申します。理学療法士として働き、早1年が過ぎましたが、院内業務の他、市町村からの在宅訪問リハの依頼、特養でのPT指導、大病院での研修・勉強会、当法人で運営する介護福祉士養成校の講義、病院野球部・バスケット部、等々、目まぐるしい日々を送っています。最近では、患者さんの方の私の仕事の予定を覚えていてくれることが多く、患者さんの方から、「先生、明日の午後は〇〇町さりハビリに行く日だから、午後はいねな！それじゃ、おらも休むがな！ガハハハ！！」といきなり言われて「はっ」とすることが多いです。院内で仕事をしている時はさほど意識しないのですが、訪問リハなどの院外の仕事では、自分の所属施設の看板を背負った理学療法士としてのプレッシャーを強く感じます。しかし、訪問先でリハを必要とされている方々を前にして、その場で的確な治療や訓練方法の指導などをを行い、大きな期待と信頼を得ることが、一つの醍醐味ではないでしょうか。理学療法士として、まだまだ青二才の私ですが、理学療法士という職業と自分が試される現場を持っていくことが大切かと思っています。

尚、私事で恐縮ですが、今年の5月ようやく身を固めることとなり、24時間緊張の日々が続いております。忙しい日常が続きますが、頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 編集後記

★青森では、7月20日過ぎからようやく汗が汗が噴き出す蒸し暑い真夏日が多くなり、夜布団がいらなくなりました。Newsが届く頃には、弘前ねぶた、青森ねぶたが始まります。★第2の人生の再出発にPTという職業を選んだ同窓生の方に近況を寄せて頂きました。また、職場を異動した中堅の方からの意見等うなずくこと、考えさせられることがあります。職場や家庭での体験の中から感じたことなど、寄せて頂ければ幸いです。★全国的に0-157が猛威を振るっています。手洗いを励行し、肉内はよく加熱し、アトラクタ五輪で夜更かしをしすぎず、体をこわさないで、暑い夏を乗り切りましょう。(河)

## 職場を異動して

第3期生 奈良 剛 会員

(所属：青森整形外科クリニック)

皆様お元気ですか。今年の5月に同窓会広報部より原稿依頼を受け、年賀状さ最近は出さない筆無精の私が、最近の出来事について執筆することとなりました。それでは私の近況報告をさせていただきます。

### その① 勤務先変更

今年の3月に卒業以来11年間勤務した、ときわ会病院を退職し、4月に青森整形外科クリニックに就職しました。リハスタッフにも恵まれ、愛着のあった職場を離れることになった理由は、現在の自分のPTとしての在り方に疑問を感じたことでした。もっとPTとしての知識、治療技術の幅を広げるためにはどうしたら良いか。それはやはり臨床の場で実際に学んでいかなければならないのではないか、と考えたのです。整形外科疾患、中でもスポーツ医学に関して学びたいと思いました。色々考えた末、現在の職場に移動しました。今はまだまだ学ぶべきことが多く、日々、成田PT(10期生)に助言、指導をしてもらいながら働いています。我ながら知識の少なさを実感する毎日ですが、基本的な考え方はどんな疾患であれ共通するものだと思います。毎日、忙しいですが、心身に返って頑張っています。

### その② 自動車免許(予定)のこと

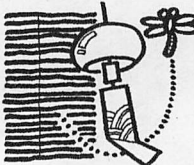
現在自動車教習所に通っています。8月までには免許を取るぞ！！

### その③ 新居のこと

2DK(6畳×6畳×7.5畳)の新築されたばかりのアパートに住んでいます。駐車場、物置付きで家賃6万円は高い！(弘前なら中古の一軒家が借りられるそうです。)収納スペースが広い点はよいのですが、駅まで徒歩30分、バスの本数も少ない割に高すぎなと思います。(青森市の家賃は仙台市と同じくらいだと聞いています。)弘前は、14年間住み、友人も多くの、愛着のあった街です。今回の移動がなかったら、一生住み着くことになったのだろくと思います。青森市に永住するかどうかは未定です。次はもしましたら南の島から近況報告をすることになるかもしれません。それでは次の機会まで皆様さようなら。

### 母校での高校生1日体験入学！

去る3月31日、弘大医療短大理学療法学科主催により高校生1日体験入学が行われました。地元の新報2社、NHKも取材に来てくれるなど、マスコミにも大きく取り上げられました。新聞の切り抜きを同封しましたので、ご覧下さい。



『医療の最前線から在宅の最前線へ～』

第6期生 鈴木 英樹 会員

(所属：札幌市衛生局保健衛生部健康増進課)

早いもので、大病院から市役所に移って1年が経ちました。この間いろいろと感じるところがありましたので、近況かたがた述べてさせていただきます。現在の自分の業務の最たるものは、保健婦と共に在宅療養への訪問リハビリ指導であります。そこでは、療養者の訓練メニューの指導ももちろん実施しますが、家族や介助者への介助方法の指導や日常生活環境の整備などが大半を占めるのが現状です。

話は変わりますが、市役所に勤務する前に、私は大病院に勤務しておりました。そこは、皆さんご承知の通り、医療の最前線であり、そこでのリハビリテーションには一定期間あるいは疾病治療中という限局された環境と期間の中で一定成果(主として機能障害レベル)が要求されます。患者の退院後の生活もある程度は考慮されていますが、機能的な母体をきちんと築いた上で2次的な医療機関に繋げていくことが最大の使命と考えていました。

そのような医療の最前線の環境から、在宅生活のど真ん中で仕事を行うようになって考えさせられることがいくつかありました。そのひとつは医療機関で行う訓練を在宅生活に活用させていくことは非常に難しいということ。病院ではできているのに家では全くできずに寝たきりになる方が多くいます。これは、病院でのリハビリにより家庭生活の活動レベルを維持・向上させようとするのが、治療者側にかかりの配慮が必要であるということの意味しています。我々は、「この人が在宅でどのような布団で寝るのか?」「とか」「何秒くらい立位保持が可能であれば、安全にトランスファーが可能なか?」といった、生活を踏まえた問いにどれだけ明確な回答を有しているのだろうか?生活動作のみならず、必ずそれらを療養者の生活環境に合致させて考えてゆく必要があると思われま。

ふたつめは、自主トレ・メニューのことです。訪問リハを行った際に療養者は医療機関を退院した際に指導された自主訓練の紙を私に見せてくれます。しかしながら、それらを定期的に実施している人々はほんの僅かです。なぜなら、それらのメニューが単調な「運動」だからです。自分たちに置き換えてみて下さい。毎日の自分の運動と目標との間に大きな隔たりがあればあるほど、運動の継続は困難であることは明白です。そのため私は、療養者に具体的な目標を提示すること、運動を運動として時間を設けて行わせるのではなく、あくまで、～のついでとか、～をしながらいという形で行わせるような工夫が必要と考えています。いわれてみれば当たり前のことですが、自分を含めて医療機関に従事している人々の心から忘れ去られているような気がしています。

いろいろと勝手なことを言ってきました。私も療養者の方々にふれる機会が増えたからこそ、このようなことに気づきましたが、病院にずっと勤務していたら上辺だけの教科書的知識で終わっていたかもしれません。そのような観点からすると、視点を養って患者(療養者)と接する機会が得られたことは、自分の理学療法士としての大きなエポックメイキングになっていると思われま。

今回はあまり行政における理学療法士の役割などについて報告できませんでしたが、機会がありましたら、またご連絡させていただきます。



# アロノ no. 46

## 伊藤日出男先生教授退官

発行：1996年12月26日  
責任者：尾田 敦  
事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
理学療法学科研究室  
TEL・FAX 0172 (39) 5981

弘大医療短大理学療法学科開設時から17年間、平成3年からは理学療法学科教授として、教育に研究に臨床にご尽力されてきた伊藤日出男先生が、定年まで3年を残して退職されることになりました。地域保健活動の分野を研究課題として、日本はもとより、秋田弁訛の英語を駆使して世界を飛び回る日出男先生の活躍は、私達に多くの示唆を示して下さいました。長きにわたる単身赴任、同窓生全員にとって、先生であるとともに父親のような存在であった伊藤日出男先生より、メッセージを頂きました。

### まめで居だしか、皆さん？

理学療法学科 伊藤日出男

卒業生の皆さん、お元気ですか。  
私は、来年3月一杯で弘前大学医療技術短期大学部を退職することにしました。弘前大学の教員の停年は65歳ですが、私は以前から自分の「定年」は自分で決めることにしていましたので、肉体的にも限界で、精神的にも「こらえ性」がなくなってきた今がチャンスだと考えた次第です。

私が最もその気のなかつた「教育」という仕事を、17年も続けることができたのは、全国の卒業生の皆さんの活躍が心の支えになったからです。改めて心から感謝申し上げます。辞めてから、何をやるかはまだ決めていません。やりたいことが沢山あるので、今から楽しみです。差し当たり1年間はリフレッシュして、その後の生活をゆっくり考えて見たいと思っています。取り合えずは、今取りかかっている公的な仕事の、四年制大学の理学療法士養成を目指す青森県立保健医療大学（仮称）の開設準備に拍車をかけるつもりです。私の脳裏には、1回生の石井照子さんから極く最近の村林和彦君まで、北は北海道網走の小野博明君から、南は鹿児島県沖永良部島の山本慎治君まで、卒業生一人一人の学生時代の印象が大抵は焼き付いています。でも、次第に年次や名前と顔が一致しなくなりました。

皆さんも、時には短大時代の喜びや悲しみが思い出されることがあることでしょう。また理学療法学科の教育方針に対する賛否両論を含め様々な思いがあるだろうと思います。でも、卒業してしまえば、当然のことながら自分の人生を自分で切り開いてゆかなければなりません。私の知る範囲では、卒業生のほとんどは医療機関や施設あるいは養成校や行政機関に勤務しています。中には退職して家庭を守り、一部の人は方針を変更して全く別の人生を歩んでいる人もいます。

どこで、何をしたいと、「自分自身」を失わないで下さい。何よりも、外国生活の人も含めて、一に健康、二に健康です。元気でお過ごし下さい。短大を辞めても、理学療法士を辞める訳ではないので、これからも皆さんとお会いすることがあるでしょう。私のもう一つの公的な仕事の日本理学療法士学会評議員選考委員会の方は、2005年まで任期がありますので、全国学会や研修会には出向くことが多いはず。もし会場で見かけたら気軽に声を掛けて下さい。

私は特に、1999年横浜で開催されるWCP T学会で、卒業生の誰かが発表するのを楽しみに期待して待っています。

ところで、今から1.1年前の大阪で開催された第20回日本理学療法士学会の折りに、私は緒方洪庵の遺愛を見学し大きな感動を覚えました。最近、「緒方洪庵と遺愛」（梅溪昇著、大阪大学出版会）という本の中に、医師の義務について洪庵自身が書き残したものがあって、その最初の部分だけ紹介して皆さんへの退職の挨拶に替えたいと思います。

1. 医の世に生活するは人の為のみ、をのれがためにあらずといふことを其業の本旨とす。安逸を思わず、名利を顧みず、唯おのれをすてて人を教はんことを希ふべし。人の生命を保全し、人の疾病を復治し、人の患苦を寛解するの外他事あるものにあらず。
  1. 病者に対しては唯病者を見るべし。貴賤貧富を顧みることなかれ。長者一握の黄金を以て貧士双眼の感涙に比するに、其心に得るところ如何ぞや。深く之を思うべし。（原文はオランダ医学書からの和訳で、12個条からなるもの）
- 皆さんには、「何を今更」と思われるかも知れませんが、高級官僚の墮落振りを見聞きする昨今です。緒方洪庵から学ぶものは多いのではないのでしょうか。最後になりましたが、皆さんに挨拶を送る機会を与えて下さった同窓会に感謝します。

皆さん、ひばな！  
See you again !

### 退官される伊藤日出男先生に会員の感謝の声を！

石川 玲  
全ての会員を知っている伊藤日出男先生が来年3月に退官されます。そこで同窓会では、会員の伊藤先生への感謝の気持ちと会員の近況の写真を収録した冊子を贈呈することになりました。ついでには、下記の要領に従って原稿と写真1枚を石川まで送付してください。


1. 原稿・・・B5版用紙（白紙）の上半分に伊藤先生へのメッセージを手書きで記載して下さい。（下半分は写真を貼るスペースとして、また、綴じる分の余白として左側を2cm、それぞれ残して下さい。）
2. 写真・・・最近写したものの1枚。原稿へは貼付しないで下さい。  
◆メッセージと写真をセットにして冊子を作成します。なお、メッセージのみでもOKですが、できるだけ2. の写真も同封して下さい。  
◆また、学生時代に伊藤先生と写した写真があったら同封して下さい（コピー後に返却します）。

<送付先> 〒036 弘前市本町66-1 弘前大学医療技術短期大学部 石川 玲 宛  
TEL 0172-39-5978  
<締め切り> 2月末日必着

### 短大初の9月卒業生誕生！

石川 玲  
去る9月30日に、短大として初めて9月に卒業式が挙行されました。目出度く卒業したのは、理学療法学科の岩城君と村林君の二人です。出席者は吉田学長始め事務局長、千葉学務委員長、学科主任三浦孝雄教授の他、卒業研究を担当した伊藤日出男教授と私でした。式は短大会議室において午前9時から始まり、学長告辞、卒業証書授与の順に厳かに進行し、約15分ほどで終了しました。3月の卒業式のような華やかさはありませんでしたが、入学から3年間担任を務めた私としては感極まるものがありました。本短大大学部での9月卒業はこれまで前例がなく、それだけに今回の二人の卒業は、残念ながら留年してしまった短大の学生に新たな道を聞く意欲深いことであると思っています。なお、二人は現在、弘前周辺の病院でアルバイトしながら国家試験に向けて勉強中です。

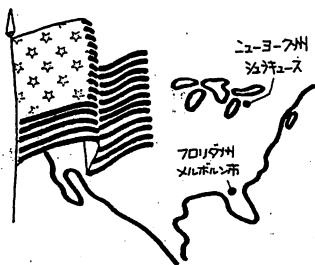
理学療法学科  
今話題のインターネットに、理学療法学科のホームページが開設されました。学生時代が懐かしくなったり、ホームシックにかかったら、下記の番号をアクセスしてみてください。  
<http://itan.cc.hirosaki-u.ac.jp/pthome/index.html>



### 私のページ

理学療法学科も、開設以来17年目を迎え、卒業生も、14期生・258名を数えるまでになりました。会員名簿作製のために送っていただいた住所変更票159通の中に記載されていた近況報告をまとめて掲載いたします。○内の数字は卒業期、（）内は職場の住所（勤めておられない方は自宅の住所）となっています。尚、8月時点の内容であることを御了承下さい。同窓会会員名簿第7版も同封いたしましたので、ご活用下さい。

海外  
◎沼倉たまき会員（7月カリフォルニア州）：こちらは変わらず元気にやっております。ワシントンDCでのWCP Tから、もう1年以上も経ってしまったなど信じられません。  
◎米塚尚子会員（7月カリフォルニア州）：7月一杯で勤務を終え、アメリカへは8月24日発つことになっています。行き先は、フロリダ州メルボルン市です。……9月上旬フロリダから葉書が届きました……フロリダに来て半月ほど経ち、だいぶこちらの生活に慣れたところ。こちらはやはり外ははるかに暑く日差しも強いです。室内はクーラーがききすぎて肌寒いです。治安も思ったより良く、夜でも家の辺りは安全なようです。日中は語学学校に通っています。授業を受けてから、2週間ほど経ちますが、まだまだ語学力はつきそうもありません。それでも何とか暮らしていけます。日本人も学校にたくさんいて少し驚いています。正月頃に日本に帰る予定です。その時にでも来年のPT士会の様々な手続きをしたいと考えております。  
PS. 時差は約13時間あり、日本より約半日遅れています。



卒業後記  
★忘年会、新年会シーズン、皆さん胃腸の具合は元気でしょうか。  
★皆さんの出現で厚生省も面目躍如と思いきや、おミチノとは何事か！エラくなる現場を省みなくなる人が何と多いことか。  
★そんななか、気さくで大胆な日出男先生が退官されることになり、寂しい限りですが、先生のこれからの人生が、ご自分のために充実することを心から願っております。（河）

コヒョウ

- ①鈴木誠会員(帯広): 同窓会の名称は、ズバリ「弘前理学療法研精会」もしくは「津軽理学療法研精会」に決定です。
②岩淵達也会員(旭川): 皆様お元気ですか。
③小野博明会員(網走): 夏だというのにオホーツクでは、朝晩15度前後と冷え込み、文字どおりの冷夏となっております。
④内藤麻生会員(札幌): 復職して1年4ヶ月(8月現在)、独身の頃と違い、子供のお迎えの時間を気にしつつ、限られた時間の中でどうしたらいい仕事ができるか考えつつ、「いつも走ってるねー」と皆に言われて…今日も走っている私です。
⑤鈴木実樹会員(札幌): 社会福祉の勉強がたくて、通信教育を始めました(3年編入)。スクーリングで多くの人と出会うことができ、意欲満々の今日この頃です。

浜田県

- ⑥津崎教司会員(比内): H8.4月から出稼先を廣島町から比内町に変更しました。大館市の隣町といっても廣島町は40分、比内は10分(バイクだと5分!!)と通勤時間が大幅短縮になりました。距離が短くなった分、彼女(セリカちゃん)が飲んべえて酒(ガソリン)をガブガブ飲んで困っています。
⑦高橋貞広会員(横手): 子供が生まれてすっかりバグになりました。
⑧高橋資子会員(大曲): 切迫早産といわれていましたが、今年の10月22日に生期産すべくこみせつで長男が生まれました。仕事に家事に忙しい毎日ですが、夫にそっくりな息子の顔を見るのが楽しみです。親としてはもちろん、人間としてもまだまだ未熟ですが、子供とともに成長してゆけたらと思っている今日この頃です。
⑨村岡真希子会員(大湯): 職場が変わってやっと慣れてきた状態です。弘前には約40分ぐらいで行けるので、時々買い物に出かけています。山の中なので、アップロードが痛いのを楽しみにしています。
⑩高橋信行会員(森吉): 7月はPTの公益事業や北の杜アドベンチャートライアスロン(スタッフで出ました)やらで目まぐるしい月でした。僕は元気で、機会があれば弘前の方へ伺いたいと思っています。追伸: ①自動車運転免許を取得しました。マイカー通勤しています。②短大時代ずっと長かった髪を短く切りました。大人っぽくなった(?)かな。

宮城県

- ⑪石井照子会員(仙台): 同窓会の名称は、中国の故事や漢文の中から適当に選んではどうでしょうか。
⑫佐藤良子会員(気仙沼): 卒業後なかなか弘前を訪れる機会もできず、当時のことが懐かしく思い出されます。
⑬今泉典子会員(仙台): 元気やっています。先日、突然、熱発・腹痛・吐き気におそわれ、時期も時期だけに「O-157?」とドキドキしましたが、ただの風邪だったようです(よかったです)。さて、(8月現在)立秋も過ぎ、仙台もずいぶん涼しくなってきました。患者さんと屋外歩行訓練をしていますが、風が気持ちよくなりました。弘前も同じでしょうか?

福島県

- ⑭阿部雄彦会員(郡山): 日頃より、弘大出身者の後輩と仕事をしたと思っています。卒業生、就職の際には是非ご一報下さい。グレコは相変わらず元気頑張っています。

茨城県

- ⑮浅川晋世会員(西茨城): 4月より新しい職場になり、福祉と医療の連携を自分なりに学ぼうと頑張っています。

埼玉県

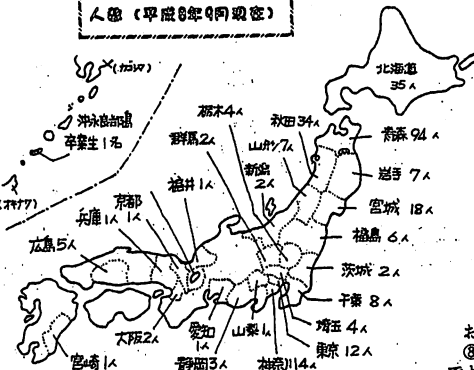
- ⑯田中明美会員(岩槻): (8月現在)暑くてバテ気味の今日この頃、O-157が忘れられた頃にやってきました。今年の夏も少しドタバタしています。平成10年にはリハ部門が拡大しスタッフも増えそうです。家では子猫3匹抱かれていたのを拾い楽しい毎日です。

千葉県

- ⑰宮内朋子会員(銚子): 6月30日、女の子が生まれ、私も母になりました。
⑱松本佳代子会員(松戸): 大変ご無沙汰しております。皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年結婚しました。仕事も就職して5年目を迎え、自分自身を見直している今日この頃です。

- ⑲富山きよ江会員(札幌): 呼吸器、肺PTに悪戦苦闘しています。勉強することが多い分、面白い分野ばかりですが、自分の未熟さを痛感する日々が続きます。
⑳寺田敏子会員(帯広): 新しい職場は、雰囲気も業務内容も以前のとは大きく異なり、戸惑いもありましたが、ゆっくりと患者さんと接することができ、また訪問活動も頻繁に行うことができ、充実した日々を送っています。ただ天候に恵まれないのが残念。寒い夏でした。
㉑平館みどり会員(旭川): 新婚生活もあつという間に2ヶ月(8月現在)が過ぎ、当初は環境の変化や多忙な毎日で体調も崩しがちでしたが、最近は、元気に仕事、また家庭?に愛情を注いでおります。疲れた時にはあのビデオを見て頑張っています。短大の諸先生方、91PTの皆さん心温まるメッセージありがとうございます!!!!

同窓会全国地図(平成8年9月現在)



- ㉒村上亨会員(函館): ここ函館に来て半年が過ぎようとしています(8月現在)。今の職場はPTが一人ということで周りのスタッフから頼られ放して少々疲れています。頼っていた頃がなつかしいんですね。
㉓石田和宏会員(札幌): 10月9日にて北大分院の勤務を終了し、14日より北大本院にて働くことになりました。分院での勤務は半年という短いものでしたが、本院に行くための「準備」がしっかりできたのではないかと考えています。これからは学会・研修会・講習会などで弘大出身者の方と出会う機会が多くなると思いますが、その時はどうぞよろしくお願ひします。
㉔釘本充会員(遠軽): 7月1日より遠軽へ駐在となりました。元気に頑張っています。
㉕津山新也会員(函館): まだまだ失敗することも多いですが、元気を出して頑張っています。これからもよろしくお願ひします。

青森県

- ㉖柴田智文会員(青森): 卒後10年目にして初めてスーパーバイザーを経験しました。自分の後輩になるわけですが、人に教える難しさを経験できました。自分も学生の時、学校の先生や実習地の先生に、いろいろ出来が悪く迷惑をずいぶんかけたなど今さらながら思い、その当時の先生方に感謝しているところです。
㉗百目木洋子会員(八戸): 10月に第2子出産予定です。
㉘清藤恭子会員(青森): 昨午子供が生まれてから、それだけでなく要領が悪いので忙しい日々を送っています。自分でもっとみると、これがかわいい!!もので、他人の子でもかわいく思えるようになったのか不思議です。これを励みに、仕事・家事・育児と頑張ります!!
㉙村田ふじみ会員(弘前): この次こそは「旧姓」の欄に「村田」と書いてみたいもんだ…と希望を捨てずに頑張っております。(なあんてね)
㉚齊藤圭介会員(弘前): 同窓会名については「野びるの会」でよいと思います。

岩手県

- ㉛宇野光人会員(浪岡): 元気です!!
㉜加藤義人会員(八戸): 最近になってやっと自分が本当にやりたいものが何なのかということが少しずつわかってきました。わかってくるにつれて現在の自分の仕事の内容に疑問を感じるようになってきました。毎日悶々とした日々を過ごしながらも手をぬいたような仕事だけはするなと自分に言い聞かせてPTやっています。
㉝山口由香子会員(八戸): 今年4月に寮よりアパートに引っ越ししました。大きな変化なく過ごしています。3年目の今でもやっぱり津軽弁がゆけず笑われっぱなしです。
㉞浅利尚美会員(盛岡): H8.8.2.3.330g 50cmの男の子が生まれました。突然ですが、自分の子とはともかわいいです。日に日に顔が変わり、肉付きが良くなって、これからの成長が楽しみです。
㉟齊藤香織会員(七戸): 就職してから早1年が経ってしまいました。何とか仕事に慣れてきましたが、まだまだPTとしての知識・技術・経験の不足を痛感している毎日、それを埋めよう頑張っています。七戸での生活もすっかり慣れ、休日になると相変わらずいろいろなところに飛び回っています。これからも仕事はもちろんいろいろな方面で頑張りたいと思います。
㊱中道徳子会員(むつ): 皆様お元気でしょうか? 私は相変わらずマイペースで毎日を送っていますが、アップロードで、13期生の様子を知らなくて、刺激を受けられ、安心したりもしております。私もそろそろ頑張って発表の一つでもしてみようかな、なんて思っている今日この頃です。
㊲山田克彦会員(青森): 1年目で悩むこともありますが、何とか頑張っています。
㊳伊藤江里子会員(平石): 皆さんお元気でしょうか。私の近況ですが、特に報告するような変化はありません。そのこといろいろなと考えることが多くなり、少し変わらななかなと思っているところです。
㊴塩口春雄会員(遠野): H8.5.4に長男大(りょうた)が生まれました。
㊵菅原孝子会員(水沢): 変わらないです。元気やっています。
㊶佐藤美穂会員(平石): 元気です!!

東京都

- ㊷板橋直美会員(小平): どっぷり主婦と育児にかかっている毎日です。PTをやめて3年、情報にもうというので同窓会誌で、皆さんの頑張りにふれて刺激にしています。
㊸高橋恵子会員(府中): この夏は旅行と登山に明け暮れました。北岳から農島岳への縦走はきつかったけど、とても良い思い出となりました。先日、弘前病院PTOT会ニュースで、出身地が秋田で、弘前医歯を卒業されたという小川さんの名前を見つけた時は、とても嬉しかったです。
㊹上野めぐみ会員(足立区): 我が母校病院が建て替え工事に入ることが決定し、新体制におけるリハビリテーションの位置付けについて日々検討しております。下町都市型地域医療は奥が深く、まだまだやめられません。
㊺平山大樹会員(千代田区): 一人職場にて多忙を極めておりますが、心身ともに健康であります。また、最近ネコを飼い始めました。名前は「ゴエモン」です。私もともしよろしくお願ひいたします。

広島県

- ㊻三浦雅史会員(広島): 皆様お変わりなく、お元気でしょうか? 広島は連日35度近くまで気温が上がって、汗腺が開きっぱなしです。大学院での勉強も軌道に乗ったかと思うと夏休みです。学生は時間の余裕があり、最高です。さて、今年は広島国体・身障者国体が行われ、私もトレーナーのようになっています。是非、一度広島に来てみんさい(広島弁です)。
㊼渡辺恵子会員(広島): 皆様お元気でしょうか? この度、東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻の入学試験に合格致しました。来年4月からは仙台に移り学生生活を続けたいと思っています。発表までには緊張していましたが、合格できて安心しました。初心を忘れず最後まで頑張ります。
㊽山崎真実会員(都城): 平成8年11月には、医局のデイケアセンター(名称未定)への所属となります。現在開設準備中です。PS. 同窓会名: 「PTスタッフ弘前」なんてどうでしょう?

# Apple Road no. 47

発行：1997年7月16日  
 責任者：尾田 敦  
 事務局：弘前大学医療技術短期大学部  
 理学療法学科研究室内  
 TEL・FAX 0172 (39) 5981

## 平成8年度定期総会議事録

平成8年4月15日、弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科研究室にて、平成8年度定期総会が開催されましたので、報告致します。

### 【第I号議案 平成8年度事業報告】

1. 会員数：258名  
平成8年度新入会員21名（14期生）への入会オリエンテーション
2. News発行（Apple Road）：No. 45～46、番外編2
3. 会員名簿の発行：第7版
4. 慶弔電報：4件
5. 会費未納分の徴収
6. Tea Partyへの出席（平成8年3月）古木名寿登氏
7. 弘前大学創立50周年記念事業への参加  
弘前大学創立50周年記念事業後援会が発足し、会長が理学療法学科同窓会の代表として委嘱された。

### 【第II号議案 平成8年度決算報告及び会計監査報告】

| 収入の部          | H8予算案   | H8決算額   | 備考                                        |
|---------------|---------|---------|-------------------------------------------|
| 会費 新入会費分      | 69,000  | 69,000  | 3,000円×21名分（卒業生22名中、1名入会の意思なし）            |
| 未収会費分         | 22,000  | 8,000   | 1名分（未納2名、残り14,000円）                       |
| 短大20周年事業立て替え分 | 263,800 | 236,100 | 75名分（未納8名、残り27,700円）<br>記念誌3,500円；テレカ800円 |
| 伊藤日出男教授印税寄付   | 0       | 21,407  | 7月9日 11,162円<br>11月8日 10,245円             |
| 雑収入           | 0       | 184     | 決算利息<br>名古屋学会懇親会残金寄付                      |
| 前年度繰越金        | 170,709 | 170,709 |                                           |
| 合計            | 519,509 | 512,380 |                                           |

| 支出の部   | H8予算案   | H8決算額   | 備考                      |
|--------|---------|---------|-------------------------|
| 事務費    | 10,000  | 8,363   | ハグリ紙、紙                  |
| 通信費    | 110,000 | 99,285  | News No. 番外編、45、46、名簿発行 |
| 会議費    | 0       | 0       |                         |
| 広報部活動費 | 12,000  | 4,420   |                         |
| 慶弔費    | 5,000   | 4,541   | 慶弔電報4件                  |
| 予備費    | 0       | 0       |                         |
| 合計     | 137,000 | 116,609 |                         |
| 前年度繰越金 |         | 395,771 | →次年度繰越金                 |

### 【第III号議案 平成9年度事業計画案】

1. News発行 No. 47～49
2. 会費未納分の徴収と20年史及びテレカ代立て替え分の徴収
3. Tea Partyへの出席（平成9年3月）対馬栄輝氏
4. 慶弔電報の発信
5. 教育プロジェクトへの協力：第2回高校生のための理学療法学科体験入学（平成9年3月29日）長谷川至氏 対馬栄輝氏
6. 学会時の同窓会懇親会の開催

### 【第IV号議案 平成9年度予算案】

| 収入の部      | H8決算額   | H9予算案   | 備考                     |
|-----------|---------|---------|------------------------|
| 会費 新入会費分  | 69,000  | 69,000  | 3,000×23名分             |
| 未収会費分     | 8,000   | 14,000  | 2名：8,000円×1名、6,000円×1名 |
| 医短20周年立替分 | 236,100 | 27,700  | 未収分（8名）                |
| 雑収入       | 13,164  | 0       |                        |
| 伊藤教授印税寄付  | 21,407  | 0       |                        |
| 前年度繰越金    | 170,709 | 395,771 |                        |
| 合計        | 512,380 | 506,471 |                        |

| 支出の部      | H8決算額   | H9予算案   | 備考                   |
|-----------|---------|---------|----------------------|
| 事務費       | 8,363   | 10,000  | 紙代等                  |
| 通信費       | 99,285  | 70,000  | News3回発行（80円×会員数×3回） |
| 会議費       | 0       | 0       |                      |
| 広報部活動費    | 4,420   | 12,000  |                      |
| 慶弔費       | 4,541   | 5,000   |                      |
| 伊藤教授退官記念品 | 0       | 55,000  |                      |
| 予備費       | 0       | 50,000  | 大宮学会懇親会              |
| 合計        | 116,609 | 202,000 |                      |
| 前年度繰越金    |         | 304,471 | →次年度繰越金              |

【第V号議案 同窓会の名称変更並びに会則の変更について（継続議案）】  
 前年度に同窓会の名称変更について提案され、同窓会Newsで公募しているが、採用できる名称がない。引き続き、同窓会Newsで募集していく。

### 【第VI号議案 役員改選について】

- 会長 尾田 敦（1期生）  
 副会長 対馬 栄輝（9期生）  
 理事 河原優美子（5期生）  
 勘林 秀行（6期生）  
 笹嶋美佳子（12期生）

### 【第VII号議案 会計監査の選出について】

- 佐藤比呂子（4期生）  
 金沢 善智（2期生）

## 弘前大学創立50周年記念事業について（連絡事項）

弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科  
 同窓会会長 尾田 敦

弘前大学は、昭和24年5月新制大学として創設され、平成11年には創立50周年を迎えることになり、大学の整備・充実と一層の発展を願い、記念事業の計画を計画中であります。

事業実施に当たっては、卒業生・修了生並びに本学所縁の有志をもって、「弘前大学創立50周年記念事業後援会」が組織され、これを推進していくことになっております。現在のところ、事業の趣旨・計画が作成され、同後援会による募金活動の実施に向けて鋭意作業が進められております。この事業活動を更に円滑にするため、このたび新たに「弘前大学創立50周年記念事業協賛会」が設置されることになりました。そこで、この協賛会幹事として各同窓会会長が敬任の依頼を受け、我が理学療法学科同窓会としても理事会で討議した結果、他同窓会と足並みをそろえ、依頼を受けることとなりましたので、ご報告申し上げます。

より具体的に説明すると、この協賛会の会長は、木村守男氏（青森県知事・弘前大学拡充促進期成会会長・青森テクノポリス開発機構理事長）で、事務局は「青森県弘前市大字宮園三丁目1番地の17」に置かれております。

募金の目標額は7億3千万円で、募金の単位は1口10,000円となっております。教職員・卒業生に対しては、「できるだけ多くのご協力をお願いします」ということで、協賛会事務局から直接、会員に募集依頼の連絡が届くことになっております。その際には、例えば卒業後10年以下では1口以上、20年以下では2口以上というような目安を提示して募金を募ることですので、賛同される方は銀行または郵便局から「弘前大学創立50周年記念事業後援会」名義の口座に振り込むこととなります（分割払いも可）。なお、この募金活動について、同窓会としての個別具体的な働きかけや、無理矢理募金を集めたりといった義務（いわゆるノルマ）は発生しないことを確認しております。あくまで卒業生個人としての意志に任せられることとなりますので、ご了承ください。

ご結婚を控えている方は、招待状のコピーを遠慮なく、FAX（39-5981）してください。  
 同窓会から、お祝いの電報をお送りします。

## 事務局からの連絡

### 同窓会名簿印刷中

引き続き、同窓会の名称を公募します。これぞと思う方「同窓会」じゃ出張扱いにならないと嘆いているあなた、どしどし応募して下さい。

### お金、払って!!

医短20周年記念品のテレカ20年史代をまだ支払っていない4名の方々、早急に支払って下さいませよう、お願い致します。詳細は、事務局・会計担当の勘林までご連絡下さい。

### ご結婚・ご誕生おめでとう

- 7期生 伊藤佐知子会員：6月14日（旧姓：上村）  
 小杉 悠久会員：6月21日  
 9期生 河村 善信会員：5月17日  
 10期生 黒沢 祝会員：6月1日  
 11期生 佐々木孝夫会員：6月1日  
 平山 優子会員：7月19日（旧姓：鈴木）  
 村上 功一会員：5月17日  
 12期生 平嶋みどり会員：男児出産

### 台語おめでとう!!

- ①第15期卒業生の皆さん、国試合格おめでとう  
 入会員まだの方は早めに送って!!  
 ②東北大学大学院医学系研究科障害学専攻  
 運動機能再建学講座入学  
 ・倉津加代子さん（10期生）  
 肢体不自由学講座入学  
 ・渡辺恵子さん（12期生）  
 ③広島大学医学部保健学科入学  
 ・永野克実さん（14期生）

### 同窓会新旧役員挨拶

会長 尾田敦：後2年、会長を務めることになりました。2名の入れ替わりがあり今後、若手にバトナゲしていかねば...と考えております。  
 副会長 対馬栄輝：仕事の内容はよく分かっていますが、頑張ります。  
 理事 勘林秀行：電報のみでなく、会計も事務処理全般をやっていきます。河原優美子：馬鹿の一つ覚えで広報一筋に10年、これからの2年は力強い若手にバトナゲです。笹嶋美佳子：お手伝いだけでしたが、もう少し頑張ります。（名誉理事）石川玲：同窓会に携わって12年第1編は退きますが、仕事は手伝いますぞ。



# 對馬 均先生弘大医療短大PT学科教授就任!!



平成9年3月、母校でも人事異動がありました。伊藤日出男先生、上村佐知子先生が退職され、PT学科教授として對馬均先生が就任され、若手助手對馬榮輝先生、長谷川至先生が赴任されました。3名の先生方から挨拶を頂きました。

弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科教授 對馬 均

助手 對馬 榮輝

同窓会の皆さん、お元気ですか？

それぞれの職場でご活躍のことと思います。

今春、伊藤先生が退職されたあと、教授の重責を担うこととなりました。身の引き締まる思いです。学科のスタッフも若返り、私が一番の古株となってしまいました。これまでご指導いただいた諸先生方や、いろいろな意味で教育としての私を育ててくれた卒業生の皆さんに感謝するとともに、学科がますます発展して行くよう、努力していく所存です。

さて、かねてより検討が進められております医療短大の医学部保健学科への昇格構想について、最新の情報をお伝えします。

実現にまつ課題であったいくつかのハードルが、吉田学長のリーダーシップによりクリアされ、現在、来年度の概算要求の重点項目として位置付けられています。5月に入ってからは、医学部を中心として、文部省との折衝が精力的に行われています。文部省としては、この財政難の局面に如何にして予算を獲得するかということが最大の課題のようで、大蔵省に対して説得力のある計画案とするための宿題が、上京する度に提示されております。

そんな状況ですので、弘前大学医学部保健学科実現の見通しについては、いまの所、どちらとも言い難いところですが、いずれにせよ、今年暮れの復活折衝の時点で、はっきりするものと思われまます。

一方、青森県立保健医療大学（仮称）の方は、着々と準備が進んでいるようです。私も、昨年度から、基本構想、カリキュラム、施設設備検討、情報システム構想などの立案に関して、準備委員会に協力してきました。4月からは弘大1期生の川口氏が準備室に入り、来年4月の文部省申請に向けて、鋭意、作業を進めているようです。

ということですので、うまく行けば（確率は？）平成11年4月に弘大と県立大の同時開講が実現するかもしれません。実現に向けて最善を尽くしたいと考えております。皆さん方も、毎日の臨床を大切に、患者さんと共に精進されることを期待しております。

教員：均、教授：三浦孝雄、對馬均氏、講師：岩田孝、石川玲氏、尾田敦氏、金沢善吾氏、助手：勸林秀行氏、對馬榮輝氏、長谷川至氏

平成9年3月31日付けで津軽保健生活協同組合健康病院を退職し、平成9年4月1日から弘前大学医療技術短期大学部に赴任しました。まる4年働いた「病院での理学療法士」という仕事を辞め、教育になるということは、不安もあり、また寂しい感じもしました。今の仕事は、主に授業の準備や雑用で追われ、忙しい毎日です。病院で仕事して、自分のペースで研究してきたときよりも、忙しい気がします。不慣れな授業ですから、学生の協力も頂いています。手を抜くことはできるのですが、「決して甘くはひかない世界、どりあえずがんばりましょう！」という気持ちでやっています。

助手 長谷川 至

このたび、平成9年6月1日付けで理学療法学科に助手として着任いたしました。私は、平成4年3月に当理学療法学科を卒業しまして、帝京大学医学部附属市原病院（財）麻生郡研究所以前病院に勤務してきました。出身は青森県ですが、その後神奈川県、千葉、東京、弘前と転々として現在に至っています。実家は千葉県九十九里海岸にほど近い場所にあるのですが、弘前が忘れられず戻ってきた次第です。今でも千葉県の方言と津軽弁が混じり合っていますが、少しずつ自然に津軽弁が使えるようになってきました。ヒアリングが一部地域の高齢の方々の方言以外は、会話に困らないようになってきました。今後も津軽弁に磨きをかけて、津軽弁講座が開けるくらいになりたいと思っております。

趣味の方では、4年前に自動車二輪免許の限定解除に合格して、念願であった大型バイクに乗ることができました。弘前に戻ってきてからは、北海道ツーリングに参加するなどして、バイクライフを楽しんでいます。機会があれば、オフロードバイクにも乗り、海や山にも行きたいと思っています。

今回、教育として母校に戻ることで、とても光栄に思っております。まだまだ経験年数が少なく、知識、技術ともに劣っています。しかし少ない経験ながらも、得たものができるだけ学生にフィードバックして、一緒に勉強しながら切磋琢磨していきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

## 私のベース

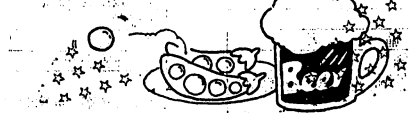
### 盛會だった大宮学生会懇談會

10期生 石川 玲 会員（弘大医短PT学科講師）  
去る5月16日（学会初日）に、大宮市のキッチン「グディ」で同窓会の懇談會が開催されました。今回の懇談會は、同窓生の親睦だけでなく伊藤日出男先生への感謝の意を込めて企画され、参加者は総勢39名に達しました。同窓生の他に對馬均先生、教官OBの青木主税先生（北里大学）、香川幸次郎先生（岡山県立大学）、藤原伸一先生（秋田医短）も駆けつけて下さり、さらに石川孝幸先生（あすなろ学園）、当日協会長賞を受賞された兼田昭先生（八戸市立東市民病院）も出席して下さいました。  
なお、同窓会では伊藤日出男先生のご退官にあたり、是非記念パーティーを開催したい旨を伊藤先生に申し出ましたが、ご本人の意向でやむなく記念パーティーの開催を断念いたしました。謝恩会は出ないが、コンパなら出席するという伊藤先生のポリシーを思い出していただければ皆さん納得いただけると思われまます。それまでに多くの同窓生から記念パーティーの問い合わせが寄せられたこと、大変な事情であったが大宮の懇談會で同窓会としての感謝の意を表したことをご理解いただきしたいと思います。

さて、伊藤先生は夜もたけなわの頃に到着しました。早速、尾田会長から同窓生を代表して感謝を込めた挨拶があり、同窓会からの記念品の目録を贈呈しました。今から思えば、当日出席した美しい面々にお願ひして花束の贈呈も行えばよかったと後悔しています。なお記念品は、「伊藤先生と言えば万年筆」というセオリー通り、5期生の河原さんに見立ててもらった5万円の万年筆セットとなりました。伊藤先生の挨拶の中には、現在秋田大学の大学院に入学して、今も学期に1回しか帰らないと話があり、会場のおちこちで「すごい、さすが〜、やっぱり」といった反応が見受けられました。ん〜、やっぱりすごい！その後お決まりのコースで出席者の近況報告があり、間もなく懇談會はおひらきとなりました。その後、誰がどこへ行ったかは知りませんが、私は宮本君、山平君（共に5期生）、宮川君（12期生）とどこかで飲んでいました。青森学会以来、学会に参加してなかった私にとって、懐かしい面々と再会できたことを非常にうれしく思っています。「石川は、いつも体をこわしている」と思っている皆さん、決してそういうことはありません。来年は京都でまだ飲むぞ〜。

最後に、今回の会場手配に当たっては、田中明美さん（3期生、埼玉小児医療センター）にお骨折りいただきました。学会主催士会という忙しい中にあつて、同窓生のためにご尽力いただいたことに心より感謝申し上げます。また、同窓生からの伊藤先生へのメッセージは67名の会員から寄せられ、去る6

月に行われた上村佐知子さんの結婚披露宴の際に直接伊藤先生に手渡したことをここに報告します。ご協力ありがとうございました。



### 忙しかったっっっ！！！埼玉準備委員

12期生 野呂 桐子 会員（所属：春日部市立病院）  
みなさん、お久しぶりです。元気でやっていますか？私とはといえば、相変わらずの調子で日々暮らしているのですが、この間、ついに25歳の節目の年を迎えてしまいました……。こうなると「そろそろ……」と心配顔、にやけ顔のおじさん、おばさんのつっこみも気になりだして「くそっ、今に見ておれ」と心の中で拳を握りしめ、唇をかみしめるなんともストレスのたまる今日この頃です。（12期生のみんなだってそうなんですよ。）

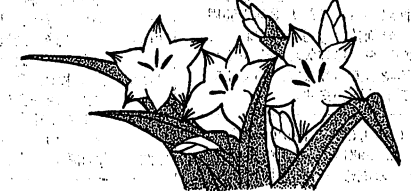
話が愚痴っぽくなってしまったので、そろそろ本題の埼玉学会に入るとします。今回の学会では学会の準備委員として第1会場のサブスライドを担当し、演題名・緊急の呼出などの映写を行ったのですが悔るなかれ、まったくもってこれが忙しかったっっっ……。第1会場のあの汚いスライドは野呂が書きました。すみません。）学会中は自分の仕事をする中で精一杯で発表の内容を把握することが出来ず、はつきり言ってもつけない気持ちがあったのですが、終わってみると近隣の病院の先生方と今後も公私ともによく働くといった具合になっておりました。埼玉学会を振り返りてみて、忙しくもありましたが多くの人脉をつくれたという点で大変に意義のあった学会でした。（学会後の同窓会も楽しかったです。今度はゆっくり最後までつきあいます。）遅ればせながら、全国各地より埼玉県大宮市にお越しいただき、どうもありがとうございました。また、発表なさった先生方、お疲れさまでした。埼玉に来たときは野呂を思い出してくださいね。よかったら、何もないところですけどお世話しますよ。

### 想像を絶する緊張感!!学会デビュー

14期生 山田 克彦 会員（所属：青森慈恵会病院）  
理学療法学科同窓会の皆様、初めまして。14期生の山田克彦と申します。去る5月16、17日の2日間、大宮市（大宮ソニックシティ）で行われた第32回日本理学療法士学会に参加することができましたので、その印象などを報告させて頂きます。全国学会という、学生時に手伝いとして参加した青森学会を除いて初めての学会でした。加えて今回、経験2年目にして学会デビューがいきなり全国学会となつてしまい、その緊張感も想像を絶するものでした。そのため、印象といわれても、「すげー」とか「お」といった印象しか残っていないというのが正直なところでした。  
学会当日（暑い）。会場の大宮ソニックシティは、ホール棟とビル棟の2つに大きく分かれていて移動が大変でした。その際にも有名な先生方とすれ違い、「あれが、…を畫いている〜先生だよ」と言われ、「何か別世界にいるような気分になってしまいました。今回、主に測定・評価の演題を聞くことが多かったのですが、KIN-COM等の機器を使ったものがほとんどで、実験場面におけるその使用方法などがユニークなものもあり、興味深く聞くことができました。夕方には、同窓会にも参加させていただきました。久しぶりに会う同期の友人の顔を見て、懐かしい思いながらもみんな頑張っているんだなぁ〜。自分も頑張らなくてはと良い刺激に感じたように思えます。

2日目（暑い）。発表会場では、見慣れた先生方の顔もあり、何となく落ちつめたものの、どこまで支援していただいたか、充実したものになくは〜がどうやら空振りしたようでした。発表自体は多くの反省点ばかりが残ってしまいましたが、今回このような形で学会に参加できたことは大変大きな収穫であり、これを次回へと結びつけていきたいと考えています。

編集 頼 南  
★梅雨入り宣言がたら夏真日になり、もうそろそろあけてもいいのではと思ったところへ梅雨前線停滞。皆さんカビはえていますか？  
★June Brideならぬ「ジュン台風」の日本上陸青森は直撃をまぬかれ、大雨だけにとどまりましたが、各地のみなさん被害はなかったでしょうか？  
★いつのまにか編集を担当することになりました笹館です。ですが、今現在、90%河原さんに頼り切っている状態です。ニュースの前途は多難の気配が……。（笹館）



## 第11回全国地域リハビリテーション研修会の案内

第11回全国地域リハビリテーション研修会がこの3月20・21日の2日間にわたり、秋田市にて開催されます。この研修会は、「福祉のまちづくりとノーマライゼーション」をテーマに理学療法士だけではなく、福祉・保健の従事者、障害者や一般市民を交え、地域相互の連携や社会の受け入れなどについて考えていこうという主旨で行われます。今後、公的介護保険制度施行を控え、どのように在宅サービスが変化するかも含め、いろんな角度から意見交換ができればと考えています。

多数の参加をお待ちしております。

- 【3月20日】
- 9:00～ 受付
  - 9:30～10:00 開会式
  - 10:00～12:00 基調講演「誰もが生き生きと生きていくために」 山本和義氏
  - 13:30～15:30 シンポジウム「機能訓練事業の現状と今後の在り方」
  - 15:50～17:20 特別講演1「病気の社会史」 立川昭二氏
- 【3月21日】
- 9:30～10:30 特別講演2「障害児教育の地域支援を考える」 今野和夫氏
  - 10:40～12:00 特別講演3「生きる喜びをともに」 市川禮子氏
  - 13:30～15:30 レポート「秋田における福祉のまちづくりについて」

※当日受付でも構いません。

プログラム、出張公文書、宿泊案内必要な方下記へご連絡下さい。

※問い合わせ先：〒019-2413 秋田県山形郡協和町上淀川字五百刈田352

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 高見 彰彦  
 TEL 0188-92-3751 FAX 0188-92-3757

## お知らせ

### 事務局連絡

### 地域活動実習に関するアンケートのお礼

対馬 均  
 昨年末にお願いしました地域活動実習に関するアンケートに御協力いただき、ありがとうございました。お陰様で、166名・59%の回収率がありました。お忙しいなか、思いがけず沢山の卒業生の皆さんからの貴重なご意見を寄せていただき、感謝しております。紙面を借りてお礼を述べたいと思います。現在、結果のとりまとめと執筆準備中ですが、PTジャーナル、32巻7号に掲載される予定ですので、ご期待下さい。

異動の時期になりました。郵送の都合もありますので、勤務先・自宅住所に変更があったりまだ届け出ていない同窓生の方は形式など気にせずに簡単に結構ですので、医短PT学科同窓会事務局宛にお送り下さい。

### 平成9年度理学療法学科同窓会総会開催のお知らせ

下記の日程で総会を開催致します。お忙しいことは存じますが、万障お繰り合わせの上、出席して下さいませようご案内いたします。

記

日時：平成10年3月16日(月)19時～  
 場所：理学療法学科5階研究室

## 1997年度を振り返って

### 1997年4月対馬先生PT学科教授就任!!

第4期生 一戸美代子会員(所属：弘前記念病院)  
 「対馬先生の教授就任を祝う会」が開かれたのは、平成9年8月8日のことでした。教え子を中心に発起人会を結成しましたが、準備は短絡関係者におんぶに抱っこ状態でした。不肖の教え子でしたが、私も発起人に名前を運ねさせていただきました。なぜか、会の司会なぞをやることになってしまい、不慣れな進行で申し訳なかったと思っています。沢山の方々にご出席頂きありがとうございました。80名にもなる参加者の方々、また沢山の祝福、お花などをよせて頂いた方々、本当にありがとうございました。終始なごやかに会を終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。本来であれば、会の様子の報告をすべきところですが、もう半年前のことですからね、ハハハ、豪華な料理も忘れてしまいました。

そこで、対馬先生の思い出でも勝手に紹介したいと思います。—1983年PT・OT「701」から—教官・新入生の自己紹介の冊子を部屋中ひっかきまわして掘り出して見ました。結構笑えます。対馬先生のあの丸っこい字で書いてあることをご想像願います。～好きな異性のタイプ・恋愛観～

◎天下のフェミニストここにあり、全ての女性を愛する。東京で臨床をしていた頃は、「パパ殺しの対馬」の異名をとっていた。人を愛することは素晴らしいことだと思います。カーチャンも愛していますよ。

～将来についての夢～

◎卒業生と学会で、演題とフロアに分かれて激論をかわすこと。そうなれるように精進したいと常に思っています。

～自己PR～

◎短気、インケン、根に持つタイプ、笑ってごまかすが注意を要する人物。

現在も変わらず愛妻家の対馬先生ではありますが、ご存じの通り4児のパパであります(私が学生の頃は「3児のあなた」と呼ばれていた)。ますます元気に後輩どもをご指導いただきたいものです。ちょっとPOWER DOWNしているような気もしますが、さて、卒業生の諸君、対馬先生の夢の実現をすべく、臨床に、研究に励みましょう。新しいことにどんどん挑戦しましょう。



## 青森県立保健福祉大学開設準備室に勤務して

### 第1期生 川口 徹会員(所属：青森県立保健福祉大学開設準備室)

様々な職域で理学療法士が必要とされてきています。大学で理学療法士養成コースを設置する場合も、準備段階から理学療法士が関わる必要とされ、かく言う私も、平成9年4月から青森県立保健福祉大学開設準備室に勤務し、青森県立保健福祉大学(仮称)の開設準備をしています。

本大学は、平成11年4月に青森市で開学する、看護学科、理学療法学科、社会福祉学科から保健福祉学部を構成する1学部3学科の大学で、理学療法学科を有する4年制大学としては、東北で初めてになります。現在、平成10年4月の認可申請に向けて、カリキュラムや実習計画を詰めています。「地域保健医療・福祉に関連する科目」や「他職種と連携を重視する科目」を多く配置しているのが理学療法学科カリキュラムの特徴となっており、公的介護保険にも対応できるようにとも考えています。建築も基礎工事が始まり、今年の新緑の季節とともに建物も「にょきにょき」と芽が萌え出すことになりました。

大学が担う役割は非常に多くのものがあります。理学療法士の輩出はもちろんですが、その他様々な教育研究活動があります。人間の持つ知的好奇心を源泉に持つ「真理の探究」を求めると同時に、自由な発想と自主性を尊重しながらの研究を進め、理学療法法のレベルアップに少なからずとも貢献できればと思っています。臨床の理学療法とうまく融合していければ、よりよいものが構築されていくに違いありません。経験主義の部分で多く語られる理学療法も決して否定できるものではありませんが、それを含めての科学性を求め、理学療法それ自身が学問として一人立ちしていけることを夢見しています。今は亡き、恩師菅原先生の言う「無限の可能性を信じて」を信条に、夢に近づきたいと思っています。

## 大学で生活で思うこと

### 第12期生 渡辺恵子会員(所属：東北大学大学院)

皆様お元気ですか。  
 私は、12期生の渡辺恵子という者です。現在東北大学の大学院に在籍しています。  
 私が所属している教室は、運動障害学講座肢体不自由学分野という名前です。昨年4月に修士課程に入学しました。1年ということなので幾つかの講義を受けたり、PTとして週3回午前中ですが、老人保健施設へアルバイトに行っています。

## 私のハッピー

教室では二つの勉強会に入り、病院でのデータ取りを行ったり、週に一度教室全体での勉強会に参加しています。

大学院ですからこれまでの学生生活とは違い、自分なりにテーマを決めていかなければなりません。今年は、2年生でいよいよ修士論文という大仕事が続いていますので気は抜けません。

大学院に入って思うことは、様々な研究に取り組んでいる人達と知り合い、少しは私自身の視野も広がっていくのではないかと感じます。その意味でも入学して良かったと思います。

PTとしては、老健に行っていますが、様々な人間模様が見え、限られた時間でどの様に対応していけばいいのか四苦八苦しながら仕事をしています。しかし、これからの高齢化社会という現実を考えると、PTの関わり合いがますます求められてくる場であるのかなとも思います。

今だに学生生活を続けている私ですが、これから先進んでいく道を見据えつつ前進していきたいと思っています。

先輩・後輩の皆様方、よろしくお願い致します。

## 編集後記～広報部からのお詫びとお詫び

今年度、3号発行の予定で昨年10月にも準備を進めており、原稿依頼をお願い致しましたが誰からも反応がなく、同じ時期に広報部長のお母さんがくも膜下出血で倒れるというハプニングがあり、部員の連携がうまく機能していないことも相まって、発行が流れてしまいました。紙面を借りてお詫び致します。原稿依頼を受けた会員の方は、立派な文章を書こうと構えずに簡単にでも結構ですので気軽に投稿して下さいませ、お願い致します。同窓会活動の大部分が、広報となっている状況にあって、部員育てが不慣れなことであって広報作成すら家内制手工業のような状況に陥っております。全国に散らばる会員の総会への出席は難しいことは承知しておりますゆえ、「名簿発行だけいい」とか「頑張って続けて欲しい」とか「郵便やFAXなど手間がかかって面倒だから、いっそ電子メールやホームページでアクセスできれば簡単お手軽でいい」とか「研修会はどうした!高知医療学院同窓会誌は学術誌だぞ!」といったような会員諸氏のご意見、叱咤激励を事務局まで寄せて頂ければ幸いです。(河)

## 福祉の現場から〜公的介護保険をめくって

第10期生 佐久間 留美 会員 (所属: 地域福祉センターなえつ)

皆様、お元気で過ごしてはるか？月日の経つのは早いもので、4年間の病院勤務を経て、地元の社会福祉協議会に勤め始めて2年が過ぎようとしています。おっかなびっくり、患者さんと接していた1年目を思うと、私もずいぶんずぶとなったものだなあ…と感じる今日この頃です。

さて、私が勤めているところは、地域福祉センターなえつというところで、在宅介護支援センター、B型・E型の老人デイサービス、身体障害者デイサービスの3つの事業が行われています。PTは私1人だけであり、地域で柔軟に(?)動けるスタッフが他にいないこともあり、時期によっては売れっ子芸者なみの忙しさを極めることもあります。

私の住んでいる山形県鶴岡市が、高齢者支援体制整備事業のモデル地区になっていたため、要介護認定に関する調査・審査、さらにはケアプラン作成までを市内4つの支援センターで行うことになりました。私自身の所属は支援センターではないのですが、同じフロアにいることや諸々の理由から、ケアプラン作成まで関わることになりました。11月初めにスケジュール表が渡されたのですが、頭の中では『除夜の鐘』が鳴り響いていました。ケアプランの作成では、私が提出したのは1ケースだけだったのですが、慣れないシートでのアセスメントやプランを立てる作業に、かなり時間をとられ、通常の業務をこなしながら時間内に仕上げることはできませんでした。また、ケアカンファレンスでは、皆が知らなかった部分を補い合うことが多く、非常に有意義なものでしたが、関係機関の日程調整や開催時間が制限されたりで、なかなか大変でした。「もしも、ケアマネージャーになれば、これが平常業務になるのかなあ」と考えた瞬間、過労死するかもしれない、と思いました。実際に保険が動き出した場合のコストマネジメントや要介護度変更の時の混乱ぶりを想像すると、保険で賄いきれない部分をどう支援していくか、体制づくりを始めなければならないと感じる今日この頃です。

ともすると、「今日が無事に終わればいい」という雰囲気になりやすい職場なのですが、少しずつ介護に関する問題意識が芽生えているような気がします。例えば、一人暮らしの家の除雪、緊急時の対応、在宅生活の維持etc…、地域が抱える問題は多種多様です。どこまで保険で解決できるのでしょうか。介護保険に関する研修で、必ずと言っていいほど「保険のためのケアマネジメントになってはいけない。当事者が決定権を持ち、当事者のためのシステムでなければならない」と力説されます。一人一人の対象者を大切に、少しずつでも要支援者に優しい地域づくりができればいいなあ…と、漠然とした想いだけが動いているような状態ですが、こんな私にも何かできるかもしれないと信じて、今日も訪問活動に出かけます。

## 社会人1年目の報告

第15期生 黒田 充子 会員 (所属: 七沢リハビリテーション病院)

同窓会の皆様、はじめまして。15期生の黒田充子です。卒業後、大所帯職場に籍を置いて早くも一年が過ぎようとしています。今回は新人一年目のフレッシュな近況を報告させていただきます。

よく「神奈川に就職したんじゃないか?」と聞かれますが、神奈川事業団は神奈川病院と脳卒中専門の七沢病院に分かれており、脳卒中を希望していた私は、40人近い先輩のいる七沢病院に配属になりました。関東といえど、四方を山に囲まれており、帰途中でタヌキに遭遇することもあるという、よくいえばとても自然環境に恵まれた所です。

さて、職場環境の話になりますが、基本的に何でも自由平等で、上下関係なし、性善なし、治療手技も千差万別です。現状に満足することなく、お互いに協力し、刺激合いながらよりオリジナリティーの高い訓練を目指しています。屋内には3つの訓練室、ME室、様々な環境を取り入れた広〜い屋外訓練場があり、一人のPTが担当する患者数は一日10〜12人と規定されています。福利厚生や新人教育もとても充実しており、とても恵まれた職場なのですが、私にとっては真つ暗闇の底なし沼で必死にもがいているように感じられる一年でした。一寸先も自分の足下も見えない苦しい毎日で、患者さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。今考えると、スタッフの殆どが西日本出身であること、自分の治療技術に対する不安、私自身のパーソナリティー(気分転換が下手・柔軟性の欠如・易固執性・周囲を気にし過ぎる…)、そして自由平等であるということの重さなどが次第に視野・思考範囲が狭まり、孤独感に苛まれるようになったのだと思います。また、少人数職場の方には怒られるかもしれませんが、あまり情報が多すぎるというのも大変なことです。先輩方は皆惜しみなくアドバイスして下さい、私も欲張って全て肯定的に吸収しようと思いましたが、しかし、先にも述べたように、一人一人理念も治療手技も異なるので、処理しきれなくなった私はパニック状態に陥り、身動きがとれなくなってしまいました。

でも、そのお陰で、私の欠点・弱さを周囲にさらけ出すことができ、余分な肩の力が抜けたように感じます。まだ真正面に向き合うことから逃けている問題は、気づいているだけでも山ほどありますが、自分のペースでゆっくり土台を築いていこうと思っています。

「そんなのまだ甘い」と感じていらっしゃる先輩方、これからスタートを迎える後輩の皆さん、そして同期の皆様、私にとって「弘大医短の卒業生である」ということは苦しい時ほど心の支えに感じられるものでした。学会や研究会などでお会いできることを楽しみにしています。

## 臨床実習を担当して『いわゆる最近の学生について』

第5期生 田畑 稔 会員 (所属: 東京都済生会中央病院)

アップロードをお読みの皆さんこんにちは、5期生の田畑です。短大を卒業し、10年経ち、一昨年から、短大でも理学療法技術学Ⅱ(心疾患の理学療法)の非常勤講師をさせていただいております。今まで指導した学生の変遷及び地域差が(例えば東京と青森のように)あるのか?という原稿の依頼をいただきましたので、思いつくままに書いてみたいと思います。

恐らく、全国的に「最近の学生はなっていない」と思っている方は多いと思います。私がそう思い始めたのは、数年前、某公立の短大から実習生を受け始めた頃からです。しかし、その後学校との如何に関わらず、変わっている(それは単なる自分の価値観からずれているだけなのですが)と思う学生は増えていきます。この現象は、年々、学生の意識の中では対人関係をうまく築こうとする努力をしないためと思われるのですが、近年の小中高校の教育システムや親の教育観の変化や時代の流れ(価値観の変化)も手伝って、学生だけを責めても仕方ないようです。よく患者さんの話から他の職種の状態を聞くとはほぼ同じようです。基本的に自分のことは気にかけても他の人のことはあまり気にならない(周りに気を配らない)あるいは自分を表現しないなどの事象は、一種、狭や性格の部分で、たった2ヶ月で変化させるのは、至難の技で、指導者がかなり時間を割いて指導しないとたぶん改善しないでしょう。そもそも我々が実習に出た時も、スタッフや患者さんにどのように接したらよいか?なんてのはわからなくて戸惑ったことはなかったでしょう。今の学生は当時の我々より、不特定の人間とすぐに慣れ親しむことは、とても不得意なことになってしまったようです。このことは東京の方が顕著で、当院の実習生にも積極性が足りない以前の問題という感じだったり、全くつかみどころのない人もいたり、学生は変わりつつありますが、よく患者さんの話から他の職種の評価がつくと、逆に最近では珍しい学生と評価されてしまいます(本当は当たり前なのでしょうが)。昨年から短大で、実習に出る前の学生と接してみて、さっぱりわからないはずの講義をしても、弘前の学生は身なりは今風でも、まだ少しは反応があり、「弘前マインド」が残っているように私は感じました。この辺のバイザーはうらやましいと思いましたが、実習の現場では短大では何をどう教えているのかと、言われることもよくある短大の教員は言っていました。確かに短大の教員も臨床の場面で直接教えることができれば、一番いいのですが、実際には、臨床実習の現場に学生を預けなければならず、我々臨床で学生を受け入れる立場としては、普段臨床で行っていることがいつか前にも感じているのですが、学校の中だけでは知る機会がない)で実習に出ます。しかも、関東地区は、8週間を2回しか実習しませんので、就職してから院内での卒業教育をしないと役にたちません。所詮、臨床実習は卒業教育カリキュラムの一つの段階で、学内での机上の学習から臨床の現場で患者さんを目の前にした実習(しかも業務訓練に近い形のもの)へと全く形態の異なる学習スタイルになることに学生が戸惑いを感じることに加え、バイザーの思いやり?のためにどんどん宿題を出して、レポートを課して、学生のうちしかこんなにできないよとか、そしてどくろに到達できたかか評価するのは、ますます、「最近の学生は…」になってしまっているのではないのでしょうか?10年前、当時相当の劣等生だった私もバイザーになって3年は、学生に課題をよ〜く出していたのですが、最近ようやく、できる学生とそうでない学生への課題の負荷方法が、体感的に何となくわかってきました。究極的には、権力学生が能動的に実習するように誘導できるバイザーにならないといけないでしょう。もし、学生時代の実習ノートが残っていたらもう一度見直して、自分の担当実習生と比べてみてください。自分の実習生時代あまりできなかったことがきつと確認できますよ。どうしても最近の学生というイメージでの先入観や第一印象から学生を見てしまいがちですが、まず、その先入観を取り払うために一つの提案として、なるべく努力して、毎日学生のいいところ、一つずつを見つけて実習ノートあるいは自分のエンマ帳にも書き残

## スーパーバイザーの立場から

してみてください。他人の批判は簡単にできるのですが、他人を誉めることはとても難しいことです。誉めてその気にさせる方法も一つの選択肢だと思います。いろいろ書きましたが、学生に課題を出すのもいいのですが、たまには自分と課題を課して、学会発表でもしてみませんか。全国学会での弘前出身者の発表が少ないような気がします。それでは、皆さんお元気です!

第4期生 藤田 茂子 会員 (所属: 青森県立さわらび園)

皆様、お元気ですか?ご無沙汰しております。早いもので平成の世も10年目になりました。最近、物騒な事件ばかり(子供が関係するもの)が目について、憂鬱になっています。近頃の子供はとても大人びた部分と幼い部分が入り交じっているように思います。重慶の庫書を持っている子供達って、大人を観察するものとはとても鋭いものがあって、驚かされます。PT・保母の実習生がやって来る時、最初は自分から眺めています。そして徐々にいたずらしたり、つねったりかじったり、よだれ攻撃から頭突きまで、いろんな試練を与えるのです。そして、反応を見ています。この人は自分たちをどう思っ接しているのか探っているのです。ここまでのいたずらは許せるけれど限度を超えたら叱る。というボーダーラインがあれば、どこまでエスカレートするのです。この叱り方も難しいのです。職員に言われたら泣かなくて、学生さんに言われたらおどろきに泣くこともしばしば。人の顔色を見ているわけです。逆に実習生のなかには、話せず動けない子供達を《も》のように扱った人もいて問題になりました。PTの実習生ではなかったのですが、少子化が進むなかで、小さい子供と接したことのない学生さんが大勢いることでしょう。重度身障児を見て戸惑うのが当たり前。それでも身構えず一緒に遊ぶ感覚から子供達と接してくれたらいいな、と思う今日この頃なんです。そのうえで、レポートもしっかり書いてもらえればさらにいいですね。子供が好きな方もちよつと苦手という方も一度書いてみて下さい。

## 悲しみの一年を乗り越えて

第8期生 熊谷 収子 会員 (所属: 老健施設シルバーケアセンターむつ)

97年1月、母は55歳の生涯を閉じました。無口でしっかり者の父と、よく笑う明るい母に育てられた私は、世間も、苦勞も知らずに幸せに育ちました。人の死に触れたこともありませんでした。

老人保健施設に勤めて今年で6年が経とうとしています。お年寄りが老いていく姿、病んでいく姿、そしてその命が終わる瞬間を少しは見てきたはずでした。人の死は、私の想像をはるかに越えた、重い、重い、重いものでした。初七日を終えて、魂のぬげがらが職場に向かったとき、ぬげがらを案じ、励ましてくれたのはお年寄りでした。私の手を、しわくぢやな手、やさしい言葉。お年寄りの余生の手助けをするはずの私は、お年寄りになぐさめられ、助けられました。私は、今まで、お年寄りの何をみてきたのでしょうか。

母が逝って1年が経ちました。まだ、母が「お帰し」で迎えてくれるような気がしてなりません。母は、幸せだったのだろうか。もっと母のそばにいたかった。もう少し母の娘でいたかった…。誰にとっても、家族を、最愛の人を亡くすることは、決して心から消え去ることのない大きな、大きな悲しみだと思います。皆様、どうぞ家族を、最愛の人を大切にしてください。私のように後悔することのないように…。

私もいつまでも悲しんでいられません。私を待っているお年寄りのために頑張ろうと思います。97年に頑張れなかった分も。

